

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

施設名称	沖縄県国営沖縄記念公園内施設 (海洋博覧会地区内施設)	対象年度	令和6年度
------	--------------------------------	------	-------

【目次】

I. 履行確認・評価	
1. 維持管理業務	1
(1) 施設維持管理	
1) 維持修繕・保守点検	
2) 清掃	
3) 植物管理	
(2) 大規模修繕	
(3) 防犯・防災対策	
(4) 利用者案内・警備	
2. 運営業務	13
(1) 利用実績	
1) 利用者数等	
2) 施設稼働率	
(2) 運営企画	
(3) 料金収受	
(4) 飼育展示	
1) 水族館内	
2) 海獣施設	
(5) 生物等管理	
(6) 調査研究	
(7) 普及啓発	
(8) 飲食・売店営業	
1) 飲食施設等	
2) 物販施設等	
3) 自動販売機及びコインロッカー	
4) 記念写真の撮影販売	
5) オンラインショップ（ECサイト）の運営	
6) 環境への配慮、SDG s に関する取組み	
(9) 広報・誘客	
(10) 受付・接客	
(11) 情報管理	
3. 自主事業	57
II. サービスの質の確認・評価	71
III. 財務状況の確認・評価	73
1. 事業収支	
(1) 収入	
(2) 支出	
2. 経営分析指標	
IV. 総合評価	76
1. 目標	
2. 評価結果	
附表 経営状況分析シート	77

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

施設名称	沖縄県国営沖縄記念公園内施設 (海洋博覧会地区内施設)	対象年度	令和6年度
指定管理者	一般財団法人沖縄美ら島財団 指定期間：令和5年2月～令和10年3月	所管課	土木建築部 都市公園課

I. 履行確認

1. 維持管理業務

(1) 施設維持管理

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
維持修繕・保守点検						
1)建物・設備等の維持修繕・保守点検 ①水族館 a.保守・点検・維持・修繕 建物・設備・工作物が常に安全で良好な状態を維持するため、法令に基づく点検等に加え、自主的に管理する項目を定め保守点検等を行い、適切に修繕等を実施する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・10月 水族館エスカレーター1号機（3階-1階下り）にて、利用者数等の増に伴う部品の摩耗が原因で、ステップリンクとステップチェーンの伸びが大きくなり安全装置に触れて停止する頻度が多くなったことから、仮修繕実施期間として10/28から11/15まで一時運休した。尚、令和6年度水族館エスカレーター整備業務にて、ステップリンクの交換を行い、正常状態。	・月報及びヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・全体的に施設・設備の老朽化が進んでいることから、継続して施設及び設備の状態を監視し、適宜補修・修繕を行う必要がある。
b.水槽の保守 水槽や漏水の状態は、独自に定める「水槽定期点検要領」により定期的に点検し、水中からの水漏れ補修やアクリルガラス研磨を適宜実施する。			【業務計画書のとおり実施】 ・「サンゴ礁への旅」水槽、「熱帯魚の海」水槽、「黒潮の海」水槽の水漏れについて、漏水した海水が観覧に支障が出ないよう導水されているか、巡視等による点検を行った。 ・12月 「熱帯魚の海」水槽3枚目アクリルより海水滲み発生。水槽内のシーリングを補修し海水滲み止まった。 ・12月 「サメ水槽」右側アクリルで海水漏水発生。水槽内のシーリングを補修し海水漏水量低下、現在様子見中。			
c.水質管理 周辺海域において異常（台風接近及び海洋事故）が無い場合を通常状態とし、設計流量を基に過去実績に基づく独自の「水処理設備等運用基準」「海洋汚濁対策マニュアル」に従って、海水取水量の調整、取水ろ過器や展示槽ろ過器の機器操作を行い、水質を適切に管理する。			【業務計画書のとおり実施】			

d. 点検記録の作成・保管 独自の「点検マニュアル」により、法令・自主点検を遅滞なく正確に実施し、点検結果を記録し保管する。また、この記録をもとに管理台帳を作成し、必要に応じて追加修正を行う。 給水施設や電気施設の使用量について毎日計測し記録を行う。			【業務計画書のとおり実施】			
e. その他 省エネ法に基づき、定期報告書の作成及び必要な基礎データの整理、エネルギー管理員の配置、効率的な機器の運転及び省エネ製品やトップランナー機器の導入等、省エネ活動により総電気使用量の削減に努め、エネルギー使用の合理化を図る。			【業務計画書のとおり実施】 ・省エネ法にもとづき、定期報告書を作成し県へ提出した。 ・照明器具のLED化等のエネルギー使用の合理化を図った。			
②生物飼育施設等関連施設 水族館同様、各施設が常に安全で良好な状態を維持するため、法令に基づく点検に加え、自主的に管理する項目を定め保守点検等を行い、適切に修繕等を実施する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・ウミガメ館メイン水槽にてアクリル観覧側の漏水は止まっているため様子見中。大規模修繕令和6年度ウミガメ館・水族館生物飼育設備等改修工事（年度繰越して工実施中）にてシーリング補修を予定。 ・12月 埋設海水取水配管（口径500A）1箇所に、ライニング剥がれが原因と思われる漏水があったため、配管を取替えた。本作業時に隣の系統の海水取水配管（口径500A）1箇所でも漏水が確認されたため、令和7年度に配管取替を予定する。	・月報及びヒアリング等により確認した。 ・現地に状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・埋設管の水漏れは、取水部・受水部それぞれの水量のチェックをすることで経過観察を続ける。
③その他施設 水族館同様、各施設が常に安全で良好な状態を維持するため、法令に基づく点検に加え、自主的に管理する項目を定め保守点検等を行い、適切に修繕等を実施する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。 ・現地に状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) 運転・監視 ①水族館 中央監視盤等で日々の安全運転を確保し、適宜、巡回点検・保守等を行う。また、館内混雑時には滞留状況を確認し、館内を常に良好な状態を維持するため、適切に対応する。加えて、運転監視についての点検記録を適正に作成し保管する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・水族館の中央監視室に配置した昼間7名夜間3名の運転・監視員により中央監視盤にて、生物飼育設備、空調調和設備、電力量等の監視を行う等、日々の安全運転を確保した。また開場に向けて、照明点灯や空調機・昇降機等の稼働等を点検した。	・月報及びヒアリング等により確認した。 ・現地に状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

<p>②生物飼育施設等関連施設</p> <p>イルカショー演出のための機器操作及び管理を行う。また、生物飼育施設等関連施設の電気機械設備や通信映像設備等、運営に必要な機器の監視や適宜、巡回点検・保守等を実施し、安全運転を確保する。加えて、点検記録を適正に作成し保管する。</p>	○	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>R5/9/1より実施していたオキちゃん劇場観覧スタンド屋根等修繕工事がR6/12/15に完了したため、12/16よりオキちゃん劇場にてショーを再開、併せて機器操作等も再開した。</p> <p>・非常用発電所の中央監視室に配置した昼間3名（イルカ周辺担当2名・その他施設担当1名）夜間1名（イルカ周辺とその他施設）の運転・監視員により中央監視盤にて、生物飼育設備、空気調和設備、電力量等の監視を行う等、日々の安全運転を確保した。また開場に向けて、照明点灯や空調機・昇降機等の稼働等を点検した。</p>	<p>・月報及びヒアリング等により確認した。</p> <p>・現地にて状況を目視確認した。</p> <p>・オキちゃん劇場の修繕工事後の状況について、工事後の不具合はないことを確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>③その他施設</p> <p>その他の施設に関して、電気機械設備や通信映像設備等、運営に必要な機器の監視や適宜、巡回点検・保守等を実施し、安全運転を確保する。加えて、点検記録を適正に作成し保管する。</p>	○	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>・非常用発電所の中央監視室に配置した昼間3名（生物飼育施設等関連施設担当2名・その他施設担当1名）夜間1名（生物飼育施設等関連施設とその他施設）の運転・監視員により中央監視盤にて、生物飼育設備、空気調和設備、電力量等の監視を行う等、日々の安全運転を確保した。また開場に向けて、照明点灯や空調機・昇降機等の稼働等を点検した。</p>	<p>・月報及びヒアリング等により確認した。</p> <p>・現地にて状況を目視確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>3) 自家用電気工作物の維持管理</p> <p>本業務区域内の各施設に設置された自家用電気工作物については、海洋博公園の電気工作物設置者（もしくはみなし設置者）から選任された電気主任技術者の指示に従い、「自家用電気工作物保安規定及び細則」を遵守し、自家用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安業務を行う。なお、電気主任技術者配置に係る応分の費用等について負担する。</p>	○	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>・電気主任技術者配置に係る応分の費用等について負担した。※公園全体で1名の電気主任技術者を国営が配置。海洋博公園高圧受変電設備 変圧器設備容量比率を基にした、62%分の人件費を負担。（国営エリア：県営エリア＝5,085KVA：8,185KVA＝38%：62%）</p>	<p>・月報及びヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

清掃						
建物清掃（建築物ねずみ等防除、調査の法令作業含む）及び植栽地等清掃は、令和6年度安全衛生管理計画（別紙1）に基づき実施する。また、園路の塵芥、空き缶及び土砂等の除去、雨水等による汚れを掃除し、必要に応じて水洗浄を行う。実施にあたっては、利用頻度等を考慮し、管理運営上必要な臨時清掃や特別清掃を行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・土砂や雨水等による汚れ掃除、水洗浄は無かった。 ・7月に水族館の屋外階段（琉球石灰岩）及び北ゲート駐車場1階エレベーターホール（タイル）のコケ落としの特別清掃を行った。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
植物管理						
令和6年度安全衛生管理計画（別紙1）に基づく樹木・地被・芝生の管理に加え、フラワーボール、壁面装飾、観葉植物や熱帯花木を用いて、期間を通じて南国らしい花修景を演出する。また、樹名板を設置し沖縄の草花や樹木の情報や解説の提供に努める。加えて、ジンベエザメ等展示生物をモチーフにした大型造形花壇の設置、海への眺望を際立てる植栽の整序等を行い、本施設に相応しいフォトスポットとなる景観を創出する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・樹名板に加えサイネージにより、沖縄の草花や樹木の情報や解説の提供を行った。 ・9月から水族館及び公園利用者の大半が利用する北ゲート駐車場周辺に植物による修景展示を行い、水族館及び公園施設への期待感の演出・醸成、利用者満足度の向上を図った。	・月報及びヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(2) 大規模修繕

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
大規模修繕						
(1)大規模修繕の立案協議 令和6年度大規模修繕年度実施計画（別紙2）のとおりとする。 また、変更が必要な場合は事前に県と協議するものとする。			・令和6年度の大規模修繕について、県と協議を行い立案した。 ・下記の大規模修繕等工事の発注業務を行った。 令和6年度水族館飼育用ポンプ類整備業務（年度内完了） 令和6年度水族館エスカレーター整備業務（年度内完了） 令和6年度大規模修繕工事（R7）実施設計等業務（年度内完了） 令和6年度海水取水管内体積砂れき排砂工事（年度内完了） 令和6年度非常用発電所発電機点検整備業務（年度内完了） 令和6年度水族館取水ろ過ろ材等整備業務（年度内完了）	・事業計画書、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・国や県の工事・設計基準等を遵守しながら、良好に実施できている。

<p>(2)大規模修繕等工事 (工事設計・監理含む)発注にかかる業務 大規模修繕にかかわる 工事(工事設計・監理 含む)の発注業務を行 う。業者選定にあつて は、「水族館の改 修・新築の経験を有す ること」「利用者の安 全を最優先した万全な 施工計画を立案できる こと」「突発的な故障 や不具合に迅速かつ適 切に対応できること」 「価格面等で事業安定 性に貢献できること」 等を重要視する。な お、発注にあたって は、実施が同時期の類 似工事は一つにまとめ て発注、メーカーや複 数社による見積等によ る価格精査、指名競争 入札や一般競争入札等 により経費縮減に努め る。</p>	○	○	<p>令和6年度陸上畜養施設屋上 改修工事(年度繰越して工事 実施中) 令和6年度水族館海人ゲート トップライト整備工事(年度 繰越して工事実施中) 令和6年度ウミガメ館・水族 館生物飼育設備等改修工事 (年度繰越して工事実施中) 令和6年度 大規模修繕工事 意図伝達業務</p>			
<p>(3)大規模修繕等工事 業務、大規模修繕等工 事設計・監理業務 全ての施設・設備・シ ステム等を対象に要求 性能、工期、安全等を 確保した、品質確保体 制のもと工事を実施す る。また、必要に応じ て工事設計者又は工事 監理者を決定し、業務 を実施する。</p>			<p>・下記の令和5年度の大規模 修繕について、施工及び監理 業務を実施した。 令和5年度 オキちゃん劇場 観覧スタンド屋根等修繕工事 令和5年度 オキちゃん劇場 観覧スタンド屋根等修繕工事 監理業務</p>			

(3) 防犯・防災対策

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
緊急時における対応とマニュアル等の整備						
1)事故防止・迷惑行為等禁止 本施設の使用状況を適宜把握するとともに、必要に応じ、施設利用者に注意指導を行う等適正な管理に努める。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・施設の使用状況を監視モニター及び入退場管理システムを活用し適宜把握し、デジタル無線機等で他部署と連携して情報共有を行った。 ・館内の混雑状況に応じ蛇行入場させる等、混雑緩和と危険防止に努めた。 ・団体客の集中時間等に一時的に混雑する時間帯があり、入場規制を実施した。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

2) 事故・震災等への対応マニュアル、職員参集・備品類準備 夜間早朝等の営業時間外も含め、事故及び台風等の自然災害・震災等への対応マニュアル、職員参集や連絡網について整備し、必要な備品等を準備する。 また、緊急時に備えた訓練・研修を実施する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・事故や震災等の緊急時に備え訓練を実施した。 4～3月：普通救命講習（心肺蘇生、AED使用訓練） 4～3月：避難誘導訓練 5/20～6/7：消防部分訓練（図上訓練、消防設備機器使用訓練等） 7/2：消防総合訓練 10/29：北ゲート立体駐車場消防訓練（総合訓練） 10/31：津波避難訓練 11/5：沖縄県広域地震・津波避難訓練 11/7：情報伝達・非常参集訓練 12/4：海洋博公園テロ対策訓練（警察署・消防署合同） 2/25：消防夜間訓練 3/12：人対象・生物対象テロ訓練	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・近年、電気自動車の火災が懸念されることから、新たに立体駐車場での車両火災を想定した訓練を実施している。今後も様々な事態を想定した訓練を検討していく必要がある。
3) 事故・災害発生時における緊急体制の整備・対応 事故や災害が発生した場合は、緊急連絡体制（IV 3(1)参照）に基づき迅速かつ確に情報を伝達し、利用者の安全確保、避難誘導等を行う。負傷者が発生した場合は、迅速にその救済・応急処置をとり、現場の状況や社会的影響、瑕疵の有無等に応じて緊急度・重要度をランク付けした基準に基づき、速やかに県に報告する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・救急車要請：14件 ・9/8にレストランイノー及び9/28にモーレマールで発生した食物アレルギー事故は、財団側に瑕疵があることから緊急連絡体制に基づき速やかに沖縄県へ報告し、原因究明と再発防止策について調整を行った。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
点検・監視、衛生管理						
1) 法令に基づく項目 空気調和関連機器、消防設備、昇降機、自家用電気工作物等における法令に基づく点検について、必要資格を持つ技術者等を配置し、遅滞なく確実に実施する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) 自主管理項目 冷熱源機器、水処理設備、展示設備、電灯動力設備、電話設備、車椅子、防犯カメラ、自動ドア、外灯、入退場管理システム等において、自主点検項目を定め、遅滞なく確実に実施する。また、食品等衛生管理にかかる自主管理項目を定め、衛生管理、衛生点検、教育等を実施する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も安全衛生管理計画に基づき、法定点検、自主点検を継続実施する。

3) 記録の作成・保管 管理の記録を作成し保管する。また、この記録をもとに管理台帳を作成し、必要に応じて追加修正を行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
---	---	---	---------------	---------------------	-----------------------	--------------

(4) 利用者案内・警備

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
接遇・多様な利用者サービス						
1) 接遇マニュアルによる基本対応と臨機応変な対応 独自の従業員ガイドブックや接遇マニュアルにより、スタッフ全員が挨拶・身だしなみ・接客・苦情対応・電話対応・案内誘導・近隣施設案内等の基本について共通認識を持って対応するとともに、お客様の要望に合わせ、臨機応変に案内誘導を行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・日報、案内員配置表、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) 実務研修と資格取得の奨励 接客・接遇、外国語等の実務研修を実施するとともに、「サービス接遇実務検定」「サービス介助士資格」等の資格取得を推奨し、サービスの質の向上を図る。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・新規採用者を対象とした接遇等にかかる内部研修を実施、職員のスキルアップに努めた。(継続) ・11月にサービス接遇実務検定18名、12月にサービス介助士資格14名が新規で資格取得した。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

3) 適切な混雑時対策 スタッフへ団体予約情報を周知し事前対策を行うほか、入退場管理システムによる館内滞留状況を把握し、多客時はマニュアルに従って入場規制等を実施する。また、混雑軽減のため事前にホームページや美ら海アプリで情報提供を行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・スタッフミーティングを実施し、団体予約状況の確認及び繁忙時に備えスタッフの配置を強化し利用者に対する満足度の向上に努めた。(継続) ・施設の使用状況を監視モニター及び入退場管理システムを活用し適宜把握し、デジタル無線機等で他部署と連携して情報共有を行った。(継続) ・館内の混雑状況に応じ蛇行入場させる等、混雑緩和と危険防止に努めた。(継続)	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
4) 迷子への対応 迷子や迷い人の発生時には、国営公園管理業務受託者との連絡体制の下、園内放送や無線により情報を共有のうえ連携して捜索を行い、状況によってはスタッフによる園外周辺の捜索や警察への依頼等、臨機応変に対応する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
5) 苦情や不当要求に対する対応 利用者からの苦情等のうち、調整・検討を必要とする案件への対応は、職員間で共通認識を持ち、誠実に対応する。また、不当要求への対応は、利用者の意見等を聴取し事実関係を確認したうえで、法令に基づき一貫した対応を行う。なお、必要に応じて、財団本社や警察等、関係機関と連携し対応する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・不当な要求はなかった。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・電話やメールなどできた苦情に関しては、お客様の声委員会で情報共有し対応を検討している。引き続き誠実な対応に努める必要がある。

バリアフリー対応						
1) ソフト・ハード両面からの対応策 障害者、高齢者、幼児、海外客等、多様な利用者層に対し、全ての利用者が快適に楽しく過ごせるよう、サービス介助士資格を持つ案内員によるヒューマンサポートや、車いすおよびベビーカーの貸出、多言語対応等を行う。また、顕在的ニーズへの対応に加え潜在的ニーズを発掘することで、ソフト・ハード両面の更なる改善や充実、管理運営に活用する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・館内アンケートや日々の接客等から収集したお客様の声に対して情報共有を図り管理運営に活用した。（継続）	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) 多様な利用者に対応したインクルーシブデザイン思考の取入れ 利用者が求めている顕在的なニーズへの対応は、リードユーザー（障害者、高齢者、幼児、海外客等）とともに、多種多様な潜在的ニーズを発掘する調査を行い、本施設の改善やスタッフ教育等の運営に活用する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・WEBアンケートを継続して実施し、お客様からの意見等を取りまとめ、多種多様な潜在的ニーズを発掘し、職員間で共有するとともにより分かりやすく案内に努めるようスタッフ教育等で改善・活用を行った。（継続）	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
3) メイク・ア・ウィッシュ等団体の受入れ 難病と闘う子どもたちの夢をかなえる活動に協力し、利用を希望する子どもたちの受入れを行う。	○	○	・令和6年度の受入はなし。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・受入実績はないが、依頼があれば対応できるよう体制を整えている。	・次年度以降、受入依頼があった場合に積極的に受入れできるよう、引き続き体制を整える必要がある。

適切な案内員配置						
1)案内員の役割（案内・利用者サービス・盗難・拾得物・遺失物・災害等への対応）利用者等の案内や苦情・要望、迷子、盗難、事故、拾得物・遺失物、災害等の非常時に適切に対応できるよう、マニュアルに基づく対応や接客マナー研修、防災訓練等を受けた案内員を適切に配置する（別紙4案内員・警備員等配置）。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2)混雑時や緊急時の増員体制 催事の実施日・団体予約状況等により予め混雑が予想される日や、天候の急変、災害発生時等の緊急時に、案内員等を増員し対応する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・催事の実施日には増員を行い、混雑時や緊急時等においては事務所スタッフにより応援に行くなど臨機応変に対応した。（継続）	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
警備業務						
1)適切な警備体制の構築による安全・安心の確保 独自のマニュアルを基に、事件・事故対応を行うほか、監視システムにより24時間体制での防犯・防災に取り組む。また、警察署と連携してテロを想定した訓練等を実施し、誰もが安全・安心に利用できる公園環境づくりを行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・警備員は24時間配置とし、夜間はモニター監視業務を行った。（継続） ・12月に海洋博公園全体でテロ訓練を実施した。（継続）	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2)警備員の配置、案内員と連携した業務実施 水族館館内やオキちゃん劇場等、混雑が見込まれる施設で、事件や事故等が発生することを未然に防ぐために、警備員で巡回を行う。また、水族館事務所職員や案内員と無線等を活用し業務を実施する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

駐車場運営					
1)安全で効率的な入庫誘導 ①立哨指導による入庫誘導 無線等により入庫状況の伝達を迅速に行い、利用者の安全と快適な駐車場利用を提供する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
②データに基づく注意喚起の実施 安全かつ利便性の向上のため、これまで蓄積された駐車場管理に関するデータを活用し、場内の照明の増設及び照度等の見直し、誘導看板の電光化、路面の矢印表示の蛍光化等を実施する。			【業務計画書のとおり実施】 ・駐車場管理に関するデータを整理・活用し、安全かつ利便性の向上のため、車両の走行方向と逆の路面矢印のある箇所（建設時とは駐車場運用形態が変更されたため）について、これまで立哨警備で対応していたが、一部ゴムマットを敷いて目隠しした。引き続きゴムマットを敷いていく。（新規） ・矢印を電光化した誘導看板を増設した。（継続）		
③ICTを活用した効率的な駐車場案内及び情報提供 駐車場情報をホームページや美ら海アプリで配信し、スムーズな誘導案内と駐車場内の安全確保を行う。また、駐車場内外の表示に多言語やピクトサインを活用し円滑に誘導を行う。			【業務計画書のとおり実施】		
2)混雑時・満車時の対応 ①地域と連携した駐車場確保や混雑時の警備員増員 大型催事の実施日や予め混雑が予想される日については、国営公園管理業務受託者と連携し、近隣での臨時駐車場の確保に努める。また、警備員等を増員し駐車場誘導を行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・7/13：海洋博公園サマーフェスティバル	・月報及びヒアリング等により確認した。	・良好に実施できている。
②公共交通機関と連携した混雑緩和策の実施 高速バスや周遊バス等の公共交通機関と連携し、利用者の利便性向上と道路混雑緩和に努める。			【業務計画書のとおり実施】 ・本部町が運行する町内周遊バスについて沖縄美ら海水族館内で情報発信し利用者の利便性向上と道路混雑緩和を図った。（継続）	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	
③国営公園駐車場への駐車車両の分散化 立体駐車場の満車時や水族館内の混雑時には、立体駐車場の利用規制を行い、国営公園管理業務受託者と連携し、国営公園駐車場へ車両を誘導案内することで、駐車車両の分散化を行う。			【業務計画書のとおり実施】		

③緊急時の対応 ①各機関と連携した災害等非常時の適切な対応 災害等による緊急時及び避難時には国営公園管理業務受託者や県との円滑な連絡体制の下、各自治体や警察、消防等と連携し対応を行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・4/3：津波警報発令により危機管理マニュアルを基に、国営公園管理業務受託者や県との円滑な連絡体制の下、お客様及び職員の避難誘導を実施した。 ・危機管理マニュアルを活用し、災害等による緊急時及び避難時に備えた。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
②事故発生時における二次災害防止 駐車場内での事故発生時には、職員が現場で指揮を執り、多重衝突事故や火災等二次的な事故発生の防止、救護や誘導等人命を最優先とした適切な対応を行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・事故処理件数：79件			
③荒天時における駐車場への送迎等の対応 急な天候の変化による荒天時においては、利用者が水族館等から駐車場への移動が困難な場合は、マイクロバス等で送迎を行い、利用者へ安全と安心を提供する。	○	○	・急な天候の変化による荒天時が無く、マイクロバス等での送迎は無かった。			

※必要に応じて項目を追加・削除して記入すること。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

1. 維持管理業務 取組改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な施設の老朽化が進んでおり、点検による早期把握、優先順位を明確にした修繕対策等が重要になっていることから、引き続き県・指定管理者・国で調整を行いながら修繕を実施する必要がある。 ・利用者の増加により混雑する日が増えていることから、館内の滞留状況を適宜確認し、混雑緩和に向けて案内員の適切な配置や入館時の蛇行入場等に努める必要がある。
--------------------	---

※「1. 維持管理業務」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度（R6年度）の主な取組改善案を記入すること。

2. 運営業務

(1) 利用実績

1) 利用者数等

		令和5年度実績	事業計画 (目標値)	令和6年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
利用者数	個人利用者数	2,425,162	-	2,848,061	117.4%	-	・コロナ禍からの回復と入域観光客数の増加等に伴い、利用者数は計画に比べて増加した。
	団体利用者数	530,930	-	590,475	111.2%	-	
	合計	2,956,092	3,200,400	3,438,536	116.3%	107.4%	
	教室・イベント参加者数 (内数)	10,730	-	12,644	117.8%	-	・良好に実施できている。

評価 (①利用状況)

A

【評価基準 (①利用状況)】

目標値に対する達成率

S : 110%以上

A : 100%以上、110%未満

B : 80%以上、100%未満

2) 施設稼働率

		令和5年度実績	事業計画 (目標値)	令和6年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
平均稼働率		362日	363日	365日	100.8%	100.6%	・12月の2日間を定期施設点検の休場日と計画していたが、多客日対応等のため、開場した。 ・台風による休場は無かった。
平日稼働率		244日	245日	247日	101.2%	100.8%	
土日祝日稼働率		118日	118日	118日	100.0%	100.0%	

施設稼働率を①利用状況の評価項目とする場合に本欄を使用する。

評価 (①利用状況)

-

【評価基準 (①利用状況)】

目標値に対する達成率

S : 110%以上

A : 100%以上、110%未満

B : 80%以上、100%未満

C : 80%未満

(2) 運営企画

事業計画	実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	(事業報告書)	(現地確認)		
入場者数目標値				
令和6年度における入場者目標値を3,200,400人に設定する。	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度の入場者数は3,438,536人で、目標値3,200,400人に対し238,136人の増(107.4%)、令和5年度実績値2,956,092人に対し482,444人の増(116.3%)となった。・8月16日には入場者数6,000万人を達成した。・国内では、一般客や修学旅行を含む団体客の旅行需要が高まったことにより、増となった。・国外では、円安の影響により、台湾・韓国・中国等からの外国人観光客も増加傾向であった。・令和5年度は台風の影響により8月に4日間の休場日があったこともが、令和6年度は台風による休場日がなかったため、増加の要因となった。・4/27～5/6のGW期間、8/1～8/31のナイトアクアリウム期間、12/24～1/13の冬休み期間におけるイベントや、3月のジンベエザメ「ジンタ」の飼育30年に合わせた催事を実施し誘客を図った。・イルカショーにおいては季節ごとに合わせたショーを、水槽展示では企画展示を実施し誘客を図った。(継続)	<ul style="list-style-type: none">・売上報告書、月報等により確認した。	<ul style="list-style-type: none">・業務計画書のとおり適切に実施されている。	<ul style="list-style-type: none">・良好に実施できている。・利用者の増加により混雑する日が増えていることから、入場時間の平準化に取り組み、満足度向上や事故防止に努める必要がある。混雑緩和対策として、公園内の他施設と連携した施策等を積極的に検討する必要がある。
営業日時・休場日				
<p>1)水族館等の営業日・営業時間</p> <ul style="list-style-type: none">・水族館及び総合休憩所通常期：8時30分～18時30分繁忙期：8時30分～20時00分GW期間：8時10分～20時00分ナイトアクアリウム期間：8時30分～21時00分・海獣施設及びウミガメ施設通常期：8時30分～17時30分繁忙期：8時30分～19時00分GW期間：8時30分～19時00分ナイトアクアリウム期間：8時30分～19時00分・駐車場通常期：8時00分～19時00分※4/1～9/30、3/1～3/31は8時00分～19時30分繁忙期：8時00分～20時30分GW期間：8時00分～20時30分ナイトアクアリウム期間：8時00分～21時30分・上記以外の施設通常期：8時30分～17時30分※4/1～9/30、3/1～3/31は8時30分～19時00分繁忙期：8時30分～19時00分GW期間：8時30分～19時00分ナイトアクアリウム期間：8時30分～19時00分	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度の営業日は、4/1～3/31とした。営業日数：365日(平日247日、土日祝日118日)・MICE及びウェディングの実施期間は、繁忙期・GW期間・ナイトアクアリウム期間を除き通年とした。令和6年度の受入は、MICE15件、ウェディング7件であった。・開場時間の変更申請を行い、通常期(4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31)、繁忙期(4/27～5/2、5/6、7/20～7/31)、GW期間(5/3～5/5)、ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31)の営業とした。・7/13は「海洋博公園サマーフェスティバル2024」開催に伴い開場時間の変更申請を行い、23時まで営業時間を延長した。	<ul style="list-style-type: none">・売上報告書、ヒアリング等により確認した。	<ul style="list-style-type: none">・業務計画書のとおり適切に実施されている。	<ul style="list-style-type: none">・良好に実施できている。

<ul style="list-style-type: none"> ・開場は8時30分とし、閉場は閉園時間の30分前とする。 ・入場券発売は、原則として閉場時間の1時間前に終了する。 ・MICE及びウェディングプランの実施期間は通年とする。ただし、休場日及び水族館が特に定める日を除く。実施時間等は各実施要領に基づくものとする。 ・通常期を4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31とし、繁忙期を4/27～5/2、5/6、7/20～7/31、GW期間を5/3～5/5、ナイトアクアリウム期間を8/1～8/31とする。変更する場合は、沖縄県土木建築部都市公園課（以下「県」という。）へ年度業務計画書の変更協議と併せて開場時間の変更申請を行う。 ・台風や催事企画による繁忙日等特別な場合の開場及び閉場時間の変更については、県と調整し、必要な手続きを行う。 				
<p>2) 休場日</p> <p>休場日は12月の第1水曜日とその翌日とする。なお、台風等により休場する必要が生じた場合や休場日を変更する場合は、県と調整し必要な手続きを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県と協議を行い、令和6年度の休場日（12/4、5）を中止とした。 ・台風等による休場日はなし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上報告書、ヒアリング等により確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。

(3) 料金収受

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
<ul style="list-style-type: none"> ・一般 大人：2,180円、中人（高校生）：1,440円、小人（小・中学生）：710円 ・団体（20人以上） 大人：1,730円、中人（高校生）：1,140円、小人（小・中学生）：560円 ・年間パスポート 大人：4,360円、中人（高校生）：2,880円、小人（小・中学生）：1,420円 ・小学生未満については入場料を無料とする。 ・身体障害者手帳・療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者で、手帳の提示のあった本人及びその介護者1名についてはそれぞれ無料とする。 ・その他、入場料金の減額及び免除については、減免規程に定める。 ・業務入場については、別途、業務入場要領に基づき実施する。 	○	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を目的とする行催事等で入館する県内学生（小・中・高校）については入館料を免除とした。（R5/10/1運用開始） <p>令和6年度実績：504件21,063人 令和5年度実績：400件14,418人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月報及びヒアリング等により確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。

経理管理・金銭管理						
1) 入退場管理システムによる売上管理 チケットの発券・入退場者のカウント・入場料売上は、入退場管理システムでデータ化し、一元的な経理管理を行う。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) 観光券（クーポン・パウチャー・WEBチケット）等の取扱い 旅行社と観光券契約を締結し、旅行社を通じて入場券が販売できる観光券（クーポン・パウチャー・WEBチケット）を取り扱う。水族館単独の観光券のほか、海洋博公園施設や電気遊覧車と組み合わせたセット券も取り扱う。また、企業の共済事業に対し、福利厚生施設利用契約を締結し、利用券を取り扱う。 観光券等での売上は月締めで債券調書を作成し、未収金を管理する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
3) 園外販売券の販売 利用者が来場前に入場券を購入できるよう、沖縄県内のコンビニエンスストアや旅行社等と園外販売券販売契約を締結し、園外販売券を販売する。また、販売促進ツールを製作し配布することで利用促進に努める。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・9/25に株式会社OKIKANG（旅行サービス手配業）と園外販売券の新規販売契約を締結し販路拡大を図った。 ・コンビニエンスストアに設置されているマルチコピー機でのQRコード連携チケットの発券及び販売に向けて調整を行い、テスト販売を実施した。 ・園外販売券の運用変更について調整を行い、令和7年度4月からの運用開始に向けて契約業者と手続等を行った。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
4) 年間パスポートの販売 発行日から1年間何年度でも入場可能な年間パスポートを販売するほか、贈答等に利用できる年間パスポート引換券を販売する。年間パスポートには氏名・写真を掲載することで不正利用を防止する。年間パスポートの作成や保持者の個人情報等は年間パスポートシステムで適正に管理する。また、年間パスポートの作成者への特典や更新者への特典等を付与する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・毎月発行する「美ら海通信」や美ら海アプリを活用し、年間パスポートの販売促進を図り、年間パスポートを販売するほか、贈答用やイベントの景品として年間パスポート引換券を販売した。（15件73枚） ・年間パスポートに氏名・写真を掲載することで不正利用を防止し、更新期限を過ぎた利用者の個人情報は年間パスポートシステム上で匿名化することにより、情報漏えいに関するリスク低減を図った。 ・12/1～12/25の期間において、クリスマスデザインの年間パスポートの販売を行った。	・月報及びヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

5) 電子マネー等の利用 受入 券売所窓口及び自動券 売機に、電子マネー及 びクレジットの電子決 済に対応した機材を設 置し、利用者の利便性 を高める。	○	○	【業務計画書のとおりに実施】	・月報及びヒア リング等により 確認した。	・業務計画書 のとおりに適切 に実施されて いる。	・良好に実施できている。
6) 現金管理 券売所窓口及び自動券 売機で使用する釣り銭 を準備する。売上金等 は閉場後に金庫で一時 保管のうえ、翌日以降 の銀行営業日に銀行の 委託業者が集金し、指 定口座に入金する。連 休時は釣り銭を増額し て運用する。	○	○	【業務計画書のとおりに実施】	・月報及びヒア リング等により 確認した。	・業務計画書 のとおりに適切 に実施されて いる。	・良好に実施できている。
7) その他、経理管理・ 金銭管理に必要な事 項 ①各種業務手順書の作 成 売上精算処理手順書、 各券種販売手順書、券 種の変更・払い戻しに 関する手順書等を作成 し、各業務を一元的に 管理する。手順書は、 適宜、見直しと改善を 行い、業務内容の向上 を図る。	○	○	【業務計画書のとおりに実施】	・月報及びヒア リング等により 確認した。	・業務計画書 のとおりに適切 に実施されて いる。	・良好に実施できている。
②現金実査 毎月末、業務終了後に 券売所窓口及び自動券 売機の釣り銭として保 管している金庫の現金 を実査し、出納管理責 任者へ報告する。	○	○	【業務計画書のとおりに実施】 ・期末（3/31）は監査法人の立 会のもと、現金実査を行った。			
③税務相談 専門的な会計処理が発 生した場合は、顧問税 理士にアドバイスを受 け適切な経理処理を行 う。	○	○	【業務計画書のとおりに実施】			
売上報告書の作成						
入退場管理システムで 保存したデータを収 集・集計して、日計と 月累計の売上報告書 を作成する。売上報告書 は、現金売上、観光券 売上（未収金）、園外 販売券売上、券種等 を分けて記載し、帳簿や 金融機関の残高と照合 する。また、業務入 場、障害者及び介助 者、沖縄県内学校団体 等並びに幼児等も入口 において無料入場とし て把握し、実態調査等 に活用する。	○	○	【業務計画書のとおりに実施】	・月報及びヒア リング等により 確認した。	・業務計画書 のとおりに適切 に実施されて いる。	・良好に実施できている。

(4) 飼育展示

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1) 水族館内						
1) エリア毎の展示 イノーの生き物たち ・オカヤドカリやヤシガニ等の海岸近くに生息する陸棲生物を展示し、海岸域の多様性について展示解説する。 ・イノーに生息する動植物を展示し、水面直上からそれらの生態を観察できる展示空間を創出する。 ※動物福祉上、触察は行わない生態展示とする。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・オオナキオカヤドカリを新たに展示した。(新規) ・イノーに生息するヒトデ類やナマコ類、浅瀬に生活する魚類や甲殻類などの生体展示を行い、この海域の生態や役割を解説した。生き物の隠れ場所となる擬岩を設置し、生物の多様な行動を引き出すほか、サンゴヤドカリ類など潮だまりなどでみられる生物を展示した。(継続) ・「今月の推し生物」としてコブシメの繁殖個体などを月毎に紹介し、生物観察を促した。(継続)	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
サンゴの海 ・沖縄周辺に生息する有藻性イシサンゴ類約80種を展示し、多様なサンゴが群生する礁池を再現する。また、県内および近隣県の漁協と連携し、ヤギ類等の無藻性サンゴ類の新規展示や世界初繁殖に取り組む。 ・サンゴの産卵シーズン(6月頃)には、有性生殖によるサンゴの産卵や幼生の観察ができる展示をするとともに、サンゴの生態や保全の重要性について紹介する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・ヤギ類を展示し、飼育下繁殖のため性成熟判定に関する調査を行った。(継続) ・5/29に23年連続となるサンゴの放卵放精(産卵)を確認した。SNSで産卵の様子を生配信するとともに、解説パネルを設置し紹介した。(継続) ・企画展「サンゴ繁殖展」(期間: 4/27～6/16)を実施し、当館独自のイシサンゴ類繁殖技術(産卵時間調整)を活用した産卵行動の水槽展示や解説を行った。特に2020年に日中に生まれ育ったサンゴが親となり、その親が日中に産卵することに世界で初めて成功したことをPRした。併せてサンゴの生態を学んだ後に工作を行う「サンゴレジン工作体験」(期間: 4/30～5/2)を行った。(継続) ・「美ら海サンゴDAYS」(期間: 3/1～9)を実施し、館内でのデジタルビンゴや工作体験などを通しサンゴの生態や環境保全に関する普及啓発を行った。(新規)	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 ・企画展や工作体験については、利用者の一番近くで活動している解説員と飼育の専門員らが意見交換をした上でプログラム開発を進めるなど、組織横断による取り組みについて説明を受けた。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
熱帯魚の海 ・サンゴ礁の礁縁部に生息する多様な熱帯性魚類を展示し、それらの生態等について分かりやすく解説する。 ・飼育困難種であるブダイ類(イラブチャー)等、沖縄を代表する魚類の展示を行い、それらの生態や特徴を解説する。 ・シマハギ等の群れを形成する魚類の展示を強化し、サンゴ礁域の環境を再現する。 ・県内および近隣県の漁協と連携し、ヤギ類等の無藻性サンゴ類の新規展示や世界初繁殖に取り組む。 ・サンゴ礁域に形成される海中洞窟に生息する魚類や、新たに入手した無藻性サンゴ類等の展示を行い、洞窟内の特徴的な生態系を再現する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・イロブダイやアミメブダイなどのブダイ類(イラブチャー)やスジアラ(アカジン)等の沖縄を代表する魚類を含め、約180種の熱帯性魚類を展示し、それらの生態等についてパネルやモニターを用いて分かりやすく解説した。また、解説員による摂餌行動の解説を行った。(継続) ・クマササハナムロやヒメジのほか、デバスズメダイを追加展示し、群れを形成する魚類の展示を強化した。(継続) ・ヤギ類を展示し、飼育下繁殖にむけ性成熟調査を行った。(継続) ・アクリル研磨を実施し透明度の改善を行った。(継続) ・アカマツカサやキビレマツカサなど海中洞窟に生息する魚類やヤギ類の展示を行った。(継続)	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

<p>サンゴ礁への旅個水槽 ・岩礁やマングローブ林、海草藻場等、様々な沿岸域の環境を再現し、そこに生息する多様な生物の生態展示を行う。</p> <p>・サンゴ礁を代表するクマノミ類やタツノオトシゴ類等の繁殖を推進し、繁殖個体の展示を行う。</p> <p>・特定動物（危険な動物）に指定されるウミヘビ類等、沖縄を代表する海洋危険生物を中心に展示するとともに、これら生物による被害の防止方法や、応急処置について紹介する。</p> <p>・リュウキュウスガモやウミヒルモ等の海草藻場や、そこに生息する生物を展示する。また、冬季には沖縄のイカ類（コブシメ等）を展示し、槽内繁殖や繁殖個体の育成を行う。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>・マングローブやサンゴ礁に生息する、イセエビ類などの無脊椎動物やチンアナゴ等の魚類等、沖縄の沿岸域における生物多様性を再現した。（継続）</p> <p>・ハタゴイソギンチャクやクマノミ類の繁殖個体の展示を実施した。（継続）</p> <p>・世界初展示となるシライトイソギンチャクの繁殖個体を展示した。（新規）</p> <p>・「アナゴの日」「タツノオトシゴの日」に合わせた特別展示を行い、チンアナゴやニシキアナゴの長期飼育、タツノオトシゴの一種であるクロウミウマの飼育下繁殖等について紹介した。（新規）</p> <p>・ウミヘビ類やハブクラゲ、オニダルマオコゼなどの海洋危険生物を展示し、その生態や危険な部位を解説するとともに応急処置について紹介した。（継続）</p> <p>・リュウキュウスガモやウミヒルモ等の海草藻場や、そこに生息する生物を展示した。（継続）</p> <p>・希少海草の八重山産ウミシヨウブの種子を採集・発芽させ、展示した。（新規）</p> <p>・水族館で生まれたコブシメを育成、展示した。（継続）</p>	<p>・ヒアリングにより確認した。</p> <p>・現地にて状況を目視確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>美ら海シアター ・MICE やウェディング等の利用が可能な多目的ホールとして、様々な利用者へのニーズに対応する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>・日本財団「海と日本プロジェクト」イベント「海中の大冒険！」海”学ぶ探検ツアー”を美ら海シアター内で実施した。（期間：8/19～8/25）（継続）</p>	<p>・ヒアリングにより確認した。</p> <p>・現地にて状況を目視確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>黒潮の海、黒潮探検、ジンベエ・マンタコーナー ・黒潮海域に生息する大型海洋生物の特徴やその生態を解説する。ジンベエザメの性成熟や体温調節機構の解明、ナンヨウマンタの世界唯一の飼育下繁殖等、財団が独自に実施した最新の研究成果を紹介するとともに、給餌時にはジンベエザメの垂直摂餌やマンタの回転摂餌を再現し、希少な大型板鰐類の生態について解説する。また、沖縄の県魚であるタカサゴ、本部町の重要な水産資源であるカツオ等も展示し、地域の漁業の普及啓発にも繋げる。また、黒潮探検では水槽を上から見下ろすように生物を観察できる機会を提供し、繁殖個体等を飼育する予備水槽も公開する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>・ジンベエザメやナンヨウマンタの複数展示、世界唯一展示の大型板鰐類であるオニイトマキエイやヒメイトマキエイ、飼育困難種であるホウライザメ等を含む、約70種の展示を行った。また、解説員による給餌解説（ジンベエザメの垂直摂餌・マンタの回転摂餌）や、動画やパネル展示により生態解説および調査結果を紹介した。（継続）</p> <p>・県魚であるタカサゴ（グルクン）や、本部町の水産資源を代表するカツオ類の展示を実施した。（継続）</p> <p>・黒潮探検では、ジンベエザメやマンタの給餌内容や繁殖個体（イバラエイ、シノノメサカタザメなど）に関する紹介をパネルや模型を用いて展示した。（継続）</p> <p>・ナンヨウマンタの黒化個体（通称ブラックマンタ）の繁殖（8月）に成功し、12月より館内での親仔展示を開始した。併せて飼育の状況等はSNSを活用して情報発信した。（新規）</p>	<p>・ヒアリングにより確認した。</p> <p>・現地にて状況を目視確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

<p>・独自の飼育実績に基づき、世界最大エイのオニイトマキエイを含むイトマキエイ属の展示を実施する。また、ナンヨウマンタの累代繁殖を促進し、希少種の保全と持続的展示の実現を図る。</p> <p>・水族館の裏側をガイドする「裏側まるごとウォッチング」を行い、さらなる水族館の魅力を紹介する。</p>		<p>・ジンベエザメ「ジンタ」の飼育30年を記念し、飼育を通して得られた調査・研究の成果や歴史を紹介する「特別解説」や「パネル展」を実施した（期間：3/1～31）。併せて、全国の病院や特別支援学校を対象に「旅するジンタプロジェクト」を行った（4/1～3/30）。（新規）</p> <p>・バックヤードツアー「裏側まるごとウォッチング」において、沖縄の外洋域に生息（回遊）する魚類の生態や多様性、水族館の取り組み等について普及啓発を行った。（継続）</p> <p>・ジンタ飼育30年を記念し、3月の一部期間を「スペシャルバックヤードツアー」として開催。総実施回数1,371回、参加人数4,501名（うちスペシャル57回、参加人数172名）であった。（新規）</p>			
<p>サメ博士の部屋</p> <p>・飼育困難種であるツマジロやカマストガリザメ等の大型サメ類複数種を同時展示する。</p> <p>・財団独自に開発した人工子宮装置（特許出願中）と、装置内で育成中のフジクジラ等の胎仔の展示を行うとともに、サメの繁殖方法について専門的に解説する。また、本装置を活用し、飼育困難種の展示を行う。更に、ガラパゴスでのジンベエザメ調査や繁殖生態研究等、独自で行った研究成果について、大型モニターやパネル、標本等を用いて多言語で解説する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>・飼育困難種であるツマジロやクロトガリザメ等、計7種のサメ類の展示を行った。併せて、絶滅危惧種に指定されているシノメサカタザメの繁殖個体の展示を行った。（継続）</p> <p>・独自開発した人工子宮装置内で、ヒレタカフジクジラ27個体の飼育展示を行い（10～3月）、サメ類の多様な繁殖様式について解説を行った。（継続）</p> <p>・水族館で明らかとなった最新の研究成果（科学論文に投稿された学術研究）や、ガラパゴスでのジンベエザメ調査について、動画や標本、パネル等を用いて解説を行った。（継続）</p>	<p>・ヒアリングにより確認した。</p> <p>・現地にて状況を目視確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

<p>深海への旅個水槽、海のプラネタリウム、深海探検の部屋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄本島周辺の深海（水深約200m以深）に生息する生物を展示、解説する。特に、魚類の減圧症（潜水病）を治療するために独自開発した加圧水槽やROV（遠隔操作無人潜水艇）を利用し、深海性魚類等の飼育困難種の展示を実現する。更に、映像等を利用し、深海生物の特徴的な行動や生態を科学的に分かりやすく紹介する。 ・深海性甲殻類や魚類等の繁殖を推進し、その繁殖個体の展示を行う。また、人工子宮装置を活用したフジクジラ等の板鰓類の育成に取り組む。 ・ROV等で得られた採集データや、飼育展示を通して得られた知見に基づき、国内外の研究者と協力して生物多様性研究に貢献するとともに、その結果を展示に反映させる。 	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ROV調査等により得られた沖縄産オオヒカリキンメなど14種の当館初展示を行った。加圧水槽の稼働時には生物情報を掲示し、治療の様子をパネルで紹介した。（継続） ・各展示槽ではモニターを使用し展示生物の生態等を分かりやすく解説した。また、最新の展示情報を深海コーナーの入口に掲示し、随時更新した。発光や蛍光する生物について、洞窟調査で得られた生息場所の映像等を交えて展示解説を行った。（継続） ・発光コーナーにおいて、人工子宮装置で育った1歳のヒレタカフジクジラを世界初展示した。（新規） ・久米島の沖縄県海洋深層水研究所との連携により得られた個体が、日本で2例目となるケブカミズヒキガニであることを確認し、世界初展示として新たに展示した。（新規） ・「深海への旅」エリアの壁や床にCGで深海生物を映し出し、生き物の図柄に触れると動く演出を行った。（期間：8/1～8/31）（継続） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。
<p>わくわくアクアラボ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水族館の飼育や調査・研究活動を通して明らかとなった知見を中心に、モニターやパネルを活用した解説コーナーとして利用する。 	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展示「海のビックリすご技展」と称し、水族館で確認された生物の特殊な生態や姿についての解説展示を、動画や解説パネル、標本を用いて紹介した。（継続） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。
<p>琉球弧の水辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の陸水域に生息する魚類や両生・爬虫類等の希少生物を中心とした生体展示により、琉球列島の生態系を再現する。 ・外来種による環境問題等、標本やモニター等を活用し分かりやすく解説する。 ・クロイワトカゲモドキ等の国内希少野生動物種については、野生復帰を目的に生体の飼育展示を行う。 ・世界自然遺産推進共同企業体として、世界自然遺産に登録された 		<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み特別企画「巻貝のふしぎ展」（期間：8/1～9/1）を開催し、沖縄で見られる貝類の標本や、沖縄在来の陸生貝類の生体展示を行った。（継続） ・標本やパネルにより、外来種や環境問題に関する普及啓発を行った。（継続） ・海の利用が増える時期の注意喚起を目的に「海の危険生物展」を開催し、パネルや標本展示を行った。（期間：4/27～7/31）。（継続） ・クロイワトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメなどの希少種を中心とした生体展示を実施し、希少種保全の重要性について普及啓発を行った。（継続） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。

沖縄島北部及び西表島の生態系や環境に関する展示を、環境省や沖縄県等と連携し取組み、希少種に関する正しい知識の普及啓発を行う。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・イボイモリ、ハロウエルアマガエル、アイフィンガーガエルなどの沖縄在来の両生類・爬虫類を展示し、沖縄固有の生物多様性について紹介した。(継続) ・展示パネルや解説を通じて、希少種を取り巻く環境問題や保全活動の重要性について来場者への啓発を行った。(継続) ・環境省沖縄奄美自然環境事務所の持込みで「ヤンバルクイナと希少動物たちを守ろう」絵画コンクール作品展(期間:10/5~10/31)を琉球弧エリアで開催し、応募作品およびロードキル防止啓発パネルを展示することで、地域住民や観光客への自然保護意識の向上と交通事故防止の啓発を行った。(新規) ・琉球弧の水辺のリニューアル工事に伴い、一部エリアを閉鎖し、展示エリアの増強に向けた改修工事を実施した。(期間:3/9~3/31)。(新規) 			
美ら海プラザ ・メガマウスザメ、ウバザメ、マッコウクジラ等の大型生物の標本を中心に、視覚障害者の触察に対応したブラスティネーションを展示し、様々な利用者に対応する展示を行う。 ・沖縄で捕獲されたホホジロザメ標本(液浸)を展示し、本物の迫力を体感できる展示を行う。	○	<ul style="list-style-type: none"> 【業務計画書のとおり実施】 ・メガマウスザメやホホジロザメ等の希少な海洋生物の液浸標本やマッコウクジラの骨格標本を展示するとともに、魚類や無脊椎動物のブラスティネーション標本を展示し、視覚障害者の触察に対応した。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。
イベントホール ・沖縄の海洋生物や環境保全に関連した講演会等、多様な主体に対応した多目的ホールとして利用する。	○	<ul style="list-style-type: none"> 【業務計画書のとおり実施】 ・教育普及プログラムのインタビュー学習や講師派遣の実施場所として活用した。(継続) ・「日本初の国立自然史博物館を沖縄に！国立自然史博物館構想企画展」会場として活用した(6/20~3/21)。(継続) ・年間パスポート会員向け教室「美ら海オトナ塾」を全4回実施した。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。
陸上畜養施設 ・予備水槽としてサンゴ等の海洋生物の繁殖を推進するとともに、繁殖個体の野生復帰調査を目指し、生物の保全や持続的な利用に寄与する。	○	<ul style="list-style-type: none"> 【業務計画書のとおり実施】 ・水族館内で繁殖したサンゴや魚類等の育成を行い、野生復帰調査の準備を行った。(継続) ・飼育下繁殖したサンゴの幼生(コエダミドリイシ・約2万9千匹)を放流した。幼生放流の効果を検証中。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。
2) 展示解説方針 ① 最新情報・科学的根拠に基づく解説 展示生物では、科学論文やそれに準ずる報告等に基づき最新の情報を提供し、沖縄の多様な生物の分類・生態を正しく伝える。		<ul style="list-style-type: none"> 【業務計画書のとおり実施】 ・科学的根拠に基づいた展示や最新情報を伝える展示により、正しい知識の解説を行った(例:水族館入口の初記録種揭示等)。(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。

<p>②海外客や聴覚・視覚障害者へのサービス向上 タブレット端末やデジタルサイネージ等を活用した、多言語（日、英、韓、繁体、簡体）での展示解説を実施する。また、デジタルサイネージ等には、可読性や視認性に優れたUDフォントを使用して情報を提供する。</p>			<p>【業務計画書のとおり実施】 ・各水槽には多言語の解説パネルを設置するとともに、美ら海アプリを導入し、多言語でのエリア解説を行った。（継続）</p>			
<p>③生態情報を映像等で分かり易く提供 当財団が長年実施してきた飼育・繁殖実績、調査研究に基づく生物の生態知見を、最新の研究映像等により解説する（モニター設置、デジタルサイネージ等）。</p>			<p>【業務計画書のとおり実施】 ・展示生物に関する独自の研究や関連機関と共同研究を行い、成果については動画やパネル等を使用し、内容を分かりやすく解説した（例：サメ博士の部屋の学術論文紹介等）（継続）</p>			
<p>④3カ国語と沖縄名に対応した解説パネル 展示水槽には写真付きの解説モニターや解説パネルを設置し、学名、和名、英名、中名、沖縄名を併記する。</p>	○		<p>【業務計画書のとおり実施】</p>			
<p>⑤給餌解説 水族館内の給餌については毎日同じ時間帯に実施し、摂餌生態を分かりやすく伝える（表1）。</p>			<p>【業務計画書のとおり実施】</p>			
<p>⑥展示解説員によるライブ解説 専門教育（海洋生物、環境保全等）を受けた解説員及び飼育員が、環境学習や体験の要素を織り込んだ解説を行う。水槽解説やバックヤード見学には、独自の調査結果や最新の結果に基づいた知見を踏まえて解説する（表2）。</p>			<p>【業務計画書のとおり実施】 ・沖縄の海洋生物や環境に関する最新情報を取り入れた内容に更新し、給餌解説や水槽解説、バックヤード見学等において正しく解説を行った。（継続）</p>			
<p>⑦最新知見の発信 財団で得られた最新の研究結果・新規展示・繁殖成功等の情報は、SNSやHP等のオンラインを活用し、効率的かつ効果的な話題の創出と普及啓発を行う。</p>			<p>【業務計画書のとおり実施】 ・最新の研究結果・新規展示・繁殖成功等の情報を、SNSやHP等のWEBを活用し公開した。館内でもニュースリリースの内容を掲示し情報発信を行った。（継続）</p>			

2) 海獣施設						
1) エリア毎の展示 イルカラグーン ・国際基準(WAZA)のガイドラインを遵守し、動物福祉に配慮した餌やりや触れ合い体験プログラムを実施し、イルカの特徴や生態について分かりやすく解説する(オキちゃん劇場でも実施)。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・イルカ給餌体験を5回／日で実施した。(継続) ・土日祝日限定でイルカ体験学習を1回／日で実施した。(継続) ・日曜日限定でプレミアムイルカ飼育体験を1回／日で実施した。(継続) 改修工事中のオキちゃん劇場に代わり、以下のスケジュールでイルカショーを実施し、イルカの生態や運動能力等の紹介を行った。(継続) ・4/1～6/30：運動会を模した「Spring Show」を実施した。 ・7/1～9/26：スプラッシュタイムが目玉の「Summer Show」を実施した。 ・9/27～12/15：「Autumn Show」実施した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
オキちゃん劇場 ・ミナミバンドウイルカ等、複数種及び複数頭による「イルカショー」を開催し、イルカの持つ運動能力を紹介する。また、四季折々の話題を取り込み、季節感のあるショーを展開する(使用できない期間中はイルカラグーンで実施)。 ・イルカと一緒に記念写真を撮影できるイルカフォトサービスを行い、利用者ニーズを反映したプログラムを実施する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・改修工事のため、イルカショー(4/1～12/15)及びイルカフォトサービス(4/1～12/20)の開催はなし。(継続) ・12/16～12/31：9/27から実施している「Autumn Show」の会場をオキちゃん劇場に移し実施した。(継続) ・1/1～3/31：「Winter Show」を実施した。(継続) ・2/22にミナミバンドウイルカ「オキ」と「ムク」の一日警察署長(本部警察署)イベントを開催した。(新規) ・12/21からは、再開したオキちゃん劇場にてイルカフォトサービスを5回／日実施し、利用者へのサービス提供を行った。(継続)	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・令和6年12月よりオキちゃん劇場でのショーが再開され、利用者の数・満足度とも回復している。
マナティー館 ・国内唯一の繁殖個体を活用した餌やりや触れ合い体験プログラムを行う。 ・地階にモニターを設置し、動画等を活用した解説を行う。また、近縁種であるジュゴン標本等を展示し、海牛類の生態や保全について説明する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・金土日祝日限定でマナティー体験学習を1回／日で実施し、生態について解説を行った。(継続) ・ジュゴンの頭骨標本やモニターなどを活用し、海牛類の展示を行い、生態や希少性の解説を行った。(継続)	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

ウミガメ館 ・ウミガメ 5 種の展示を通して、ウミガメの生態を解説する。亜成体ウミガメの生息場となるサンゴ礁域や、孵化間もない子ガメが生息する外洋を再現する。地階にモニターを設置し、動画等を活用しながら、ウミガメの生態について分かりやすく解説する。 ・ウミガメの人工授精研究や複数種の同季繁殖を行い、繁殖個体を展示する。 ・繁殖個体を活用した餌やりや体験を通して、ウミガメの生態や環境問題について解説する。	○	【業務計画書のとおり実施】 ・ウミガメ類5種の常設展示を行うとともに、亜成体や幼体を中心にサンゴ礁域や外洋域を演出した展示、モニター等の活用を通して、生態について解説を行った。（継続） ・アカウミガメ、アオウミガメおよびタイマイの繁殖に成功し、生まれた繁殖個体の展示を行った。（継続） ・ウミガメ給餌体験を2回／日で実施、生態について解説した。1/6以降は、ウミガメ館施設工事のため給餌体験は中止した。（継続） ・4月～6月の毎週土曜日・祝日に「ウミガメ飼育体験」を開催し、生態や環境問題に関する学習の機会を提供した。（継続）	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) ショー等の開催 ①イルカショーの実施 イルカの持つ運動能力について、ダイナミックかつ多種多様なパフォーマンスを交えて解説する。また、季節感を感じられるショーを展開する（表3）。	○	【業務計画書のとおり実施】 ・多種多様なイルカとパフォーマンスを交えるとともに、「Spring Show」、「Summer Show」、「Autumn Show」、「Winter Show」と題し、季節感を感じられるイルカショーを実施した。オキちゃん劇場改修により、12/15まではイルカラグーンで、以降はオキちゃん劇場で実施した。	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
②体験プログラムの実施 国際基準（WAZA）のガイドラインに基づき、イルカ、マナティー、ウミガメとの触れ合いや餌やり体験等を実施し、科学的知見に基づく魅力ある解説を行う。あわせて、独自の海洋保全に関する指針に基づき、環境問題や種の保全についても解説する。また、振り返り学習ができるように体験プログラム毎に対応した教育用冊子を独自で作成・販売し、教育普及活動の機能向上を図る（表4）。	○	【業務計画書のとおり実施】 ・新たに、独自で作成した冊子「巻貝のふしぎ」を販売し、教育普及活動の機能向上を図った。（継続） ・イルカフォトサービス、イルカおよびウミガメ給餌体験、イルカおよびマナティー体験学習、プレミアムイルカ飼育体験、ウミガメ飼育体験の実施を通して、生態や環境問題等に関連した普及啓発を行った。（継続）	・ヒアリングにより確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(5) 生物等管理

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
日常管理・飼育管理						
1)飼育生物監視 管理下である水槽（展示水槽、予備水槽を含む）は、最低2回の見回りを行い、水槽や生物の状態の確認を行う。また、夜間監視のため飼育員の宿直を1名以上常駐させ、最低3回（19：00、22：00、07：00）の見回りを実施する。	○		【業務計画書のとおり実施】	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2)展示状態の確認 展示水槽においては、開場前及び閉場後に見回りを行い、生物の状態、アクリルガラスの状態、展示環境の状態、飼育水の透明度の状態等を確認する。不具合を発見した場合は迅速に対処し、飼育・展示水槽の適切な管理を行う。また、大型水槽（サンゴの海、熱帯魚の海、黒潮の海）については開場前に水槽内に潜水し点検を行い、漏水等の目視確認は観覧面から行う。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・魚類や無脊椎の飼育水槽では、迅速な残餌や死魚の回収に努め、水質の悪化を防止した。（継続） ・サンゴの海、熱帯魚の海、黒潮の海においては、潜水による点検を毎日行うとともに、漏水等の目視確認を観覧面から行った。（継続） ・海獣施設では、塩素系液体による消毒を兼ねた水槽清掃を定期的に行い、保守管理に努めた。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
3)飼育環境測定 生物飼育の適正な飼育環境を維持するため、環境測定・調節、飼育水槽・プール等の清掃、各種設備、機器等の保守管理を実施する。具体的には下記の飼育環境についての定期的な計測を行う。測定項目や頻度は、これまで蓄積したデータを元に定めているが、飼育生物の状況に応じ、随時変更を行う。 ・水温、気温、湿度（毎日） ・水質検査（毎週：水素イオン濃度、比重もしくは塩分濃度、アンモニウムイオン、亜硝酸イオン、溶存酸素濃度） ・関連機器保守管理（使用する機器に応じ適宜実施） ・照明設備等巡視点検（毎日）	○		【業務計画書のとおり実施】	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

<p>4) 飼育環境危機管理対応</p> <p>液体や固形物の投げ込み可能な水槽（イノーの生き物たち、サンゴの海、熱帯魚の海、黒潮の海、ポケット水槽、海獣施設）には中和剤（チオ硫酸ナトリウム等）を常備し、緊急対応に備える。また、水上観覧においては、水槽内への異物の投げ込み防止対策を行う。</p>	○		<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩素系液体の投げ込みに対応するため、イノーの生き物たちの裏側、サンゴの海、熱帯魚の海および黒潮の海のキーパー、ポケット水槽、各海獣施設の近隣に、チオ硫酸ナトリウムを常備し、緊急事態に備えた。（継続） ・水上観覧の観覧側にネットや透明アクリル板を設置し、異物の投げ込み防止に努めた。（継続） ・夏季の高水温に対応するため、餌量調整を行うとともに、海水冷却システムの試運転を行い高水温に備えた。（継続） 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。
<p>5) 餌料管理、調餌</p> <p>餌料は購入業者の選定、購入後の保管、使用時の解凍等について、鮮度保持を考慮した下記の方法で取り扱いを行う。また、使用する餌料は定期的に成分分析を行い、飼育生物に対する適正を確認し、必要があれば餌料種の変更を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生鮮餌料：腐敗、防腐剤等薬品処理がなく、色、臭い等の、品質劣化のないことを確認する。高品質の餌料入手のために、地元漁協等を活用する。 ・冷凍餌料：腐敗、冷凍焼け（低温乾燥による変質）、防腐剤等薬品処理がなく解凍後の色、臭い等の品質劣化のないことを確認する。また、冷凍保存にはマイナス20度以下の冷凍庫を用い、調餌後の保存には0度程度の冷蔵庫で鮮度管理を徹底する。防疫や異物混入防止のため、保存庫は餌料専用とし、共用は避ける。 ・乾燥餌料：防腐剤等の薬品処理、腐敗やカビの発生等による品質劣化のないことを確認する。 ・調餌：使用する調餌器具や設備の衛生管理を徹底するため、海獣施設では次亜塩素酸ソーダ散布による消毒、その他の飼育施設では中性洗剤による洗浄および清掃を実施する。 	○		<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌料は鮮度や成分分析結果に基づき、適正な餌料を選定した。（継続） ・冷凍餌料保存はマイナス20度以下の冷凍庫を用い、調餌後の餌料一時保存は、冷蔵庫により管理した。（継続） ・保存庫は餌料専用とし、防疫、薬品等混入を防ぐため、餌料以外の物との共用を避けた。（継続） ・生鮮餌料は高品質の餌料入手のため県内漁協等から購入し、腐敗や防腐剤等薬品処理がなく、色や臭い等の品質劣化がないことを確認した。（継続） ・冷凍餌料は、腐敗や冷凍焼け（乾燥による変質）、防腐剤等薬品処理がなく、解凍後の色や臭い等の品質劣化がないことを確認した。（継続） ・乾燥餌料（配合餌料等）は、防腐剤等による薬品処理、腐敗やカビの発生等、品質劣化のないことを給餌前に確認した。 ・鮮度保持のため餌料は給餌する日にすべて調餌し、残餌は廃棄した。（継続） ・調餌室は毎日清掃し、調餌用具等は使用後直ぐに洗浄を行い、常に清潔な状態を維持し衛生管理を徹底した。（継続） 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。

<p>6) 給餌 対象生物の自然下における餌料について十分に調査し、同等の餌料を給餌する。それらの入手が困難な場合は、成分の近い代用餌料を入手し給餌する。また、対象生物の生態を十分考慮し、スムーズな給餌ができるよう努めるとともに、残餌が可能な限り出ず、かつ、飼育個体の成長や健康維持に適した給餌量を設定する。ただし、残餌の出た場合は水質悪化を防止するため、速やかにこれらを回収する。 また、展示水槽においては、飼育水の透明度を維持するため、給餌後のエアレーション等による懸濁物除去の措置を講じる。給餌の頻度に関しては、対象種の性質に合わせ随時変更する。また、搬入直後の飼育生物は、原則予備槽にて餌付けを行い、餌料に十分に慣れたのち、展示水槽での飼育に移行する。</p>	○		<p>【業務計画書のとおり実施】 ・県内の漁協等から鮮度の高い餌料を購入し、地元産業に貢献するとともに、飼育生物の健康維持に努めた。(継続) ・共食いが発生する可能性がある種を取り除き、残餌が出ない給餌量や給餌方法を選択し、飼育水の水質悪化防止に努めた。(継続)</p>	<p>・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>7) 排水の水質管理 飼育施設からの排水については年2回(夏季・冬季)の水質検査を行い、検査結果を年度ごとに保管し、必要に応じて情報を開示する。また、イルカ・ウミガメプールについては清掃後に次亜塩素酸ソーダを中和し、環境への影響を防止する。</p>	○		<p>【業務計画書のとおり実施】 ・8/7、1/8に、排水近隣において化学的酸素要求量(COD)、大腸菌群数、有機態窒素等の項目について測定した。(継続)</p>	<p>・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>8) 飼育水槽の清掃 飼育水槽はそれぞれの形状や飼育生物の特性等により下記のとおり対応する。 ・全水槽：残餌回収による水質維持(適宜) ・サンゴの海、熱帯魚の海、黒潮の海帯水層：アクリル及び壁面清掃(毎日) ・黒潮の海大水槽：底面砂洗浄(1回以上/週)およびストレーナー交換(8回程度/年) ・イルカ・ウミガメプール：落水による換水と次亜塩素酸ソーダ散布による清掃(1回以上/週) ・マナティープール：潜水によるアクリル及び壁面清掃(1回以上/月) ・その他必要に応じて随時清掃を実施</p>	○		<p>【業務計画書のとおり実施】</p>	<p>・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

記録						
飼育日誌、診療・検査日誌、海洋生物台帳の記録を行い、必要に応じて報告・閲覧・提示できるように保管する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・各水槽の搬入及び死亡（種、個体数）、水温、水質、調餌量、摂餌状況、その他の変化等は随時日誌に記録した。（継続） ・海獣施設においては、水温、気温等の環境値や摂餌状況等を日誌に記載した。 ・検査や治療内容については、電子カルテにより保管、整理した。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
健康管理						
1)診療実績に基づいた適切な健康管理 財団の総合研究所内に設置された附属動物病院と連携し、25年以上の検査・診療データをもとに獣医師を中心にチーム体制を構築し、水生生物・海生哺乳類の適切な診療を実施する。また、飼育生物の生理、生体情報に即した適切な衛生管理を行うとともに、治療上必要な薬品の確保、獣医療関係機材の適切なメンテナンスを行う。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・附属動物病院と連携して飼育動物の定期検査を実施するとともに、体調不良の個体については、各種検査結果をもとに治療として抗菌剤や抗真菌剤の投与、輸液、外科的処置などを実施した。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2)高度医療機材を使用した健康管理 当財団の保有する画像診断機器（CT や X 線検査機器、超音波画像診断装置等の医療関係機材）を用い、獣医師や専門教育を受けた動物看護師等の資格を保有する技術者が検査・診断を行うことで、適切かつ迅速な治療・記録を実施する。	○		【業務計画書のとおり実施】	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
病理記録の保管						
1)飼育生物の症例記録や斃死動物の死因究明CT 及び X 線検査等の画像診断、血液及び細菌・真菌検査、解剖、病理検査等による症例や死因を記録する。感染症法に基づき、人畜共通伝染病疾患の疑いのある症例については、沖縄県北部保健所および沖縄県中央家畜保健衛生所等の関係機関に届出を行う。	○		・オキゴンドウ「個体名：アーサ（5月）」、ユメゴンドウ「個体名：ムー（5月）」、ミナミバンドウイルカ「個体名：クロ（6月）」、オキゴンドウ「もも（11月）」、オキゴンドウ「ライズ（11月）」が死亡したため適時剖検を行い、必要に応じて病理検査や細菌、真菌検査等を実施した。（継続） ・人畜共通伝染病の疑いのある症例については、該当する症例が無かったため沖縄県北部保健所および沖縄県中央家畜保健衛生所等の関係機関への届出は無かった。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

2) 希少生物や重要生物の標本製作と保管及び記録の保存 標本の製作、保管は分類学に精通したスタッフが、標本は空調が完備された専用の部屋で保管し、保存液（ホルマリン等）の補充や容器の交換等のメンテナンスを定期的に行う。標本には固有の番号を付し、各種情報とともにデジタルデータベースで管理・外部公開し、学術目的とした他機関からの借用依頼にも適切に対応する。	○		【業務計画書のとおりに実施】 ・希少な生物については、全部もしくはその一部をホルマリン標本として保存した。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおりに適切に実施されている。	・良好に実施できている。
3) 感染症に関する記録資料の保管・管理 血液及び細菌・真菌検査、病理検査、遺伝子検査等の結果については電子カルテにて一元管理し保管する。	○		【業務計画書のとおりに実施】	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおりに適切に実施されている。	・良好に実施できている。
展示生物等の導入						
1) 計画的な生物導入 漁業法や生物多様性保全に関する条約等に配慮し、生息域外や遠隔地域からの導入は避け、沖縄周辺海域から年間を通じて計画的に入手する。国頭村及び読谷村漁協との連携協定をはじめ、県内の漁業者とのネットワークを活用し、生物採集及び蓄養を行う。	○		【業務計画書のとおりに実施】	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおりに適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) 緊急時に備えた蓄養 展示生物の病気の発生や緊急時に備え、深海生物等の希少種・ジンベエザメ・マンタ等の大型生物を海上生簀や加圧水槽等で蓄養し、治療する。	○		【業務計画書のとおりに実施】 ・深海生物等の入手困難種は必要に応じて加圧水槽等で蓄養および治療を実施した。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおりに適切に実施されている。	・良好に実施できている。
飼育下繁殖						
大型板鰐類、鯨類、ウミガメ等の希少種や水産資源重要種は生体・生理の研究や技術向上に取り組み、飼育下繁殖に努める。展示生物を持続的に確保するため、サメやエイ等の板鰐類については人工子宮装置や海上生簀を活用し、繁殖や育成を推進する。	○		【業務計画書のとおりに実施】 ・希少大型板鰐類や水産資源重要種は医療機器や採血による生理状態の確認により、繁殖個体の選定や繁殖時期の特定を行った。（継続） ・大型希少板鰐類については海上生簀を、小型希少板鰐類については人工子宮装置を適宜活用し繁殖統制を行った。（継続） ・イルカについては、ホルモン周期の把握を目的とした検査や、人工授精に向けた採精を実施し、他機関の繁殖プールの視察・調査を通じて今後の技術導入に向けた情報収集を行った。（継続） ・マナティーについては、計画的な雌雄同居の実施および血液検査を通じた発情周期の調査を継続し、繁殖に向けた基礎データの蓄積に努めた。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおりに適切に実施されている。	・良好に実施できている。

動物福祉のチェック体制					
飼育動物の飼育施設及び飼育方法等について、動物福祉に関連する栄養（餌料）、環境（飼育施設）、健康、行動、精神状態等の分野ごとに自己点検を行うとともに、外部委員も含めた動物福祉評価委員会による評価も併せて実施し、国際水準の動物福祉に対応した飼育管理を行う。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・動物福祉に関連する専門家2名を招聘し、昨年度の動物福祉自己点検に基づき、外部評価を4月に実施した。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。 ・良好に実施できている。 ・組織全体として動物福祉への認識を整えるため、勉強会開催や個体別リーダーチャートの試行等に取り組んでいる。
希少種保護					
1) 関係機関と連携した保護 希少生物の保護については、水産資源保護法や漁業法等に基づき、水産庁、環境省、沖縄県等との連携を図りながら進める。また環境省の認定希少種保全動物園として希少野生生物の種の保存に取り組む。更に、国際的保護団体である 国際自然保護連合（IUCN）の専門部会員（サメやウミガメ）の委嘱や、海外の水族館等との連携協定に基づき希少種保全活動を推進する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・環境省の認定希少種保全動物園として、リュウキュウヤマガメ1個体の保護を環境省の依頼に基づき行った。（新規） ・沖縄県ジュゴン保護対策事業検討委員会、IUCN種の保存委員会ウミガメ専門部会員および板鰐類専門部会員や、ウミガメ協議会理事等に委嘱され保全活動に寄与した。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。 ・良好に実施できている。
2) 海洋生物のレスキュー・リハビリテーション 沖縄県における海洋生物の保護収容拠点として、沖縄県近海で怪我を負った海洋生物が発見された場合は積極的に保護収容する。培った技術や保護収容実績に基づき、各々の症状に適した環境下で飼育し、血液検査等の各種検査、CT や X 線検査等の高度医療機器を用いた診察を行う。その診察結果に基づき、外科手術や薬投与等の適切な治療を行い、健康状態が回復した個体は野生に放流する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・衰弱したウミガメ類 11個体を緊急保護し、肺の虚脱および浮力障害等を示した保護アオウミガメ 2 個体に腹腔穿刺等を行い改善した。また、過去に保護した個体も含め、治療により回復した 9 個体を野生復帰した。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。 ・良好に実施できている。
3) 希少種の繁殖と野生復帰に向けた取組み 陸上蓄養施設の飼育設備を活用し、ミドリイシ等のサンゴ類やクロウミウマ等の魚類等、サンゴ礁域に生息する希少生物の繁殖や野生復帰に関する調査を推進する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・飼育下繁殖したサンゴの幼生（コエダミドリイシ・約2万9千匹）を放流した。今後、稚サンゴのDNA分析を行い、幼生放流の効果を検証中。（継続）	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。 ・良好に実施できている。

(6) 調査研究

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
実施体制						
調査研究、技術開発は当財団に属する博士研究員を主体とする体制で、国内外の研究機関等と連携して実施する。また、毎年、外部の専門家による評価・指導を受け、さらなる質の向上を図る。	○		【業務計画書のとおり実施】 8名の博士研究員を中心に、Ⅲ-7-(4)に記載の国内外の研究機関との連携を強化しつつ、高水準の研究体制を維持した。また、3月には外部有識者による評価を実施し、水族館における研究活動が高く評価された。(継続)	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 人員不足や他業務の増加などの要因がある中、飼育従事者が第一著者である論文が多数出ていることはとても評価できる。今後の研究方針として、財団の強みを活かせる分野にフォーカスした研究活動を行うとよい。
飼育生物の展示・繁殖に関する研究及び技術開発						
1)板鰐類に関する研究・技術開発 展示生物として注目度の高い板鰐類(サメ・エイ類)の持続的な展示と保護保全のための調査研究及び技術開発を行う。 ①飼育個体による繁殖に関わる生理及び生態学的な情報の取得 ②標本調査や遺伝子分析による性成熟等の基礎情報の収集 ③回遊調査による野外生息環境の把握と飼育環境の整備 ④国外の研究組織と連携した、国際的な繁殖生態研究 ⑤調査研究成果に基づく血統を考慮した繁殖計画の策定 ⑥海上生簀を活用した繁殖技術の開発 ⑦人工子宮装置による希少板鰐類の飼育下繁殖と保全活動への応用	○		【業務計画書のとおり実施】 ①稀少板鰐類であるナンヨウマンタの飼育下繁殖に関するノウハウを活用し、国際的な研究機関が実施する本種の繁殖生態解明に協力するための体制を構築。また、大型板鰐類の定期的な採血と超音波画像診断を実施。絶滅危惧種ホホジロザメに関する論文1件受理、ジンベエザメの心拍に関する論文1件投稿中。(継続) ②国内外の研究機関と共同で実施。(継続) ③将来の希少種保全のための知見獲得を目的に、水族館生まれの板鰐類を野外に再導入する調査を実施。現在もモニタリング中。(継続) ④国外の水族館や研究機関と共同 ⑤血統や動物福祉上適正な飼育空間を顧慮し繁殖を統制。ナンヨウマンタやシノメサカタザメ等の希少種において飼育下繁殖をモニタリング中。(継続) ⑥海上生簀において稀少板鰐類の繁殖統制を実施。採血や超音波診断等により生殖周期をモニタリング中。(継続) ⑦人工子宮装置によるフジクジラ(サメ類)の人工繁殖を実施。装置のポータブル化を実施。(継続)	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 国際連携が促進されていることは、財団だけでなく世界の水族館や研究機関の発展に寄与する良い取り組みである。また、水族館での研究に留まらず、野外研究に貢献していることはとても評価できる。

<p>2) 硬骨魚に関する研究・技術開発 主要な展示生物である硬骨魚の持続的な展示と保全保護のための調査研究及び技術開発を行う。 ①新規展示生物の導入試験 ②飼育下繁殖等による持続的な展示に関わる飼育技術の開発 ③加圧水槽等を活用した飼育困難種の展示 ④地域の漁協等との連携による輸送技術の開発 ⑤水産重要種等有用種の繁殖技術の開発 ⑥ROV等を用いた沖縄周辺の生物相や生息環境の調査及び飼育環境への還元 ⑦国内外の研究機関と連携した新種や初記録種等、生物種の記載と生物多様性の理解に資する展示解説</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】 ①カブキドウケツエビ（新種）、オオアカムツおよびヤマブキハタ等の世界唯一展示を実施。また、タテスジハタやオニテングハギなどの新たに展示に向けた生物を確保。（新規） ②ユウゼンやトウカイスズメダイ等の繁殖の試行。チンアナゴやニシキアナゴの継続的な産卵に成功。また、日本動物園水族館協会「マルハナガタサンゴ」「シライトイソギンチャク」「オオアガリマイマイ」「ヘソアキアツマイマイ」「ナキエンコウガニ」「イバラエイ」の6種において初繁殖が認定。（継続） ③深海系初展示種8種を世界唯一展示。（継続） ④定置網や一本釣等、地域の漁協と連携して実施。（継続） ⑤マチ類、スマ、グルクマの繁殖および種苗生産を試行。（継続） ⑥ROV調査は8回実施。7種を確認（無脊椎動物を含めると46種）。（継続） ⑦水族館入口での初記録種や新種記載の成果紹介、館内水槽における生体展示・解説を随時実施。（継続）</p>	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】 「魚類の健康管理技術開発」では、ジンベエザメなどを対象にエコー、血液検査、バイオロギング技術を駆使して成果を得ており、その結果を国際誌に公表した点は高く評価される。「飼育困難種の飼育及び繁殖技術の開発」では人工子宮の改良に成功し、世界的な注目を集めるなど飼育技術向上に大きく貢献しており、今後の発展が期待される。また、ナンヨウマンタ、シノメサカタザメ、オオテンジクザメへの行動記録計や音響タグの装着調査を国際的な共同研究に発展させた点も高く評価され、その成果が待たれる。「深海生物調査」も着実に進行しており、今後はサンゴ、ウミガメ、鯨類の各分野からも水族館事業の発展や持続的管理運営へのさらなる貢献が期待される。</p>
<p>3) 海産哺乳類の繁殖、健康管理の研究・技術開発 小型鯨類及びマナティーの飼育下繁殖及び長期飼育に向けた技術開発を行う。 ①精液保存や人工授精等の繁殖技術の開発 ②飼育下繁殖による分娩や育児等に関する記録 ③世界初のイルカ人工尾びれ開発等の実績を活用した、老齢個体、傷病個体、緊急保護動物のリハビリテーション技術の開発 ④新興真菌等の遺伝的及び疫学的調査 ⑤確定診断及び治療データ補完による診断や治療技術の向上 ⑥長期飼育に向けた動物の福祉向上に資する調査 ⑦国外の研究組織と連携した、国際的な繁殖研究の実施</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】 ①凍結精液を用いた人工授精による出産が行われた（バンドウイルカ、8月出産後死亡）。また、ミナミバンドウイルカの精液凍結保存を実施（日動水鯨類プロジェクト推進館）。また、各種において血中性ホルモン測定と性腺エコーでモニタリング。さらに、オキゴンドウの発情同期調査と排卵誘起技術開発を実施。（継続） ②人工哺育マナティー、繁殖オキゴンドウおよびバンドウイルカの成長および授乳データ（行動、乳成分、授乳回数や時間など）を取得。（継続） ③尾鰭の80%を失ったミナミバンドウイルカの治療、リハビリ訓練および装具開発（人工尾びれ）、傷病個体については適宜治療を実施し状態の変化を観察記録。（継続） ④帝京大学と連携し、飼育鯨類の真菌の疫学的調査を継続中。（継続） ⑤イルカ類のCT画像による呼吸器疾患の確定診断方法を確立。（継続） ⑥動物福祉評価に対応したショーの構成や体験プログラムを実施。（継続） ⑦香港オーシャンパークと連携したミナミバンドウイルカの繁殖に関する取り組みを継続。（継続）</p>	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】 オキゴンドウの授乳期における母乳の長期モニタリングや人工ミルクの開発は、飼育管理や野生鯨類の生態理解に極めて有益であり、特に母乳の質や成分を継続的に記録することは将来的な育成技術の向上に直結する。また、自然な生理に沿った繁殖管理は成体メスの健康リスクを回避しつつ種の特性を尊重する上で重要であり、負傷個体への人工尾鰭を含む生活の質向上の取り組みは、漁具や小型船舶との衝突増加に対応する実践的な解決策となる。これらは将来の保全活動や国際的な救護活動における活用可能性が高く、発展性と社会的意義の両面から大いに期待される。</p>

<p>4) ウミガメ類の繁殖、健康管理の研究・技術開発</p> <p>ウミガメ類の持続的飼育に向けた飼育下繁殖技術や、長期飼育や緊急保護に対応する健康管理技術の向上を図る。また、地域や関係機関と連携し野生個体の保全に向けた調査を展開する。</p> <p>①精液保存や人工授精等の新規繁殖技術開発 ②適正孵卵及び孵化率向上に関する技術開発 ③緊急保護や野生復帰に対応した健康管理技術開発</p> <p>④沖縄島のウミガメ保全のため、国際自然保護連合（IUCN）や日本ウミガメ協議会等の専門委員等として協力 ⑤市民ボランティアと連携した産卵及び漂着状況モニタリング ⑥標識放流や衛生タグ、遺伝的手法等による生態調査</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>①タイマイの人工授精を目的とした麻酔試験、用手による精液採取、および精液保存液の検討を実施。（継続）</p> <p>②タイマイ親個体においてセレン摂取不足が孵化率低下に関連することが判明。モイストベレットに粉末セレンを添加する投与方法が高血中濃度維持に繋がることを確認。（新規）</p> <p>③・11個体を緊急保護し、9個体を野外に放流。（継続）</p> <p>・幼体の原虫症の調査を実施（帯広畜産大学）。（継続）</p> <p>・繁殖と食欲に関する調査の実施（南ルイジアナ大学）。（継続）</p> <p>・疾病予防目的で幼体へのイソマルオリゴ糖の投与実験（九州昭和産業）。（継続）</p> <p>・腸内細菌叢の調査を実施（中部大学）。（継続）</p> <p>④職員がIUCNのウミガメ専門部会員やウミガメ協議会理事等に委嘱され、ウミガメ類の保全活動に寄与。（新規）</p> <p>⑤市民と連携した産卵および漂着調査を実施し、本部半島および名護市東海岸を中心にアカウミガメ42回、アオウミガメ23回、タイマイ1回の産卵を確認。地域住民の情報による死体漂着22件に対応。（継続）</p> <p>⑥Sea Turtle Ecology LabおよびUpwell Turtlesと連携協定を締結し、衛星標識を装着したアカウミガメ幼体12個体の回遊経路を調査中。ヒメウミガメの遺伝子分析を開始。（継続）</p>	<p>・年報及びヒアリングにより確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】</p> <p>死亡漂着個体や産卵の調査は貴重で高く評価され、ウミガメの飼育技術も着実に向上している。今後はこれらの成果を他施設でも活用できるよう啓発活動をさらに充実させるとともに、毎年得られる多くの子ガメを活用した新たな研究展開が期待される。</p>
<p>5) サンゴ類等無脊椎動物の生態調査、飼育展示の技術開発</p> <p>飼育サンゴ類の持続的な展示に関連する調査や繁殖技術向上を図るとともに、野生個体群の保護保全に関する調査を行う。</p> <p>①飼育サンゴの成育や成熟等に関する調査研究 ②海洋博公園地先のサンゴ礁保全に向けた生息状況のモニタリング調査および造成技術の開発 ③新規展示種の展示に向けた飼育技術開発 ④サンゴ類の生態を反映した展示技術の開発 ⑤サンゴ類の飼育下で繁殖した幼生等を活用した野外復帰調査 ⑥節足動物の飼育下繁殖</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>①飼育サンゴの状態を日々注視しつつ、適切な管理を継続。（継続）</p> <p>②モニタリング調査を実施（8月）。今年度は夏季に大規模なサンゴ白化現象が確認され、調査海域のほぼ全てのサンゴ群体に白化を確認。（継続）</p> <p>③八放サンゴ類（ヤギ類）の繁殖周期モニタリングを実施。（継続）</p> <p>④飼育環境（光条件）のコントロールによるサンゴ産卵行動を展示。この飼育技術に関する報告が学術誌に受理。新たに水温による産卵時期変化をモニタリング。（継続）</p> <p>⑤飼育下で得た幼生の放流と定着率の検証中。DNA解析による個体識別技術開発に着手。（新規）</p> <p>⑥オカヤドカリやトガリモエビの飼育下繁殖に成功。（新規）</p>	<p>・年報及びヒアリングにより確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】</p> <p>八放サンゴの繁殖研究はこれまで例がほとんどなく、今後の成果が大いに期待される分野である。今後は取り扱い時に属名まで明記するとともに、約30年に及ぶサンゴ移植の経緯や海外論文も含めたレビューを行うことで、より効果的な研究・実践につなげられることが期待される。</p>

海洋生物の環境保全と地域振興に係る調査研究・技術開発					
<p>1) 海洋生物相調査及び自然史資料の収集 水生生物相の把握、標本等の自然史資料を収集することにより、自然史研究による学術振興、標本収集、普及啓発活動を展開し、博物館的な役割を担う事業を展開する。</p> <p>① 標本等の自然史資料収集および適切な管理 ② 沖縄周辺海域の生物相調査及び環境DNA等の技術開発 ③ 標本の同定、新種、日本新記録種の記載 ④ 他の研究機関や水族館からの標本同定依頼、標本貸出依頼への対応 ⑤ 研究成果の教育普及事業への活用 ⑥ 国内外の研究機関への情報提供</p>	○	<p>【業務計画書のとおりに実施】</p> <p>① 登録標本を50点追加。(継続)</p> <p>② 全国観測網プロジェクトへの継続協力。魚類環境DNAメタバーコーディング手法についての知見を更新。(継続)</p> <p>③ 新種報告(イトヨリダイ属等)の準備中。(継続)</p> <p>④ 標本貸出9件、来訪調査7件に対応、標本データ48,000件を国際的なデータベースS-netに提供。(継続)</p> <p>⑤ おきみゅーでの特別展(可視化展、自由研究のタネ展)の開催や水族館イベント、地元小学校での講師対応。(継続)</p> <p>⑥ 琉球大学、鹿児島大学、近畿大学、北九州市立博物館、千葉県立中央博物館などとの共同研究を実施。(継続)</p>	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおりに適切に実施されている。	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】</p> <p>標本の新規収集や国際データベースへの提供、寄贈資料の整理など管理体制を着実に強化するとともに、企画展や新種報告準備など標本を活用した調査研究を推進している。さらに、採集調査やDNA解析による魚類相の精査、ブラックマンタやウミガメの遺伝解析など飼育展示への応用、環境DNAを用いた沿岸生態系の変化点検出や希少種の生息確認など、多様で先進的な取り組みを着実に進め、学術的・社会的に高い成果を挙げている。</p>
<p>2) 在来希少種の保全に関する調査研究 在来希少種の生態や現況を把握し、保全に寄与する技術開発を行う。</p> <p>① 海洋博公園内の希少種調査、外来種対策調査 ② 在来種の生息域外保全に資する調査研究 ③ 環境省認定希少種保全動植物園等制度を活用したイボイモリ等の国内希少野生動物種やワシントン条約(CITES)掲載種等における保全繁殖学的調査 ④ ヒョウモンドジョウ等の在来希少動物種の生息状況の把握 ⑤ 緊急保護や繁殖技術向上及び生息域外保全活動の実施</p>	○	<p>【業務計画書のとおりに実施】</p> <p>① 稀少爬虫類であるクロイワトカゲモドキ、ミヤコトカゲ、オキナワトカゲおよびミヤコカナヘビ、稀少淡水魚であるヨシノボリ類およびタウナギ等の野生個体群の調査を実施。種の保存や生息域外保全に資する知見を更新。(継続)</p> <p>② アイフィンガーガエルの飼育下繁殖に2年連続成功。ヤエヤマハラブチガエルの幼体の成長記録を収集。JAZAにより希少陸棲貝類の初繁殖が認定。(継続)</p> <p>③ オキナワイボイモリの繁殖は試行中。クロイワトカゲモドキの繁殖行動に関する論文を国際学術誌に掲載。(継続)</p> <p>④ ヒョウモンドジョウの累代飼育を継続中であるが、受精卵の発生が途中停止。希少トカゲ類4種の生息状況調査を実施。(継続)</p> <p>⑤ 昨年度緊急保護受け入れしたリュウキュウヤマガメの繁殖技術向上を目的とした血中ホルモン濃度の調査を実施。(継続)</p>	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおりに適切に実施されている。	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】</p> <p>沖縄県内の両生類・爬虫類・魚類・貝類など多様な希少種について具体的成果を挙げる研究や、海洋博公園という特異な環境を活かした独創的な研究、国内希少動物のDNAリスク分散保存など、学術的・社会的意義の高い取り組みが着実に進められている。特にヤシガニの巣穴利用や甲殻構造の材料工学的研究は科研費を獲得しており、今後の進展が期待される。一方、タイワンハブ駆除技術開発は担当者不在で進捗が停滞しているが、全体として研究目標は十分に達成され、共同研究ネットワークも有効に機能している。今後は当初目標をより具体的に示すことで、評価基準の明確化につながると考えられる。</p>

<p>3) ザトウクジラ調査等 鯨類の生態調査と地元 産業との連携調査 冬期に来遊するザトウ クジラの生態を把握 し、資源管理に資する 情報収集や地元観光業 (ホエールウォッチン グ)に寄与する。 ① 個体識別調査(30年 以上継続)や回遊調査 等の長期モニタリング による資源状態の把握 や予測 ② 漂着個体や混獲個体 の調査や標本の収集 ③ ウォッチング事業等 が鯨類に与える影響調 査 ④ 混獲鯨類の放流及び 衛星タグを用いた追跡 による行動調査 ⑤ 水中マイクを用いた 鯨類の音響モニタリン グ調査 ⑥ 地元観光業者 (ウォッチング事業 等)への情報提供や情 報収集 ⑦ 海外の研究機関と連 携した生態調査の実施</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】 ① 北太平洋全体でのザトウクジ ラの資源状態と気候変動の影響 に関する論文を国際学術誌に掲 載。(継続) ② 4件の死体漂着に対応し、組織 片などをサンプリング。(継 続) ③ 豪州グリフィス大学、米国 Pacific Whale Foundation、地 元事業者と、ザトウクジラ ウォッチングツアーの影響評価 調査を実施。スィムツアーによ る行動変化等について国際学会 で発表。(継続) ④ 東海大学と共同でドローンに よるDNAデータ収集調査を実施。 (継続) ⑤ 英国St. Andrews大学と共同で 沖縄海域のオスの鳴音(ソ ング)解析を実施。ソング構造の 経年変化等について明らかにし 国際学術誌に掲載。(継続) ⑥ 第1回沖縄ザトウクジラワー クショップ開催。ホエールウ ォッチング業者とのルール策定に 向けた各種協議を実施。(新規) ⑦ 環太平洋域の各国とのデータ 共有および共同研究の実施と計 画。アジアストラディン グネットワークの国際ワー クショップを開催(7月)。(新 規)</p>	<p>・年報及びヒア リングにより確 認した。</p>	<p>・業務計画書 のとおり適切 に実施されて いる。</p>	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】 ザトウクジラとシロハイルカに関 する現地調査の規模と内容は素晴 らしく、国際的な志を同じくする 組織との連携も非常に優れてい る。この研究をさらに発展させ るために、ドローンを活用した体 調評価のための写真測量解析 (フォトグラメトリー)や、野生 個体群の健康分析を目的とした呼 気サンプルの回収を導入すること で、さらなる利点が得られる可 能性がある。</p>
<p>4) 水産業振興に関わる 調査研究、技術開発 地域の漁業者等と連携 し、展示生物の取得技 術の向上、水産資源の 新規開拓や養殖技術開 発等により地域の産業 振興へ寄与する。 ① 展示生物の水産種 苗としての導入技術の向 上 ② 水産資源の新規開拓 や養殖技術開発 ③ 収集困難種の人工授 精、孵化による展示へ の試み ④ 財団の特許技術等を 活用し、自治体や関連 機関との連携による水 産業振興への貢献 ⑤ 地元の漁協との連携 や協定による新規展示 生物の情報収集</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】 ① ② 沖縄県栽培漁業センターと 連携し、展示水槽で得られたス マ卵を用いた養殖種育苗成実験 を実施。また、シラヒゲウニの 超音波診断技術を実施し、可食 部重量の推定精度について検討 を行ったが十分な推定精度は得 られなかった。(継続) ③ 飼育困難種であるアカマンボ ウの人工授精を見据え、繁殖実 績のあるグルクマを用いて予備 実験を実施し、詳細な生殖周期 を確認。(継続) ④ 当財団が技術提供したパラオ でのカツオー本釣り活き餌捕獲 装置についてモルディブでの実 証試験を開始。(継続) ⑤ 地域の漁協との連携を継続。 (継続)</p>	<p>・年報及びヒア リングにより確 認した。</p>	<p>・業務計画書 のとおり適切 に実施されて いる。</p>	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】 今年度の成果では、スマの稚魚育 成やシラヒゲウニの可食部推定、 グルクマを用いた深海魚類への人 工授精技術応用など、多様な試み が行われ、今後の発展に向けた課 題も明らかになった。これらの経 験は、技術改善や研究体制強化に 向けた貴重な知見となるものであ り、今後は沖縄県栽培漁業セン ター等との連携強化、役割分担の 明確化によって、各機関の強みを 最大限に活かした効果的な研究推 進が期待される。</p>

<p>5) 海洋文化及び漁労文化など海と人との関わりについての調査研究と資料の収集</p> <p>沖縄の海洋文化や漁労文化の調査を実施し、沖縄の人々と海洋生物や自然事象との関わりについて検証する。</p> <p>①ハーリー（船漕ぎ儀礼）や漁労習俗、催事における儀礼的漁労等の海洋文化に関する調査</p> <p>②海洋生物にまつわる習俗等、文化的調査</p> <p>③造船、操船等、船にまつわる伝統技術の調査研究</p> <p>④各調査データ、収集資料を活用した、公園内外での講演会、シンポジウム、企画展等の実施</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>①②⑧6月に競漕儀礼（与勝地区）8月に海神祭（名護市安部）、9月来訪神儀礼（名護市安部）の実施状況を調査した。調査時に撮影した写真・動画は地区（区長）に共有した。（継続）</p> <p>③サバニ愛好家・建造技術者の協力を得て、沖縄のサバニ技術に関する調査を行った。奄美大島原野農芸博物館の招聘を受け、沖縄のサバニと源流を同じくする丸木舟スブネの展示に関する調査と助言を行った。令和2年度に漁業用サバニ建造を依頼し、その全過程を記録した南城市奥武島の嶺井藤一氏の孫（尚人氏）が、今年度一人でサバニの建造を行い、沖縄における木造船の技術を継承したことを確認した。併せて、海洋文化館における当該サバニの展示解説を修正するとともに、展示状況を改善した。（継続）</p> <p>④海洋博公園を拠点とした愛好者ネットワークを通して沖縄県内の造船・操船技術者の現状について取りまとめ、調査結果を海洋文化館での企画展や一般向け講座（海洋文化講座）、沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）を会場とした出張・海洋文化講座に活用した。12～1月に企画展「沖縄ウミンチュの世界『潜る』古谷千佳子写真展」を開催した。（継続）</p> <p>総合研究所および国営公園管理業務受託者が連携し、8月には海洋文化館においてギャラリートーク「祭りの中の漁労」を開催した。（継続）</p>	<p>・年報及びヒアリングにより確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p> <p>【外部評価委員コメント】</p> <p>・これまで沖縄の中心に行われてきた調査研究を、能登半島など国内の他地域に広げ、里山景観といった視点から比較研究を進めている点が評価される。また特定の植物素材やタロイモなどの食糧資源という具体的な対象を基軸にオセアニアとの比較を行い、また国内の学会・研究会また海外とのワークショップなどを展開している点で今後の発展が期待できる。</p> <p>・沖縄、奄美において調査を継続しているサバニ、海神祭・来訪神儀礼、年中行事、生業活動、植物利用などのフィールドワークを地元の人々の協力のもとで着実に進め、その成果を地元に還元している研究方法是注目される。また、科学研究費や国立民族学博物館プロジェクトなどの外部資金による調査研究は、研究者にとって望まれる研究戦略の実践である。とりわけ、アダンやカジノキの利用、クワズイモ（<i>Alocasia</i> sp.）の無毒・食用化と石焼調理法の関連性の実験など、沖縄とオセアニアに共通する有用植物の活用方法の比較研究は、新しい研究領域開拓の可能性を期待できる分野として評価できる。</p> <p>【外部評価委員コメント】</p> <p>・海洋文化館をベースに、一般市民への知識の還元に取り組んでいる姿勢が具体的にみられる。「アジア・オセアニア・沖縄など、南太平洋の文化を体験できるワークショップ」や「アジア・オセアニアの海洋文化に関する新しいコンテンツの創出」の具体的内容については会議の席上で伺いたいのと、参加者の内訳、あるいは過去の参加者のその後について（どのようにそれぞれの参加者が経験を活かしているか）も伺いたい。</p> <p>・海洋文化館と那覇のおきみゅーでの9回の講演会、企画展、さらには美ら島自然学校でのワークショップは、意欲的で体系的な公開事業である、総計200名を超す参加者を対象に開催できた点で注目される。また、講演の目的と内容は仮面・仮装儀礼、航海術、サバニ・伝統船、海人・漁撈文化、食文化、衣文化など海洋文化館の展示資料との関連性を念頭におき、ワークショップではパンダナス・アダンの葉製ボールづくりやウミガメまつりなど、沖縄と太平洋の海洋文化とものづくり技術にみられる共通性を発見して関心を深めてもらうねらいがあり、高く評価できる。</p>
---	---	--	---------------------------	------------------------------	---

<p>⑤漁具等の有形資料の収集 ⑥各調査データ、収集資料のデータベース化 ⑦地域教育委員会、各種研究機関との共同調査、研究等を通じた協力、協働 ⑧地域の文化継承に資する調査成果の地域への還元、協働</p>			<p>⑤⑥有形資料収集のための調査とデータベース化のための資料整理を行った。(継続) ⑦人間文化研究機構基幹研究プロジェクト国立民族学博物館海域アジア・オセアニア研究拠点と協働、研究会への参加と発表、石焼調理実験を行った。(新規)</p>		<p>【外部評価委員コメント】 ・海洋文化館のカヌー資料も年数がたつて保存における種々の問題が起こっており、随時それらに対応していることがうかがえる。また現在、開館50周年記念特別展が開催されている国立民族学博物館との連携がいろいろな形で模索され、さらに田園学園資料に調査などを行っており、海洋文化館を国内の研究機関と連携させるため、今後に向けた良好なスタートを切ったと判断される。今後も共同のワークショップなどを積極的に展開し、移動展や資料の相互利用などがやりやすくなるように模索していただきたい。 ・海洋文化館の展示・収蔵資料の温湿、カビ・虫害対策を講じて資料を保全管理していることは評価できる。また、国立民族学博物館での船収蔵庫の熟覧と展示・所蔵資料の個々の記録カードの調査が、海洋文化館資料の保存・修復の手法・技術として活用するうえで多くの知見を得たことは注目される。 さらに、海洋文化館展示中のカヌー建造や映像資料作成を担当した(有)海工房を訪問して行った、現地での建造過程や搬送状況などの情報収集の調査は、海洋文化館収蔵資料のデータを拡充するうえで有効である。今後も海洋文化館と同様の資料を展示・収蔵する施設における情報収集活動は不可欠である。 なお、園田学園所蔵のカヌーは、サタウル島ではなくヤップ島の建造で日本へ航海してきたものである。</p>
---	--	--	--	--	--

国内及び国外の水族館・研究機関との情報交換、共同研究、資料収集						
調査研究事業の推進に際し、国内外の研究機関とMOU（覚書）や包括連携協定を積極的に締結し、研究体制の連携を強化しつつ効果的に事業を展開する。	○		【業務計画書のとおり実施】 海洋生物の調査研究をリードする海外の水族館（3機関）と新たにMOUを締結。生態解明や保全技術の開発に関しての連携を開始。（新規）	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
調査研究活動で得られた情報は、学会や学術論文等にて発表するほか、本施設の展示に反映させるとともに、大学等他の機関での講座や、一般向けの講演会、収益施設における冊子や学習グッズの販売等を通して積極的に普及啓発を行う。特に、自然環境保全に資する研究成果については、報道機関等へ向けたプレス発表を行い、成果を広く公表し保全への関心を高めるよう努める。また、本施設や研究所のホームページにて各活動の最新情報を発信する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・学会発表（503件）、論文発表（受理30件）、講演（44件）、ニュースリリース（10件）、メディア露出（テレビ38件、新聞ネット記事114件） ・昨年度の成果をまとめた総合研究所事業年報を財団のHPへ掲載した。（継続） ・今年度の成果をまとめた総合研究所事業年報を財団HPへ5月に掲載予定。	・年報及びヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(7) 普及啓発

	内容	令和5年度実績	事業計画	令和6年度実績	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
	【インタビュー学習】 県内外の学校や教育関連団体からの質疑応答に対応する。	18件148名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	16件178名	89%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。
	【バックヤード見学】 水族館の裏側を見学し、飼育員の作業現場や水族館の設備について学ぶ。	77件1,137名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	70件1,353名	91%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。
	【講師派遣】 水族館の役割や飼育員のお仕事、生き物について講話する。	27件1,361名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	15件1,427名	56%	-	・引き続き取り組みを進めるとともに、プログラムの広報を行う必要がある。
	【オンライン講座（有料）】 スライドや標本等を使い、生き物の生態等についてオンラインで職員から学ぶ。	12件655名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	25件2,170名	208%	-	・修学旅行の事前・事後学習等で活用され、普及啓発に繋がっていることから、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【生きもの観察プログラム】 生体や標本等を使い、生き物の生態について学ぶ。	19件1,425名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。 福祉関連施設、離島等での移動水族館の実施。	7件828名	37%	-	・動物福祉の観点から、生物の負担が多いものを取りやめたことで実施回数が減っている。
	【遠隔授業】 全国の病院・特別支援学校を対象に、生体や標本等を使い、生き物の生態について学ぶ。	74件1,464名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	62件1,325名	84%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。

教室	【触察プログラム】 県内外の視覚特別支援学校を対象に、生体や標本等を使い生き物の生態について学ぶ。	5件48名	視覚障害者への教育プログラムの開発及び実施	10件143名	200%	-	・コロナ禍を経て利用が回復・増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【移動水族館】 地域のお祭り等に生き物を積んだ活魚車で訪問し、水族館のPRや海洋生物の知識普及啓発を実施する。(7, 8, 1, 2月のみ)	11件15, 804名	水族館のPRや海洋生物の知識普及啓発を実施	12件20, 003名	109%	-	・コロナ禍を経て利用が回復・増加傾向にあるので、引き続き取り組みを進める必要がある。
	【ふれあい水族館】 水族館への来館が困難な方々(病院・福祉施設・離島等)を対象に、生き物を積んだ活魚車で訪問する。(7, 8, 1, 2月を除く)	6件507名	福祉関連施設、離島等での移動水族館の実施。	4件666名	67%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。
	【職場体験】 県内の小学高学年(ジョブシャドウ)、中・高校生に対し、飼育員のお仕事体験を通して、働くことに対する関心や職域を広げる。	14件49名	職場体験及び学校行事等の教育普及に対する協力及び指導。	22件90名	157%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。
	【飼育実習】 県内外の大学または専門学校において、水産または動物系を専攻している学生を受け入れ、飼育展示・解説業務等の実習を通して、実践的教育活動を提供する。	41件41名	飼育実習及び博物館実習の実施。	39 件39名	95%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。
	【紙芝居読み聞かせ】 保育園や幼稚園を対象に、園内外で海の生き物を題材としたオリジナル紙芝居の読み聞かせやぬり絵を実施する。	6件282名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	21件916名	350%	-	・令和6年度はとくに利用が多かったことから、他のプログラムとも調整しながら、引き続き取り組む必要がある。
	【映像貸出】 県内外の病院を対象に、展示生物の映像を貸し出し、癒し効果を与える。	13件	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	5件	38%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。
	【ウミガメ放流会】 環境教育の一環としてウミガメの放流を実施し、来場者の環境保全に対する意識向上を図る。	4件56人	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	4件52名	100%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。
	【ウミガメから学ぶ環境学習】 小中学校および教育委員会等と連携し、ウミガメとウミガメを取り巻く環境に関わる学習を実施し、環境保全意識の向上を図る。	3件184名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	3件118名	100%	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。

イベント	【持込イベントの受入れ】第三者が主催する持ち込みの開催等については、必要な調整を行い受け入れる。	Be. OkinawaFreeWi-Fiを活用したスタンプラリーを実施し、観光客の周遊性・集客性を促進する。 実施期間： R5. 11. 17～ R5. 12. 31		・「本部半島エリアを舞台にした「旅する謎解きカブセルトイシリーズ」(期間：R6. 8/1～R7. 1/31)。(継続) ・「海と日本プロジェクト(8/19-25)」。(継続) 参加者数：2,462名	-	-	・良好に実施できている。 ・地域の活動の場として利用してもらうなど、魅力発信の場として多くの団体へ活用できることを広報する必要がある。
	【オンラインイベント(aini)】 コロナ禍で来館が困難となった全国の子どもたちに、より質の高い学びの場を提供する。 また、沖縄美ら海水族館の研究や保全活動を紹介し、今後の活動への理解の促進を図る。	開催数：3回 参加数：42組		実施なし	-	-	・実際の来場機会が増加したことにより、オンラインイベントの開催を見直した。
	【MICE等の受入れ】 営業時間外に黒潮の海大水槽前等をMICE等の会場として提供し、利用促進及び満足度向上を図る。	開催数：14回(MICE) 16回(ウェディング) 参加数：641名(MICE) 146名(ウェディング)	MICEの受入れやウェディング事業を実施することで、水族館の利用促進及び魅力向上に努める。	開催数：15回(MICE) 7回(ウェディング) 参加数：820名(MICE) 57名(ウェディング)	-	-	・引き続き取り組みを進める必要がある。

(8) 飲食・売店営業

1) 飲食施設等

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
飲食・売店営業等						
海洋博公園の便益施設として、全ての利用者が安全・安心かつ快適に利用できるよう、飲食施設、物販施設、自動販売機及びコインロッカー、記念写真の撮影販売、オンラインショップ等の管理運営を行う。 また、販売価格は周辺の市場価格並みの料金に設定し、すべての飲食・物販店舗において、クレジットカード、電子マネー、モバイル決済等のキャッシュレスサービスを提供し利用者の利便性を高める。 併せて、新規POSシステム導入による自動精算、発注・納品・請求書作成、タッチパネルやQRオーダーによるセルフオーダー等の店舗DXの運営に取り組む。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・レストランイノー、カフェオーシャンブルーに順番待ち管理システム（5月導入）、カフェオーシャンブルーにQRオーダー発注システム（7月）を導入、レストランイノーに下膳ロボット（12月）を導入し、店舗のDXの運営に取り組んだ。（新規）	・月報、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・QRコードの導入により、客単価の前年比は上半期約110%、下半期約120%と伸びている。

飲食施設						
店舗の特性やロケーション、季節、利用者層、ニーズに応じ、地域特産品や沖縄の食材を活かした沖縄らしいメニューを中心に、料理・デザート・ドリンク等を提供する。 また、食のバリエーションとして、メニューの多言語表記、写真によるビジュアル化、主な原材料のピクトグラム表示等を行い、ベジタリアン・ハラール・食物アレルギーに係る情報を提供する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・9/8にレストランイノーにて、アレルギー情報の記載ミスによる食物アレルギー事故が発生した。 ・9/28にモーレマーレにて、商品の取り扱いミスによる食物アレルギー事故が発生した。 ・食物アレルギー事故再発防止のため、全飲食店舗でのアレルギー案内表示の再点検、商品取扱手順書の更新、衛生管理の専門機関による教育等を実施した。(10月)	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・おおむね計画書通りに実施されているが、アレルギー事故の発生を受けて計画書の運用面に課題があったと考えられる。	・9/8のアレルギー事故発生要因は、メニュー表のアレルギー情報の表示誤りによるものである。アレルギー情報表示の確認体制の見直しを行い、外部委託によるダブルチェック体制を整理した。 ・9/28のアレルギー事故発生要因は、商品を誤って提供したことによるものである。提供準備時の点呼の不実施や保存容器が類似したことから商品の取り間違えが発生している。保存容器の形状変更や表示の改善を実施するとともに、商品提供時のオペレーションの再確認を行っている。 ・アレルギー事故が続いていることから、食品衛生に関する教育の実施状況や再発防止策の取組状況の確認を定期的実施する必要がある。
1) 営業日・営業時間 ・カフェオーシャンブルー 通常期：8:30～18:00 繁忙期：8:30～19:30 水族館の営業時間に連動して設定。 ・レストランイノー 通常期：9:00～17:30 繁忙期：9:00～19:00 水族館の営業時間に連動して設定。 ・オキちゃんパーラー 通常期：10:00～17:30 繁忙期：10:00～18:30 海獣施設及びウミガメ施設の営業時間に連動して設定。 ※原則、本施設の営業日・営業時間に連動して設定する。ただし、利用者の状況に応じて、県と調整が必要な手続きを行う。	○		水族館の営業時間に連動し、下記のとおり、営業を実施した。 ・カフェオーシャンブルー 通常期(4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31)：8:30～18:00 繁忙期(4/27～5/6、7/20～7/31)：8:30～19:30 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31)：8:30～20:30 ・レストランイノー 通常期(4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31)：9:00～17:30 繁忙期(4/27～5/6、7/20～7/31)：9:00～19:00 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31)：9:00～19:00 ・オキちゃんパーラー 通常期(4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31)：10:00～17:30 繁忙期(4/27～5/6、7/20～7/31)：10:00～17:30 ナイトアクアリウム期間(8/1～8/31)：10:00～17:30 ※オキちゃんパーラーの営業時間は、オキちゃん劇場でのイルカショー開催時間に連動し設定した。	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・水族館の営業時間やイルカショーの開催時間にあわせて店舗毎に営業時間を変更し、利用者のニーズにあわせた対応をしている。

<p>2) 運営内容</p> <p>①カフェオーシャンブルー 沖縄らしい軽食メニュー、デザート、ドリンク等を提供する。また、人気の高い水槽側客席は時間制指定席（有料）として設定し運用する。</p> <p>②レストランイノー 地域特産品や沖縄の食材を活かしたランチビュッフェ、アラカルトメニューを提供する。また、ランチビュッフェの時間帯は、繁忙期を除き、一部の客席に限り事前予約を受付し運用する。</p> <p>③オキちゃんパーラー 沖縄らしい軽食メニュー、デザート、ドリンク等をテイクアウトにも対応したワンハンドフードとして提供する。</p> <p>④美ら海プラザ内飲食施設（モーレマーレ）及びキッチンカー 沖縄らしい軽食メニュー、デザート、ドリンク等をテイクアウトにも対応したワンハンドフードとして提供する。</p>	○		<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美ら海プラザ前芝生広場にキッチンカーを4台（5/7に3台から1台を増設した4台で展開。その後、11/4に4台中1台を新規車両と入替して営業5/7～1台増設、11/4～1台入替）設置し、沖縄らしい軽食メニュー（タコライス、チキン等）やデザート、ドリンク等をテイクアウトにも対応したワンハンドフードとして提供した。 ・GW期間（4/27～5/6）は、増加する利用者に対応するため、美ら海プラザ前芝生広場にて、既存3台に加え、新たに4台のキッチンカーを増設し、合計7台体制で運用を行った。あわせてキッチンカー4台（計7台）と休憩エリアを臨時的に増設し、飲食物を提供した。 	<p>・月報、ヒアリング、現地等で確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>3) オリジナルメニューの開発・提供 利用者の満足度向上を図るため、地域特産品を活用したオリジナルメニューや水族館の展示内容をイメージしたメニューを開発し提供する。</p>	○		<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産品を活用したオリジナルメニューとして、地元本部高校生が考案した、本部町産ブランドパイン「もとぶかりゆしゴールド」を使用した「パインカレー」をレストランイノーのビュッフェにて期間限定で提供した。（8月～9月）（新規） ・新たに本部町産パインのゴールドバレルをレストランイノーのビュッフェにて取り入れ提供した。（7月提供開始）（継続） ・オキちゃんパーラーでは、県産シークワサーを使用した冷製パスタを販売した。（7月販売開始）（新規） 	<p>・月報、ヒアリング、現地等で確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

<p>4) 安全衛生管理の徹底</p> <p>①安全衛生管理計画に基づき、法定点検及び自主点検を実施する。</p> <p>②飲食施設には、食品衛生責任者を配置し、HACCP（ハサップ）の考えに基づいた衛生管理及び安全管理を徹底するとともに食品衛生教育を年3回以上実施する。</p> <p>③食品衛生管理マニュアル、異物混入防止対応マニュアル、食物アレルギー対応マニュアル、食中毒対応マニュアル等に基づき、安全衛生管理に努める。</p> <p>④各施設の衛生管理全般について、衛生管理の専門機関による定期的な衛生点検を実施し、指導・助言を受ける。</p> <p>⑤各施設の営業許可の取得・更新や届出を適切に実施する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>①安全衛生管理計画に基づき、法定点検の実施と自主点検として、冷蔵・冷凍庫の温度管理、賞味期限等管理、衛生点検、身だしなみチェックなどを実施した。（継続）</p> <p>②飲食施設には、食品衛生責任者を配置し、HACCP（ハサップ）の考えに基づいた衛生管理及び安全管理を実施した。（継続）</p> <p>・衛生管理の専門機関による食品衛生教育（第1回目：6/27、第2回目：10/10、第3回目：2/13）を実施した。</p> <p>・9/8にレストランイノーで発生した食物アレルギー事故を受け、9/9から9/16にかけて、消費者庁が公開している食物アレルギーに関する教育用動画を視聴する方法で教育を実施した。</p> <p>③食品衛生管理マニュアル、異物混入防止対応マニュアル、食物アレルギー対応マニュアル、食中毒対応マニュアル等に基づき、安全衛生管理に努めた。（継続）</p> <p>④衛生管理の専門機関と衛生点検及び教育等に係る契約を締結し、各施設における定期的な衛生点検等を実施、指導・助言を受けた。</p> <p>・食物アレルギー事故を受け、衛生管理の専門機関から食物アレルギー情報提供に係る助言を受けながら、再発防止策について整理した。（継続）</p> <p>⑤キッチンカー増設（5/7～1台）、入替（11/4～1台）時に於いて、当該車両の営業許可取得が適切に実施されている事を確認するとともに各施設の営業許可にかかる情報を適切に管理した。（継続）</p>	<p>・月報、ヒアリング、現地等で確認した。</p>	<p>・おおむね計画書通りに実施されているが、アレルギー事故の発生を受けて計画書の運用面に課題があったと考えられる。</p>	<p>・アレルギー事故が続いていることから、食品衛生に関する教育の実施状況や再発防止策の取組状況の確認を定期的な実施する必要がある。</p>
<p>5) 利用者満足度の向上への取組み</p> <p>①調理師等の豊富な商品知識を有する資格者を配置し、利用者へ満足度の高いサービスを提供する。</p> <p>②多客時には、スタッフの増員等適切に人員を配置し、円滑にサービスを提供できる体制とする。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <p>①調理師、販売士、サービス・実務検定、サービス助手などの有資格者を配置し、利用者へ満足度の高いサービスを提供した。（継続）</p> <p>②多客時には、店舗運営の応援として、アルバイトの活用、事務所から人員を配置し、円滑にサービスが提供できるよう対応した。（継続）</p>	<p>・月報、ヒアリング、現地等で確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

2) 物販施設等

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
物販施設						
ジンベエザメ・マンタ・イルカ等の展示生物に因んだオリジナル商品、本施設の展示生物や研究成果を活かしたミュージアムグッズを開発し販売する。販売にあたっては店舗の特色にあわせて商品を展開する。	○		【業務計画書のとおり実施】	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
1)営業日・営業時間 ・ショップブルーマンタ 通常期：8:30～18:30 繁忙期：8:30～20:00 水族館の営業時間に連動して設定。 ・オキちゃんショップ 通常期：9:30～17:30 繁忙期：9:30～18:30 海獣施設及びウミガメ施設の営業時間に連動して設定。 ※原則、本施設の営業日・営業時間に連動して設定する。ただし、利用者の状況に応じて、県と調整し必要な手続きを行う。	○		水族館の営業時間に連動し、下記のとおり、営業を実施した。 ・ショップブルーマンタ 通常期（4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31）：8:30～18:30 繁忙期（4/27～5/6、7/20～7/31）：8:30～20:00 ナイトアクアリウム期間（8/1～8/31）：8:30～21:00 ・オキちゃんショップ 通常期（4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31）：9:30～17:30 繁忙期（4/27～5/6、7/20～7/31）：9:30～17:30 ナイトアクアリウム期間（8/1～8/31）：9:30～17:30 ※オキちゃんショップの営業時間は、オキちゃん劇場でのイルカショー開催時間に連動して設定した。	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2)運営内容 ①ショップブルーマンタ ミュージアムショップとして研究成果に基づくアカデミック・ミュージアム商品のほか、地域特産品や県産素材を活用した観光土産品、生活・日用雑貨品等を販売する。 ②オキちゃんショップ 海獣施設のイルカ、マナティー、ウミガメ等の展示生物に因んだグッズを中心に販売する。	○		【業務計画書のとおり実施】	・月報、ヒアリング、現地等で確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

<p>3) オリジナル商品の開発・販売</p> <p>当財団の総合研究所や地元企業、地域団体と連携し、展示生物に因んだオリジナル商品や生物図鑑等の書籍、展示生物を忠実に再現した模型等、学習要素の高いグッズを開発し販売する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業と連携し、本部町産グリーンダイヤモンドワッフルクッキーを使用したお菓子「もとぶグリーンダイヤモンドワッフルクッキー」、「もとぶグリーンダイヤモンドワッフルクッキー」を開発し、販売した。(4月販売) ・新たに展示生物をデザインした「オリジナル傘」(5月販売)や水族館の企画展示「アナゴの日」に因んだ限定商品として「トートバッグ、サコッシュ、マスキングテープ、ステンレスボトル、タンブラー」を開発し、販売した。(7月販売) ・新たに水族館飼育員が執筆した書籍「巻貝のふしぎ」を販売した。(7月販売) ・ふしぎシリーズ10周年を記念し7冊セットを販売した。 ・地元企業との連携により県産アセロラを使用した「アセロラサイダー」を開発、「ちゅうらみサイダー(アセロラ)」として、シリーズ追加し、販売した。(7月販売) ・新たな地域連携商品として、農業加工品「ヤギミルククッキー」を開発し、販売した。(12月販売) 	<p>・月報、現地等で確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水族館オリジナル商品として北部地域の特産品を活用した商品開発を行っており、今後の開発にあたっては製造・納品元との情報共有および調整を行いながら、利用者のニーズに即した商品開発に取り組む必要がある。
<p>4) 安全衛生管理の徹底</p> <p>①安全衛生管理計画に基づき、法定点検及び自主点検を実施する。</p> <p>②取り扱う食品類は、JAS法に基づく品質表示基準等の確認を行う。</p> <p>③物販店舗における商品の衛生管理マニュアルに基づき、安全衛生管理に努める。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p>	<p>・月報、ヒアリング、現地等で確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>5) 利用者満足度の向上への取組み</p> <p>①販売士等の豊富な商品知識を有する資格者を配置し、利用者へ満足度の高いサービスを提供する。</p> <p>②多客時には、スタッフの増員等適切に人員を配置し、円滑にサービスを提供できる体制とする。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p>	<p>・月報、ヒアリング、現地等で確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

3) 自動販売機及びコインロッカー等

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
自動販売機及びコインロッカー						
自動販売機及びコインロッカーは施設利用者の利便性と公園内の景観に考慮し、適切な場所を選定し、利用実態にあわせた台数を設置する(別紙3自動販売機等位置図)。自動販売機は、品質・衛生管理を徹底するとともに、オリジナル性・話題性のある商品(ちゅうみサイダー、焼き芋等)や機材を選定し、利用者のニーズに合わせた商品を適時入れ替えながら販売する。また、大規模災害時に飲料の無償提供が可能な災害ベンダー機能搭載自動販売機を設置する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】 ・自動販売機及びコインロッカーは施設利用者の利便性と公園内の景観に考慮し、自動販売機40台(内訳: 立体駐車場12台、水族館11台、美ら海プラザ8台、オキちゃんショップ横5台、オキちゃん劇場トイレ横4台)、コインロッカー33口(水族館入口)を設置した。(継続) ・コインロッカー(水族館入口)について、キャッシュレス対応のコインロッカーに更新した。(3月設置)(継続) ・オリジナル性、話題性のある自動販売機として、ちゅうみサイダー専用2台(内訳: 美ら海プラザ1台、水族館1台)、焼き芋専用1台(美ら海プラザ)を設置した。(継続) ・大規模災害時に飲料の無償提供が可能な災害ベンダー機能搭載自動販売機を28台(内訳: 立体駐車場12台、水族館8台、美ら海プラザ5台、オキちゃんショップ横2台、オキちゃん劇場トイレ横1台)設置した。(継続)	・月報、日報、販売記録、ヒアリング等により状況を確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
1)運営内容 ①自動販売機またはコインロッカーの不具合について、利用者から申し出があった場合には、料金の返金を含め迅速な対応を行う。			【業務計画書のとおり実施】			
2)安全衛生管理の徹底 ①自動販売機及びコインロッカーを設置する際には、水平となるよう設置し、アンカー等による転倒防止策を講じる。 ②自動販売機運営マニュアルに基づき、安全衛生管理に努める。			【業務計画書のとおり実施】			

4) 記念写真の撮影販売

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
記念写真の撮影販売						
美ら海プラザでは展示生物をモチーフとした模型セットで記念写真撮影を行う。また、オキちゃん劇場周辺では、イルカ等の生物の健康管理に配慮しながら、展示生物（イルカ等）との記念写真撮影を行う。			【業務計画書のとおり実施】 ・オキちゃん劇場周辺でのフォトサービスは、オキちゃん劇場の施設修繕工事のため、令和5年9月以降、サービスを休止していたが、オキちゃん劇場の工事完了（12月）を受け同月よりサービスを再開した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

1) 運営内容 ①記念写真は、オリジナル台紙付の写真と合わせて画像データ等を販売する。	○	○	【業務計画書のとおり実施】			
2) 利用者満足度の向上への取組み ①多客時には、スタッフの増員等適切に人員を配置し、円滑にサービスを提供できる体制とする。			【業務計画書のとおり実施】			

5) オンラインショップ（ECサイト）の運営

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
オンラインショップ（ECサイト）の運営						
沖縄美ら海水族館公式オンラインショップ（ECサイト）を運営し、国内外の水族館ファンに対して水族館オリジナル商品の購入機会を提供する。	○		【業務計画書のとおり実施】	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
1) 運営内容 ①沖縄美ら海水族館公式オンラインショップ（ECサイト）において、水族館オリジナル商品を中心に販売を行う。 ②イルカやマナティー等の体験プログラムのチケットを販売する。ただし、体験プログラムが中止となった場合は返金対応を行う。			【業務計画書のとおり実施】			
2) 安全衛生管理の徹底 ①取り扱う食品類は、JAS法に基づく品質表示基準等の確認を行う。 ②物販店舗における商品の衛生管理マニュアルに基づき、安全衛生管理に努める。			【業務計画書のとおり実施】			

6) 環境への配慮、SDGsに関する取組み

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
環境への配慮、SDGsに関する取組み						
天然素材の商品袋・容器・ストロー等、脱プラスチック製品への切り替えを推進するほか、地域食材を活用した商品開発による地産地消、食材や提供する料理の個食セット化による食品廃棄ロスの減、食品残渣の堆肥化による再利用を推進する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・物販施設では天然素材（紙製）の商品袋を導入済み。（継続） ※一部の商品袋は、撥水加工済み商品袋（紙製）に切り替え済み。 ・本部町産食材（野菜等）をレストランイノのランチビュッフェに取り入れるなど、地産地消を推進した。（継続） ・飲食施設では、食材や料理の個食セット化又はレトルト化を推進し、食品廃棄ロスの減と調理業務の効率化に取組んだ。（継続） ・飲食施設から排出される使用済み食用油は、廃棄せず、廃食用油リサイクル業者に回収してもらい再利用を推進した。（継続） ・食品残渣の堆肥化による再利用は、各種堆肥化機器の調査を行い、処理能力、分解方式、導入コストなど情報収集した。※機器購入や専門業者による回収方法も含め検討中。（継続）	・ヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(9) 広報・誘客

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
広報宣伝活動・利用促進						
1)本施設の魅力度アップ ①世界初、日本初となる魅力度の高い生物の展示や話題性のある展示 世界初、日本初となる魅力度の高い新規生物の展示や、利用者のニーズに合わせた展示を実施する。			【業務計画書のとおり実施】 ・98種の日本唯一展示や49種の世界唯一の展示を実施した。また「日中に生まれたサングの累代繁殖」や世界初展示となる「ケブカミズヒキガニ」「オオアカムツ」「ヤマブキハタ」等はニュースリリースを行ったほか、「ブラックマンタの仔魚誕生」「ブラックマンタ親子展示」についてNR以外にもSNSで随時発信するなど、話題提供を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。 ・HP、SNS(Facebook、YouTube)の配信状況を確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
②参加体験プログラムの充実 国際基準(WAZA)のふれあいガイドラインに基づいたイルカやウミガメと触れ合える体験プログラムや、専門教育を受けた解説員によるバックヤードガイドツアー、公園をフィールドにした環境学習プログラム等のプログラムの充実を図る。			【業務計画書のとおり実施】 ・一般向けバックヤードツアー「裏側まるごとウォッチング」や、教育機関向けの「バックヤード見学」を実施した。(継続) 【沖縄美ら海水族館☆ナイトガイドツアー】52名 【裏側まるごとウォッチング(バックヤードツアー・有料)】参加者:4,501名※スペシャルバックヤードツアー含む 【バックヤード見学】70件1,353名 【ウミガメから学ぶ環境学習】3件118名 【イノ一の生き物観察会】2件219名			

<p>③教育・環境保全活動に対する優遇措置の実施</p> <p>県内での一定の環境保全活動に対し入場券（エコクーポン）を提供し、取り組みについてホームページ等で周知し、水族館の利用促進と環境保全に寄与する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃などを行い、申請のあった16団体へ計1,035枚のエコクーポンを交付した。（継続） 			
<p>④オンラインによる質の高い教育の提供</p> <p>質の高い教育コンテンツを国内外に提供し、すべての人が学びながら楽しめる「沖縄美ら海水族館」を目指す。特に、本施設への来場が困難な全国の医療施設の子どもたちにオンラインプログラムやICTを使った「より質の高い学びの場」を提供し、生物や科学への興味関心を高める。また、参加者個人が自宅で楽しめるオンラインイベントを実施する。更に、美ら海アプリ「かざすAI図鑑」でスマートフォンのカメラをかざすことで展示生物の名前や特徴が表示できるサービスを継続して提供する。</p>		<p>【業務計画書のとおり実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設等に入院している子どもを対象に遠隔授業（62件）を実施し、質の高い学びを提供した。うち3件は海外の医療機関を対象とした。（継続） ・日本財団「海と日本プロジェクト」イベント「海中の大冒険！"海"学ぶ探検ツアー」を美ら海シアター内で実施した（期間：8/19～8/25）。（継続） 			

<p>2) 広報宣伝活動 ① 広報宣伝活動 新聞やラジオ等のメディア広報のほか、HP、SNSを活用し、リアルタイムに本施設の魅力を発信する。行催事や展示、生物の情報等を、マスコミや観光関連機関あてニュースリリースとして積極的に情報発信を行う。</p>		<p>【業務計画書のとおり実施】 ・水族館HPやSNS (Facebook・Instagram) で生き物の紹介など行った。また、スマートフォンアプリ「美ら海アプリ」のお知らせ機能(プッシュ通知)を活用しアプリケーション利用者に向け、直接的な告知を行った。 (継続) ・「美ら海アプリ」を使用した【第6回 美ら海フォトコンテスト】を開催し、開催中に美ら海アプリのインストール数を15,176人増やすことに成功した。(継続) ・「美ら海アプリ」を使用した『デジタルスタンプラリー』を4回(GW・夏休み・冬休み・春休み)に開催し、期間中に美ら海アプリのインストール数を11,123人増やすことに成功した。(継続) ・Facebookで243回、Instagramで494回投稿を行い、リアルタイムに本施設の魅力を発信した。 (継続) 【HPアクセス数】14,781,172件 【美ら海アプリインストール数】53,400人増加 計237,310人 【YouTubeチャンネル登録数】818人増加 計16,236人 【視聴回数】490,339回 計2,281,573回 ・ニュースリリースとして行催事や展示・生物の情報を、マスコミ等を通じて本施設の魅力を下記件数発信した。(継続) 【NR配信件数】23件 【NR取材件数】41件 【報道件数】504件 ・沖縄JTB(株)が運営するSNS「おきなわLikes」にて、美ら海ナイトアクアリウムを紹介する為に、モデルを配置した映像撮影を行い、ナイトアクアリウム広告投稿を実施した(期間: 8/2)。(継続)</p>	<p>・月報、ヒアリング等により確認した。 ・HP、SNS (Facebook、YouTube) の配信状況を確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。 ・ニュースリリースの発信先にPRタイムズを加えたことで、発信量が増え、報道件数の増加につながっている。また、入館者数6000万人達成や、オキ・ムク飼育50周年、ジンタ飼育30周年等の節目を記念する行催事を実施したことから、積極的な広報活動を行った。</p>
<p>② 地元密着型広報宣伝活動 HPやSNSの利用頻度が低い層にも本施設の情報を伝えるため、県内の公民館、老人会、婦人会、学童保育等の団体を直接訪問し、行催事や展示内容等について情報提供を行い、県民利用を促進する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】 ・公民館や自治会等へ直接訪問し、水族館及び園内の行催事等情報を提供した。(件数: 2,239件)。(継続)</p>			

<p>③県外広報宣伝活動 首都圏、地方中堅都市 などを中心に、県外で のプロモーションイベ ントなど広報宣伝活動 を実施し、誘客促進を 行う。</p>	<p>【業務計画書のとおりに実施】 ・カールFフヘラ社と連携して水 族館オンライン講座を行い水族 館および研究成果のPRを実施し た（期間：7/17）。（継続） ・神戸三宮商店街にて、どさん こしまんちゅフェスティバルに2 日間出展し、美ら海ナイトアク アリムや水族館のPRを実施した （期間：7/21～7/22）。（継 続） ・鳥取県海とくらしの史料館に てサメトークショーを開催し、 水族館の活動についてPRを実施 した（期間：7/28）。（新規） ・神奈川県鶴見区サルビアホ ールにてつるみちゅうみサマー スクールに参加して水族館のPR を実施した。大水槽3D上映会・ サメ博士クジラ博士教室・ジン ベエザメバルーン設置（期間： 8/31～9/1、参加者1,431名）。 （継続） ・東京ビックサイトにて、ツ ーリズムEXPOジャパン2024に出 展し研究成果発表および水族館P R（イルカ・ジンベエザメ給餌 オンライン配信、繁殖個体展 示）を実施して誘客を実施した （期間：9/26～9/29）。（継 続） ・日比谷ガーデニングショー 2024に出展し水族館研究成果等 のPRを実施した（期間：10/19～ 10/27）。（新規） ・沖縄MICE・教育旅行セミナー &商談会に出展し、ユニークベ ニューとしての水族館等の利活 用の提案を行った（期間： 2/27）。（継続）</p>			
<p>④展示生物をモチーフ にした大型造形花壇等 の飾花演出 ジンベエザメやマン タ、クマノミ等水族館 で人気の展示生物をモ チーフにした大型造形 花壇を海洋博公園内や 周辺沿道に設置し、 フォトスポットの創出 や本施設のPRを実施す る。</p>	<p>【業務計画書のとおりに実施】 ・フォトスポットの創出や本施 設のPRのために、本部町浦崎交 差点及び本部町伊豆味区喜仙川 線にジンベエ、クマノミの大型 造形花壇を設置した。（継続）</p>			
<p>3) 来場者の利便性向上 ①美ら海アプリを活用 した情報発信 独自で開発したスマー トフォンアプリ「美ら 海アプリ」において館 内の混雑状況、台風等 による臨時閉館情報や 営業時間等のリアルタ イム情報を多言語で発 信する。また、スマー トフォンを水槽の生き 物にかざして名前を表 示する等インタラク ティブに水族館を楽し めるサービスを提供す る。</p>	<p>【業務計画書のとおりに実施】 ・「美ら海アプリ」のブッシュ 通知機能を31回利用し、新たな 展示やイベント情報等をリアル タイムで発信した。（継続） ・美ら海アプリ」内の【かざす AI図鑑】は最新のOSまでサポー トされており、インタラクティ ブなサービスの提供を継続出来 た。（継続）</p>	<p>・月報、ヒアリ ング等により確 認した。 ・HP、 SNS (Facebook、 YouTube) の配信 状況を確認し た。</p>	<p>・業務計画書 のとおり適切 に実施されて いる。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

<p>②周辺道路や交通弱者への情報発信 周辺道路の混雑状況にあわせた情報の提供や、車での移動が困難な来場者に対し、公共交通機関（高速バス等）の情報を提供し、県内幹線道路における渋滞緩和や環境負荷軽減に寄与する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】 ・公共交通機関では、もとぶ周遊バス（6/1～2/2）が本部町内を運行し16,234人が利用（継続）、北谷ダイレクトエクスプレス便「Goo Chatan」が那覇空港-北谷-沖縄美ら海水族館を運行し473人が利用（新規）、わったーばす党（9/4～9/29）が運行し水曜日は1.3倍（新規）、日曜日は3.1倍の利用効果があり、公共交通機関の利用による来場者の環境負荷軽減に繋がった。（継続） ・施設までのバス交通の充実に合わせ、随時情報発信（やんばる旅ナビ・施設HP等）した。（継続）</p>			
<p>4)混雑緩和・施設利用平準化 ①営業時間の検討 これまでの管理運営で得られたデータに基づき、利用実態に即した営業時間の検討を行う。</p>		<p>【業務計画書のとおり実施】 ・県へ開場時間の変更申請を行い、通常期（4/1～4/26、5/7～7/19、9/1～3/31）、繁忙期営業（4/27～5/2、5/6、7/20～7/31）、GW期間（5/3～5/5）、ナイトアクアリウム期間（8/1～8/31）の営業とした。 ・7/13は「海洋博公園サマーフェスティバル2024」開催に伴い開場時間の変更申請を行い、23時まで営業時間を延長した。</p>	<p>・月報、ヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。 ・ナイトアクアリウム期間（8/1～8/31）は夕方にイベント実施するなど、昼間の混雑緩和に向けた取り組みを行った。 ・コロナ禍を経て、入館者数が増加していることから、混雑緩和策を引き続き検討していく必要がある。</p>
<p>②利用分散化による混雑緩和 本施設は10時から15時にかけて利用が集中していることから、利用を分散し館内を快適に楽しんでもらうため、人気の高いイルカショーや給餌解説を午前中にも実施するほか、参加体験プログラムを充実させ、利用者を館外施設に分散化することで館内の混雑を緩和する。</p>	○	<p>【業務計画書のとおり実施】</p>	<p>・月報、ヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>③県民利用の促進 県民の利用促進を図るために、沖縄県内の学校団体（小中学校・高等学校）、児童福祉施設・学童保育施設等の児童・生徒の入場料を免除する。</p>		<p>【業務計画書のとおり実施】 ・令和6年度実績：504件21,063人</p>	<p>・月報、ヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>④チケットのスマート化による混雑緩和 コンビニエンスストアやWEB等、園外でのチケット販売を促進するほか、QRコード搭載チケットを導入することにより券売所の混雑を緩和する。</p>		<p>【業務計画書のとおり実施】 ・QRコード読み取り可能な入口改札機及びキャッシュレス決済が可能な自動券売機に更新し運用を開始後、券売所窓口の混雑緩和に繋がった。（継続） ・コンビニエンスストアに設置されているマルチコピー機でのQRコード連携チケットの発券及び販売に向けて調整を行い、テスト販売を実施した。（新規） ・イルカ給餌体験チケットの現金販売を取りやめ、WEB販売のみとしたことにより窓口混雑緩和と利用者の利便性向上に繋がった。（新規）</p>	<p>・月報、ヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。 ・令和7年度からコンビニエンスストアのマルチコピー機でのQRコード連携チケットの販売を開始し、入口の混雑緩和に取り組む。</p>

関連機関連携						
1) 県内事業者と連携した広報・誘客促進 沖縄県やOCVB、県内自治体、観光施設等と連携し本施設の広報展開を図るとともに、旅行会社やバス会社、レンタカー会社等と連携し本施設を組み込んだ旅行商品を造成し誘客促進を図る。 また、(一社)美ら島観光施設協会に加盟する沖縄県内観光施設との連携を継続し、相互利用を進める。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・旅行会社等と連携したオンラインツアーを実施し、今後の誘客促進に繋げた。(件数: 4件 168名)。(継続) ・OKINAWAコレクション2024に協力し、フライヤー・広告物・大型スクリーンに広告掲載した。またインフルエンサーを招へいし若年層(Z世代)にむけてSNSを活用した広報展開を行った。(期間: 6/15~6/16)。(新規) ・研究者向け日本旅行エクスカーションツアーを水族館バックヤードにて実施した。(期間: 9/1, 9/7)、参加者78名)。(新規) ・日本トランスオーシャン航空(株)による図画コンクール作品を館内入口に掲示して教育普及およびPRを実施した。(期間: 7/31~8/14)。(継続) ・那覇空港にて、水族館及び公園のイベントPRを行い、閑散期における誘客促進を図った。(期間: 1/18~2/17)。(新規)	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) 北部の自治体や観光事業者等と連携した「やんばるを楽しむ」プランの企画 沖縄県北部の自治体、観光事業者等と連携し、北部周遊旅行商品のルート策定及び、やんばるの自然・食・文化を楽しむプランの紹介等、やんばるを丸ごと楽しむ利用促進策の企画を行う。 また、公共交通機関や二次交通利用を促進し、沖縄県内北部周遊促進などの企画創出を行う。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・デパートリウボウ前で「6.10もとぶの日」PRイベントにて美ら海移動水族館と美ら海ナイトアクアリウムPRを実施した(期間: 6/9)。(新規) ・北谷町アメリカンビレッジにて本部町観光物産展を実施し、ジンベエザメバルーンの展示および水族館利用促進PR、アンケートを行った(期間: 9/7~9/8)。(新規) ・やんばるアートフェスティバルの1プログラムとして館内にアート作品を展示し誘客促進と沖縄北部周遊促進を図った(期間: 1/20~2/24)。(新規)	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
3) 沖縄北部観光の魅力のPR 沖縄県北部の自治体、観光事業者、旅行者等関連団体と連携を図り、沖縄県北部地域全体の魅力向上を図るコンテンツを創出し、北部地域の滞在時間増加を促す。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・本部町海洋まつりにて美ら海移動水族館とナイトアクアリウムPRを実施した(期間: 7/21)。(継続) ・本部港クルーズ船RESORT WORLD ONE寄港対応をして、やんばるエリアおよび水族館誘客PRを実施した(期間: 8/15)。(新規) ・本部町などと連携し、北谷町・本部町観光物産展in海洋博公園を美ら海プラザ前で実施し、北部地域への誘客促進等を図った(期間: 11/2~11/3)。(新規)	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・北部の滞在時間増加に向けて地域や観光事業者と連携しながら魅力を発信し、様々な企画を検討していく必要がある。

報道対応						
1) 報道対応・撮影対応 担当窓口を設け申請者と調整を行い必要な手続きを行う。撮影時等においては担当者が立ち会い、利用者や撮影者等の安全確保を第一に対応する。	○		【業務計画書のとおり実施】 【NR取材件数】23件 【報道件数】504件 【ロケ取材件数(国内向け)】152件 【ロケ取材件数(海外向け)】10件	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
2) 広報素材の貸出 本施設のPRの一環として実施する資料貸出（静止画・動画等の広報素材の貸出及び使用）については、公平性並びに中立性の確保を前提として、当財団が記事等の内容について確認する。	○		【業務計画書のとおり実施】 【資料貸出件数】621件	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
3) WEBにおける広告効果 国内のニュースサイト及びSNS等における、本施設に関する掲載記事の有無・掲載記事の効果測定を実施する。	○		【業務計画書のとおり実施】 ・国内のニュースサイト及びSNS等における、本施設に関する掲載記事の情報収集を行った。 （継続） ・Meltwataer社のオンライン分析ツールを導入し（継続）、PRTIMES配信後（新規）に転載された国内のニュースサイト及びSNS等における、本施設に関する掲載記事の情報収集を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・オンライン分析ツールを活用し、より効果的な広報活動をするために積極的な情報収集を行っている。

(10) 受付・接客

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1) 接客マニュアルによる基本対応と臨機応変な対応 2) 実務研修と資格取得の奨励 3) 適切な混雑時対策 4) 迷子への対応 5) 苦情や不当要求に対する対応 6) お客様の声委員会による迅速な対応	○		1) 従業員ガイドブックや接客マニュアルにより、スタッフ全員が挨拶・身だしなみ・接客・苦情対応・電話対応・案内誘導・近隣施設案内等の基本について共通認識を持って対応した。 お客様の要望に合わせ、臨機応変に案内誘導を行った。 2) 新規採用者を対象とした接客に関する内部研修を実施し、職員のスキルアップに努めた。 11月に「サービス接客実務検定」「サービス介助士資格」の資格取得を奨励し、サービスの質の向上に努めた。 3) 館内の混雑状況に応じ蛇行入場させる等、混雑緩和と危険防止に努めた。 立体駐車場の満車時や水族館内の混雑時には、立体駐車場の利用規制を行い、国営公園管理業務受託者と連携し、国営公園駐車場へ車両を誘導案内することで、駐車車両の分散化を行った。 GWの繁忙期のうち、5/3～5/5は水族館滞留者の分散化及び安全確保を図るため、開場時間を8時10分とした。 参加体験プログラムを充実させ、利用者を館外施設に分散化した。 4). 5) 業務実施体制図(別紙7)に基づき、総括責任者、業務責任者および各担当職員の配置を行い、業務を実施した。 6) Webアンケートを継続して実施し、お客様からのご意見を1週間毎に取りまとめ、展示等の方向性に反映させる等実施した。財団内部、県、国事務所へ情報の共有を図るとともにホームページ(お客様の声)で公開し、改善等については適切に対応した。	・ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(11) 情報管理

事業計画			実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
指定管理者	委託業者	(事業報告書)		(現地確認)		
個人情報保護						
法令や財団が定める個人情報・特定個人情報取扱規程等に基づき、業務上知り得た個人情報は適切に管理するものとする。	○		【業務計画書のとおり実施】	・ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

3. 自主事業（地域還元事業・公園関連事業）

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
地域還元事業						
①地域に根ざした行事						
季節を楽しむ催事 GW・夏休み・ハロウィン・クリスマス・正月等一年を通して季節を楽しむ催事、地域団体と連携し体験コンテンツや演舞披露等の開催に協力し、地域振興に寄与することを目的として国営公園管理業務受託者と連携して実施する。			・上半期においては、園内季節催事（GW）で、地域の保育園や学童等と連携したキッズアートの展示を実施。その他”伝統芸能ステージ”や”南の文化ステージ”を開催し、学生によるエイサー演舞や集落に伝わる伝統芸能の披露を行った。夏休み催事では、琉球藍を用いた藍染体験会を実施した。 ・下半期には、本部町の持込イベント「もとぶ食と文化フェスタ」を本部町と共催で連携して実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・美ら海花まつりの開催時は、イルカラグーン付近に大型看板を設置し、水族館エリアでの広報活動を実施し誘客に取り組んだ。
サマーフェスティバル 海洋博公園花火大会 海と花火を楽しめる県内有数の集客イベント。公園の利用促進、沖縄観光への寄与、地域への誘客を目的として国営公園管理業務受託者と連携して実施する。			「海洋博公園サマーフェスティバル」 ・開催日：令和6年7月13日（土）、14日（日） ・開催場所：国営沖縄記念公園 海洋博覧会地区 エメラルドビーチ、熱帯ドリームセンター ・開催内容：7/13エメラルドビーチにて、「海洋博公園花火大会」、熱帯ドリームセンターでは「水かけイベント」、「ステージイベント(14日（日）実施)」を実施した。 7月13日（土）は、エメラルドビーチ及び隣接する水族館関連区域へ県内客を中心に33,733人の集客があり、県民の利用促進や沖縄県、特に北部地域の観光振興に寄与することができた。			

<p>海洋博公園美ら海花まつり 県内の「花のカーニバル」と連携し、公園の利用促進、沖縄観光への寄与、地域団体による壁面花装飾等誘客促進を目的に実施される本イベントに国営公園管理業務受託者と連携して実施する。</p>	○	<p>・催事名称：第20回美ら海花まつり ・実施期間：令和7年1月18日（土）～3月31日（月）計73日間 ・実施場所：中央噴水広場周辺および熱帯ドリームセンター ・実施目的： （１） 海洋博公園施設の利用促進 （２） 公園施設利用者の満足度向上 （３） 「沖縄花のカーニバル」との連携による冬の沖縄県観光の振興 ・実施内容： （１） 今回のテーマを「咲き誇る花の宝宝箱」とし、海洋博公園の各所をペゴニア・マリーゴールド、ピオラ等の44品種約30万株の草花で装飾展示した。中央階段では、海の生き物や干支（蛇）の花絵や模様花壇、ハンギングバスケット等を展示した。 （２） 噴水広場に熱帯ドリームセンターの模型とパネルを展示し、熱帯ドリームセンターに続く園路沿いを沖縄の生き物をイメージした造形物花壇やFRP造形物等を使用して草花で装飾した。熱帯ドリームセンターでは、チューリップの展示を行った。 （３） 2m×5mの壁面の花装飾を本部町5団体、沖縄市1団体のボランティアに協力していただき壁面装飾を実施した。 （４） 「美ら海花まつり20周年の変遷」に関するパネルを会場内に展示し、これまでの美ら海花まつりを紹介した。</p>			
②公園PR関連事業					
<p>フラワーロードの設置 水族館・海洋博公園の周辺地域（浦崎・伊豆味）の道路に造形花壇等を設置し、周辺地域的美観向上、公園利用者の満足度向上に寄与する。週に3回以上巡回を行い、不具合防止等の安全管理に務めている。</p>		<p>・海洋博公園周辺地域的美観向上、公園利用者の満足度向上に寄与することを目的に、本部町浦崎交差点及び本部町伊豆味区喜仙川線にジンベエ、クマノミの大型造形花壇を設置した。</p>	<p>・月報、ヒアリング等により確認した。</p>	<p>・業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
<p>移動水族館の実施 沖縄県内地域のまつりやイベント等で、依頼を受けての移動水族館（有料）を開催する。展示生物や沖縄の海に関する解説、プラゴミ問題等の環境保全に係る解説も併せて実施し普及啓発を行う。</p>		<p>沖縄本島内のまつりやイベント等会場において活魚車による移動水族館を開催し、沖縄の海に生息する魚類の生態展示、職員による展示生物や沖縄の海に関する解説等を行った（12件20,003名）。</p>			

<p>県外におけるプロモーション</p> <p>県外において、北部地域の自治体、観光協会、沖縄県、OCVB等と連携してプロモーション事業を実施する。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸三宮商店街にて、「どさんこしまんちゅフェスティバル」にOCVBと共同運営ブースを出展した。(期間：7/21～7/22) ・東京新宿にて開催された「第20回新宿エイサー祭り」にOCVBと共同運営ブースを出展した。(期間：7/29～7/30) ・OCVBが主催する「沖縄MICEセミナー&商談会(大阪・名古屋・東京)」へ出展し、MICEでの水族館活用についてPRを行った。(期間9/4～9/6) ・沖縄県およびOCVBと連携して、「本部港クルーズセミナー」へ参加し、水族館MICE誘客を行った。(期間：9/12) ・OCVBと連携して、「ツーリズムEXPOジャパン2024」に出展し、OCVB運営ブースにて当財団職員によるワークショップを実施した。(期間：9/26～9/29) 			
<p>やんばる旅ナビ(WEBSITE)の運営</p> <p>沖縄北部観光支援ナビゲーションサイト「やんばる旅ナビ」を運営し、沖縄本島北部「やんばる」の魅力的な観光情報などを発信し、やんばる地域の観光振興に寄与する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・北部の魅力的な観光情報を発信し、やんばる地域の観光スポットを紹介した。 <p>やんばる旅ナビPV数：1,068,255</p>			
<p>公園施設との連携</p> <p>熱帯ドリームセンターの入館者のうち、水族館の年間パスポートの提示またはセット券を利用した入館者については半額免除とし、免除額は水族館経費で負担することで、公園施設の利用促進に寄与する。</p>		<p>年間パスポート提示による利用者は4,833名、セット券による利用者は567名、合計5,400名が半額免除を利用した。</p>			
③地域連携事業					
<p>市民参加型調査</p> <p>地域・NPO団体等からの情報提供を受け、地域の生物相調査を実施し、その成果は各種講座の開催やホームページへの掲載等により共有する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ウミガメ産卵調査：地域住民からの情報提供や定期調査により、4-9月に産卵調査(嘉陽区17回、安部区21回、天仁屋区1回、伊是名島1回、金武町1回)を実施した。なお、伊是名島については、伊是名小学校依頼の出前授業対応(出張旅費のみ請求あり)時に調査を実施した。「上陸のみ」「産卵」の2項目の調査結果を美ら島自然学校ウミガメ飼育施設内で掲示し、施設案内で活用した。 ・ウミガメストランディング調査：地域住民からの情報提供により、本島東海岸におけるウミガメ死亡漂着個体の調査を3回実施した。調査結果については、水族館へ情報を提供した。 ・オキナワイボーイモリ調査：沖縄アミークスインターナショナル(うるま市)敷地内において同校児童とともに本種の生息状況調査を15回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月報、ヒアリング等により確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務計画書のとおり適切に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好に実施できている。

<p>環境保全活動の支援 沖縄本島及び周辺離島におけるビーチクリーンや赤土流出防止等の環境保全活動参加者へ水族館の入場券と引き換え可能な「エコクーポン」を提供する。</p>			<p>・海岸清掃などを行い、申請のあった16団体へ計1,035枚のエコクーポンを交付した。</p>			
<p>地域連携型プログラム</p> <p>地域民泊家庭との連携： 民泊利用者に対し、地域の動植物に関する解説・体験学習を実施する。</p>	○		<p>・久志地域の民泊事業者と連携し、県外の中・高生および一般グループ20件302名に対し、ウミガメをはじめとする地域の動植物に関する解説を実施した。 ・久志地域で受入れを行っている村おこしボランティア（ECOFF）の学生9名に対し、ウミガメ飼育体験および自然学校校内整備の体験を実施した。</p>			
<p>指導者育成講座： 沖縄の動植物、環境、海洋文化等、多分野の最新知見に関する講座を開催し、県内事業者のスキルアップを支援する。</p>			<p>・6月21日：学校教育やマリンレジャー関連に従事する事業者を対象に「海のキケン生物講習会」を実施した。（参加者：25名） ・7月26日：本部小学校教職員を対象に「本部町の自然を生かした環境学習」について講習を実施した。（参加者：11名） ・8月20日：独立行政法人国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校からの依頼により、「美ら海から学ぶ未来のリーダー養成塾」としてAI技術を用いたザトウクジラの尾びれ自動識別システムに関する講演を実施した。（参加者：40名） ・1月18日：琉大ハカセ塾の受講生を対象に、ウミガメを題材としたプログラム体験を実施した。（参加者：24名） ・昨年度、財団内の情報共有および業務への活用を目的に実施された「総合研究所情報共有座談会」の録画映像を、より多くの財団職員が閲覧できるよう、掲示板にて配信した。</p>			
<p>ビーチクリーン活動： 地域の方々と共に地域海岸等でゴミ拾いを実施。人工物が海洋生物にもたらす影響やマイクロプラスチック等の問題について職員が解説を行う。</p>			<p>・4月27日および12月28日：嘉陽区と共同で嘉陽海岸のビーチクリーンを実施した。 ・2月12日：本部町立上本部学園3年生と共同で、備瀬海岸のビーチクリーンを実施した。 ・3月26日：水族館職員および実習生と共同で、備瀬海岸のビーチクリーンを実施した。</p>			

公園関連事業					
1) 沖縄の太陽、花、海、文化を感じ、体験できる公園づくり					
①熱帯・亜熱帯性植物を活用した展示および健全な育成に関する調査					
1 熱帯・亜熱帯植物の収集および栽培に関する調査研究					
海洋博公園の利用促進や、魅力向上を図るため、公園内施設での展示充実や普及啓発、系統保存を目的として、熱帯性植物の収集、ならびに生育特性や肥培管理方法等についての調査を行う。 栽培試験および管理、設備維持・管理は熱帯植物試験圃場（公園外の当財団独自の圃場）にて実施、対象はラン類、熱帯花木・果樹、観葉植物、園芸草花品種、特殊緑化植物、沖縄産希少植物等となる。 これまでに沖縄に導入されていない観賞価値の高い熱帯性植物の原種、園芸品種等を収集・導入し展示に向けて栽培試験を行う。 調査成果は、国営公園管理業務受託者と連携して、海洋博公園内施設（熱帯ドリームセンターや熱帯亜熱帯都市緑化植物園等）で展示する。また、植栽植物の押し葉標本等を作成し展示に活用する。	○	・熱帯植物試験圃場（公園外の当財団独自の圃場）で育成管理されている、観賞価値及び話題性の高い、グラマトフィラムの大株（世界最大級のラン）、ペリカンバナ（奇妙な花）、パフィオペディルム（不思議なラン）、ペリステリア（珍しいラン）など60種210株を熱帯ドリームセンターで展示し、来館者満足度の向上に努めた。 ・ハンググライダーのモデルになった財団保有株である珍奇植物ハネフクベが熱帯ドリームセンターで開花結実し話題（同センターでは一昨年、国内で初めて結実に成功させ、今年度で3年連続）になった。 ・公園管理で発生する植物性残渣および飼料残渣である魚粕を混合して作製した有機堆肥について、ペチュニアおよびペゴニアの栽培における有用性を確認した。この結果は沖縄ブロック国土交通研究会および亜熱帯緑化事例発表会で発表した。 ・8月3、4日に、主に小学生を対象とした公園内の植物観察会と葉脈標本作成のイベントを開催した。2日間の参加者は計44名。事前に観察路沿いで採集可能な樹木の葉を採集して葉脈標本作成の試験を行い、作成条件の検討を行った。 ・10月26日に、「令和6年度国立自然史博物館誘致推進広報業務」のワークショップとして植物観察会と押し葉標本作成法の実習を行った。参加者は子供と保護者併せて約24名。この実習において標本用に園内の植物を採集した。 ・2月7～9日に、「ツバキ展」を熱帯ドリームセンターにて開催し、熱帯植物試験圃場で育成したツバキ20点の鉢物を出展した。他の展示や体験イベント等と組み合わせることで、入館者数や満足度の向上を試みた。期間中の入館者数は5,606名であり、満足度は9.1点であった。	・ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

<p>2 公園の植物管理技術に関する調査研究</p> <p>海洋博公園利用者の安全確保を図るために、公園内の樹木管理を国営公園管理業務受託者と連携して行う。また、植栽木の健全な育成および修景向上や快適性向上を図ることを目的に病虫害、腐朽、および有毒植物に関する調査を行う。病虫害の特定や薬剤防除試験を実施する。また、植物管理担当と樹木医資格取得者による園内巡回を行い危険木調査を実施する。調査結果をもとに、樹木医が衰弱木に対してガンマー線による非破壊の腐朽診断調査を行い、外観診断では判別できない樹木内部の腐朽状況を把握する。さらに、オキナワキョウチクトウの果実や茎葉の毒性を調査し、毒性の強い木と弱い木の判断基準を検討する。</p>	○	<p>・沖縄市等で発生しているソテツのカイガラムシ被害について、被害状況の把握と薬剤防除を行い、沖縄県立博物館・美術館と連携して被害本数の把握やその後の対応について協議した。それらの経験・知見を活かし海洋博公園における日常の園内巡視を強化徹底している。販売されているソテツの苗木にカイガラムシが付いていたこと等を、第136回日本森林学会大会と日本樹木医会沖縄県支部第6回研修会で発表して、植物防疫関係者・樹木医・研究者に注意喚起した。</p> <p>・ソテツを加害するカイガラムシに対して効果が確認できた散布用薬剤の審査を9月に行った。11月には同じく効果が確認された株元灌注剤の審査を行う予定である。</p> <p>・園内の倒木を受けて緊急点検を実施し、79本を経過観察、11本を枯損木や枝折れの危険性のある樹木と判断した。その11本は全て撤去した。また、79本のうち、γ線による腐朽診断が可能な、腐朽の可能性のある樹木（4本）を対象に腐朽診断を行い、診断結果から風倒の恐れのある程度の腐朽が無いことを確認した。下半期は、園内において腐朽の可能性のある樹木（3本）を対象に腐朽診断を行い、診断結果から腐朽が無いことを確認した。また、首里城公園内において腐朽の可能性のある樹木（2本）を対象に腐朽診断を行い、診断結果から腐朽が無いことを確認した。今後の海洋博公園での診断・管理の参考にしていく。</p> <p>・公園内への導入を目的として、防草資材エコクリーンソイルの試験導入5か月後に、高温等による影響でひび割れが見られたため、11月に施工業者によるひび割れの修繕を行った。ひび割れや雑草が散見されることから、公園内への導入は慎重に検討していく。</p> <p>・ギンネムに対して効果が確認できた木針剤の適用拡大を昨年10月に行った。その試験成果を令和6年度亜熱帯森林・林業研究会研究発表会にて発表した。</p> <p>・アカギのアカギヒメヨコバイ抵抗性評価試験法を確立した。加えて、唯一確認されている抵抗性アカギ株の抵抗性の原因が農薬由来ではないことを確認し、挿し木による増殖を開始した。今後、研究の成果を公園管理に応用していく。</p>										
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<p>3 蜜源植物に関する調査研究および普及啓発</p> <p>沖縄の蜜源植物に関する知見は不足しており、海洋博公園内へ植栽等が十分に行われていない。公園内の沖縄らしい景観形成や魅力向上および、蜜源植物の普及開発を図ることを目的に、ゾーニングの見直し、ならびにミツバチや蜜源植物を活用したプログラム等を構築する。公園内に導入したミツバチを活用し、自然環境とミツバチの関係を普及啓発する環境教育プログラムの計画を立案する。また今後導入する蜜源植物の選定やゾーニングなどを検討する。</p>	○	<p>・海洋博公園内において養蜂を引き続き実施した（3年目）。養蜂群の数は安定しているが、採蜜量が少なく7月に収穫することができなかった。高温のため開花に影響があった可能性がある。また、周辺環境に他養蜂業者が増加していることから、競争が起きてきていることも考えられる。都市緑化植物園と協力して蜜源植物の増殖を検討していきたい。</p> <p>・熱帯・亜熱帯都市緑化植物園（ハープ見本区）において、蜜源植物としてアニスヒソップリコリスブルーやペンタス、蜜源ラベンダー各種を植栽した。</p>														
<p>4 緑化関係事業への協力</p> <p>海洋博公園の利用促進、魅力向上を図ることを目的に、地域や外部関係団体と互いに連携し、公園の行催事への協力体制を構築する。外部団体主催の緑化催事やラン展等の協賛協力および広告掲載等を実施し、緑化に関する知識の普及や地域貢献、ならびに海洋博公園のPRを行う。</p>	○	<p>・第63回蘭友会らん展への賞品の提供、蘭友会の会報誌「蘭友」第63号および全日本蘭協会の会報誌「ORCHIDS」第64号への広告掲載に協力した。第34回北部らん友会秋の展示会、第37回沖縄県花き品評会、第79回JOGA洋らん展、第40回新報蘭フェスティバルおよび第55回春のらん展示会（北部らん友会主催、沖縄タイムス社共催）に協力した。</p> <p>・辺野喜ダム付近で開催されたイヌマキ祭の参加者へ配布する配布苗200株を、熱帯植物試験圃場（公園外の当財団独自の圃場）で育成管理されている余剰苗で対応した。</p>														
<p>5 緑化等に関する講習会</p> <p>熱帯・亜熱帯都市緑化植物園等の利用促進や都市緑化の普及啓発を目的に、沖縄における最新の緑化事例や緑化技術等の発表の場を設ける。「亜熱帯緑化事例発表会」を開催し、発表された事例をWEB配信し効果的に普及啓発を図る。</p>	○	<p>・9月13日に水族館イベントホール4Fにて「亜熱帯緑化事例発表会」を開催し、緑化事例に関する発表3件、緑化技術に関する発表を4件、計7件の発表を行った。県内行政、コンサルをはじめ地域の任意団体等の参加があった。地域での緑化事例だけでなく季節ごとの催事での草花装飾、サンゴの保護増殖や赤土流失防止対策のための緑肥植物を活用した緑化、AIを利用した緑化計画の試み、デイゴの害虫防除・開花調査など、幅広いテーマを扱ったことから、職業や専門分野など様々な方が参加された。後日、発表会の様子をYoutube配信し331回の聴講があった。</p>														

<p>6 国際ラン展等への参加および熱帯果樹・花卉類等の調査</p> <p>熱帯ドリームセンターの展示や国営公園管理業務受託者と連携した催事運営に活かすことを目的に、国際ラン展への参加および熱帯植物の調査等を行う。</p> <p>東南アジアにおいて開催される国際ラン展・園芸博覧会等への出展協力や審査委員の派遣を行い、情報交換を図る。</p>	○	<p>・5月16日から20日に台湾におけるパニラ栽培等の調査を実施した。台湾農業部桃園農業改良場、三合院香草園にてパニラ栽培の実際を視察し、植付方法、栽培管理、土壌混合比等の情報を得たほか、受粉方法や収穫後のキュアリングについても聴き取りを行った。また、台東地区においてドリアン栽培場を視察し、生産の状況を確認した。ドリアン接ぎ木の手法や施肥方法についても得ることができた。今後の熱帯ドリームセンターにおける栽培・展示に活かしていく。</p> <p>・3月8～23日に実施された2025アジア太平洋蘭会議（台湾）でランを用いたディスプレイ作品を出展した結果、入賞（佳作）を獲得した。各国のラン関係者と情報交換を行うとともに、水族館を含む海洋博公園、及び沖縄国際洋蘭博覧会のPRを行った。</p>			
②新しい園芸植物の開発および展示に関する調査					
<p>1 新しい園芸植物の開発および展示に関する調査</p> <p>海洋博公園の利用促進、魅力向上を図ると共に、花卉産業振興への寄与を目的に、花卉類や観葉植物等の有用種の導入、独自性の高い品種の開発、ならびに増殖技術の開発と展示に取り組む。</p> <p>品種の開発に取り組むとともに、国営公園管理業務受託者と連携して、新品種を熱帯ドリームセンターで展示する。</p>	○	<p>・沖縄在来のラン、ダイサギソウを使った純白で大きい花の新しい交配種ベクタベナリア ホワイトグリフィンを作出し、開花株に仕立て上げ、ドリームセンターで15株展示した（常時展示7-8株、期間中入れ替えあり）。取材5件と各種ネットメディアに取り上げられた。本展示を目的に来館したお客様も多数いたことから、入館促進に貢献した。</p> <p>・沖縄の野生植物、リュウキュウベンケイを品種改良して作出された花「ちゅららシリーズ」について、地元本部町の生産物を使用し、水族館出口や熱帯ドリームセンター温室内で装飾展示を行った。地域連携と独自性の高い展示を両立させることで、お客様満足度の向上に務めた。</p>	<p>・ヒアリング等により確認した。</p>	<p>業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

③琉球の希少植物の保護保全および展示に関する調査					
<p>1 琉球列島産希少植物の保護保全および増殖技術に関する調査研究</p> <p>公園内の希少植物を保全し、海洋博公園内施設（熱帯ドリームセンターや熱帯亜熱帯都市緑化植物園等）での植栽展示および展示会、ならびに観覧会等の普及啓発による利用促進や魅力向上を図ることを目的に、琉球列島の希少植物の生息域内保全（生育状況調査等）、生息域外保全（系統保存、増殖、野生復帰等）を行う。国営公園管理業務受託者と連携し、絶滅を回避するための実践的調査・研究、外来種の生息状況把握に取り組むとともに、普及啓発を図る。</p>	○	<p>・熱帯ドリームセンター・ファレノ温室の展示改修に伴い、沖縄県産の野生植物（いずれも保全目的で導入した増殖株）8種25株を育成し、会場内に植栽を行った。本展示改修は没入感のある沖縄の森を再現すべく、下半期も継続して作業を行うものである。</p> <p>・野外調査中に野生下で撮影した貴重なやんばる産希少植物約50種の生態写真を活用し、インターバル動画コンテンツを作成し展示の充実化を図った。</p> <p>・熱帯植物試験圃場（公園外の当財団独自の圃場）で栽培増殖した水草オギノツメ（沖縄県版：絶滅危惧IA類）を、水族館に展示している在来メダカ・水草展示水槽に捕植し水槽環境を向上させた。</p> <p>・2月1日～9日に開催された沖縄国際洋蘭博覧会に合わせて、沖縄島北部等での希少野生ランの調査成果を活用し、やんばるギャラリーで企画展「沖縄の珍しい野生ラン展～最近発見されたランたち～」を実施した。</p> <p>・熱帯亜熱帯都市緑化植物園のヒマモダマの結実させ（他家受粉でないと結実しない）誘客促進を図るため、石垣島より花（花粉）等をサンプリングし、受粉するとともに挿し木苗の養生を行った。</p>	・ヒアリング等により確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
<p>2 植物標本等の管理および有効活用</p> <p>海洋博公園内施設の展示充実や利用促進、魅力向上を図ることを目的に、標本、世界の珍しい種子、植物素材の繊維、染料、民具等の適切な管理・保存・収集を行うとともに、標本等の整理および展示、共同研究での活用等を行う。</p> <p>自然誌資料の充実を図るため、新規植物標本の採集・収蔵・交換を積極的に展開し、その成果を熱帯ドリームセンター等で展示するほか、普及啓発活動を行う。また、研究促進と危険分散を兼ね収集標本の重複品を共同研究者へと配布する。</p>	○	<p>・7月27日～9月1日に、「熱帯の不思議な種子展」を熱帯ドリームセンター「夏休みスペシャル」の一環として開催した。植物研究室が所有する種子標本70種、模型10点を貸与した。他の催事と組み合わせることで、入館者数や満足度の向上を試みた。期間中の入館者数は6,860名であり、満足度は9.5点であった。</p> <p>・沖縄県内各地（沖縄島、渡嘉敷島、石垣島、伊平屋島）および県外の調査で、計1345点（除重複）の押し葉標本を作成した。採集した標本の整理を進め、3114点の押し葉標本および12点の種子標本を、新たにOCF（沖縄美ら島財団）に登録した。今後、公園の展示などに活用していく。</p> <p>・海洋博公園内の旧植物管理センターに保管されていた未整理標本を、建物解体工事のため総合研究所に搬入し、殺虫・再乾燥の後に当財団独自の標本庫に整理のために移動した。</p>			

		<p>・重複標本を、東北大学植物園植物標本室(TUS)に交換のため発送した。その代わりに、同標本室から交換標本として琉球列島産標本を含む押し葉標本466点を入手してOCF標本として登録した。</p> <p>・10月26日に、「令和6年度国立自然史博物館誘致推進広報業務」のワークショップとして植物観察会と押し葉標本作成法の実習を行い、あわせて世界の植物標本庫に関する企画展を行った。この企画展に作成貼付済押し葉標本8点を展示した。</p> <p>・2月1日～9日に開催された沖縄国際洋蘭博覧会に合わせて、やんばるギャラリーで行った企画展「沖縄の珍しい野生ラン展～最近発見されたランたち～」の中でムニンキヌランモドキのアイソタイプを含む沖縄産のランの液浸標本4点と押し葉標本1点を展示した。</p>			
④沖縄の在来作物に関する調査及び普及啓発					
<p>1 沖縄の島野菜および伝統作物に関する調査研究</p> <p>海洋博公園内施設での栽培展示、収穫体験等に活用し、公園の利用促進、魅力向上を図ることを目的に、沖縄の島野菜および伝統作物等の系統保存、収集・導入・試験栽培・機能性の調査を行う。県内離島を含めた島野菜の遺伝資源探索を行う。また、これまでに収集された品目について栽培試験および教育普及活動等を実施する。</p>	○	<p>・おきなわ郷土村「本家」アタイグワーに植栽されているホソバワダンの栽培技術の指導などを実施した。上本部学園4年生の児童を対象にダイコン、ニンジンおよびネギの栽培体験学習を実施し、沖縄県在来系統と現在一般的な品種の差異について普及啓発を行った。</p> <p>・在来チシャ（本部町）の栽培試験を継続実施している。在来落花生（宮古島市城辺）、在来タイモ（宜野湾市大山）、在来ニガウリ（宮古島市城辺）、在来アズキ（宮古島市城辺）を収集し維持の為に栽培を行っている。在来タイモに関しては沖縄国際大学と共同でクロロプラスト（葉緑体）ゲノム配列を解読したので、論文投稿中。在来ダイコンの栽培試験を実施し、市販の「在来ダイコン」は本来の在来ダイコンとは地上部形態の差異があり、異なる系統である可能性が示されたため園芸学会にて発表を行った。今後、公園における在来作物の普及啓発や展示に活用していく。</p>	・ヒアリング等により確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

⑤沖縄等の海洋文化に関する調査・普及啓発						
海洋文化館の資料に関する調査研究 1 海洋文化館の展示資料の劣化防止を目的に、海洋文化資料（オセアニア・沖縄等）の管理保存に関する調査を行う。 R6年度は、海洋文化館の環境調査ならびに展示・収蔵品の保存状態調査を実施する。また、その成果を関係部署間で共有し、資料の適切な管理保存と展示に活用する。	○		<ul style="list-style-type: none">・総合研究所および国営公園管理業務受託者が連携して、以下の作業を実施した。・国内の博物館等貴重資料の展示・収蔵施設において近年、主流となっているIPM（有害生物管理）に基づき、海洋文化館において館内・収蔵庫内の温湿度データを集積・分析して展示資料の保存環境を継続的にモニターした。・館内の巡視を継続して実施し、資料の汚損・破損やカビ等の有害生物が発生していないか監視を行った。また、発生した場合は適宜、補修・除去するなど適切に資料の保存状態の維持・改善を行った。・8月には展示資料の状態調査を行い、状態写真を撮影して資料リストに反映した。・令和6年度には繰り返し有害生物の発生が確認されている資料を適切に管理し、かつ周辺への蔓延を防止するために、専用の展示ケースを製作するための調整を開始した。・適宜、館内・屋外の両収蔵室の整理を行い、資料の管理・保存体制を整えた。・12月に全館燻蒸作業の立ち会いを行った。	<ul style="list-style-type: none">・ヒアリング等により確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	<ul style="list-style-type: none">・良好に実施できている。
2 公園内施設の利用促進を図ることを目的に、海洋文化館の所蔵資料に関する調査を実施し、調査成果をもとに講座や体験プログラム等を実施する。 R6年度は、沖縄・太平洋地域の伝統航海術に関する専門講座「船と航海術」や、沖縄と太平洋地域の海にまつわる暮らしに関する専門的講座（海洋文化講座）を実施し、その普及啓発に努める。	○		<ul style="list-style-type: none">・海洋文化館を会場とする全4回の「海洋文化講座」を開催した。・沖縄県立博物館・美術館を会場とする全4回の「出張・海洋文化講座」（展示に関連する太平洋の食文化、漁撈文化、樹皮布文化などがテーマ）を実施した。・総合研究所および国営公園管理業務受託者が連携し、8月に海洋文化館においてギャラリートーク「祭りの中の漁労」を開催した。また12～1月に企画展「沖縄ウミンチュの世界『潜る』古谷千佳子写真展」を開催した。			

2) 人材育成・生涯学習に寄与する公園づくり					
① やんばる環境学習等の実施					
<p>1 やんばる環境学習 (学校・一般)</p> <p>海洋博公園を活用した普及啓発活動を行い公園の利用促進を図ることを目的に、北部地域の学校団体や一般団体と連携し、公園や地域の自然環境を活用した授業や講習会を実施する。</p> <p>R6年度は、学校団体向けとして海洋博公園の文化施設・自然環境を活用した授業を北部地域小中学校を中心に年間授業に組み込んで実施する。また、一般団体向けとして公園管理業務や調査研究により得られた成果やノウハウを基に、公園内の自然環境・各施設を活用した講座を実施する。</p>	○	<p>・本部町教育委員会の依頼に応じて5月28日伊豆味小学校にて3～6年生を対象に出前授業「熱帯ドリームセンターで栽培している熱帯植物の不思議で面白い話」を実施した。</p> <p>7月5日に伊豆味小学校3,4年生の現場学習を対応した。</p> <p>・上本部学園4年生：令和6年度も引き続き「沖縄の島野菜」をテーマに海洋博公園内（熱帯・亜熱帯植物園内）を活用した栽培実習を予定している。昨年度までは「もとぶ香りネギ」をおきなわ郷土村のあたいぐあを活用して栽培していたが、学校側と協議した結果、今年度は3種類の島野菜と普通種（ニンジン・ダイコン・ネギ）を植付け、成長等の比較を行った。上半期はそれに関する事前学習を2回実施、下半期は園内にて植付、計測、手入れ作業、収穫で5回実施し、振り返りと成果発表会で2回対応した。栽培体験では、島野菜と一般種との比較で、葉の形状や大きさ、害虫の発生有無などの違いが顕著に現れ、違いを知ることができた。</p> <p>・緑風学園3年生：海洋博公園で繁殖したウミガメ幼体を教材に、「地域のお宝」として、学校周辺の砂浜環境やウミガメについて学びを深める授業を上半期に3回実施した。下半期はウミガメ幼体の計測や給餌、甲羅掃除などの飼育実習を4回、調査研究・環境問題についての座学を1回実施した。学習成果として新聞にまとめ、2月21日に海洋博公園内（レストハウス）において、本部町の小学校と合同で発表会を行った。</p> <p>・本部町教育委員会からの依頼で、町内学校の教員研修（9名）を実施し、海洋博公園を活用した授業取り組みについて事例報告を行った。</p> <p>・県内幼小中高等学校からの依頼により出前授業を24件1,135名を対象に実施した。今年度は海洋博公園へ遠足で来園する前の園内の見どころや働くスタッフの仕事内容を希望する学校もあり、財団各部署と連携を図って対応した。また、身近な生きものに目を向けるため、本部町の自然環境を活用した「八重岳の蝶観察会」を本部小学校3年生を対象に実施した。</p>	・ヒアリング等により確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

<p>2 外部団体からの協力依頼 各種講習会展示会等の開催</p> <p>海洋博公園の管理運営で培った亜熱帯性動植物、沖縄の海洋文化等の普及啓発を目的に、一般市民（大人・子供）・学生・専門家等を対象とした講習会の開催や講演依頼に対応する。</p> <p>R6年度は、公園内施設や資源を関連付けた内容を中心に講座を行い、公園の魅力向上と利用者の満足度向上を図る。</p>	○		<p>・一般や学生、研究者を対象に、亜熱帯性動植物や海洋文化等をテーマとした講演会（オンラインを含む）を24件実施した。</p>			
③自主展示会の実施						
<p>1 自主展示会の実施</p> <p>沖縄県立博物館・美術館との連携により、所有標本やパネル等を用いた自主企画展を開催する（例：自由研究のタネ展、ザトウクジラ展等）。</p> <p>R6年度は、R5年度同様、夏休み等長期休暇における自由研究の補助、推進を目的とした展示を行う。</p>	○		<p>・7/30-8/4の6日間、沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）県民ギャラリー、県民アトリエにおいて、自主企画展「さがそう！自由研究のタネ～あなたの好奇心の花を咲かせます～」を開催。期間中には4テーマ（稚魚の標本図鑑作成、紅花の染色実験、マイクロプラスチック工作、糸車の糸紡ぎ体験）のワークショップも実施し、来場者数2,204名（入場者数：2,085名、ワークショップ参加者119名：昨年度比117.9%）を集客した。</p>	<p>・ヒアリング等により確認した。</p>	<p>業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
④大学講座への講師派遣						
<p>1 大学講座への講師派遣</p> <p>海洋博公園の管理運営で培った亜熱帯性動植物や沖縄の歴史文化の知識、公園管理のノウハウの普及啓発を目的に、県内大学へ財団研究員等を講師として派遣する。</p> <p>R6年度は、琉球大学、名桜大学等に講師を派遣し、公園の資源等を活用した内容の講義を行う。</p>	○		<p>・琉球大学へ計14名の講師を派遣して15回の講義を行い、延べ1,260名の学生が聴講した。</p> <p>・名桜大学へ計12名の講師を派遣して10回の一般公開講座を行い、のべ118名の参加者が聴講した。</p> <p>・沖縄ペットワールド専門学校へ計3名の講師を派遣して5回の講義を行い、のべ78名の学生が受講した。</p>	<p>・ヒアリング等により確認した。</p>	<p>業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>
⑤花・緑のボランティア養成および活動推進						
<p>1 ボランティア活動を通じた地域緑化へ協力推進</p> <p>海洋博公園内での緑化ボランティアスタッフを育成することを目的に、当財団認定の沖縄の花・緑コーディネーターの育成等を行う。</p> <p>国営公園管理業務受託者と連携し、沖縄に適した緑化植物や花の街づくりの知識に精通した人材を養成し、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園を拠点とした活動を推進する。</p>	○		<p>・令和6年度も引き続き「植物園ボランティア」を実施。ボランティアガーデンやハーブ園等の作業の他に、挿し木や播種～鉢上げ、株分け等のレクチャーも行い、参加者の技術向上・参加者同士の情報交換等を図っている。のべ162名の参加があった。（※7～9月は熱中症対策のため未実施。）</p> <p>・島野菜収穫体験イベントで使用している有機堆肥に興味を示す参加者の声を受け、今年度の下半期に実施予定の当該イベントでは堆肥作りも行えるよう準備を進めた。当該イベントは園内に発生した雑草を材料とする簡単な堆肥の作り方に関するレクチャーとして、10月に実施した。</p>	<p>・ヒアリング等により確認した。</p>	<p>業務計画書のとおり適切に実施されている。</p>	<p>・良好に実施できている。</p>

⑥琉球弧の造船・航海技術等に関する調査・普及					
<p>1 琉球弧における造船・航海等に関する調査・普及</p> <p>海洋文化館の利用促進や公園内での普及啓発活動の実施を目的に、琉球弧における造船・航海等に関する調査・普及啓発活動を行う。加えて、沖縄県内の造船・操船技術者等と協働で調査普及事業を行い、海洋博公園を拠点とした愛好者ネットワークを構築する。</p> <p>R6年度は、R5年度までの調査成果をもとに、琉球弧における造船・航海等の情報交換及び造船技術継承に向けた各種調査・普及啓発活動を実施し、関連従事者とのネットワークを構築する。</p>	○	<p>・6月に競漕儀礼（与勝地区）8月に海神祭（名護市安部）、9月来訪神儀礼（名護市安部）の実施状況を調査した。</p> <p>・令和2年度に漁業用サバニ建造を依頼し、その全過程を記録した南城市奥武島の嶺井藤一氏の孫（尚人氏）が、今年度一人でサバニの建造を行い、沖縄における木造船の技術を継承したことを確認した。</p> <p>・奄美大島原野農芸博物館の招聘を受け、沖縄のサバニと源流を同じくする丸木舟スプネの展示に関する調査と助言を行った。</p> <p>・海洋博公園を拠点とした愛好者ネットワークを通して沖縄県内の造船・操船技術者の現状について取りまとめ、12月1日に海洋文化講座の一環として海洋文化館で発表した。</p>	・ヒアリング等により確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
3) 季節を通して魅力を感じる公園づくり					
①国際規模行事や企画展の開催					
<p>1 沖縄国際洋蘭博覧会</p> <p>海洋博公園の利用促進や満足度向上、公園内施設の活用を図ることを目的に、沖縄国際洋蘭博覧会等の国際規模行事実施への協力を行う。加えて、実施協力により沖縄の観光振興へ貢献する。</p> <p>アジア・太平洋地域および国営公園管理業務受託者との連携の下、熱帯ドリームセンターで行われる国際規模のラン展示会開催に協力する。</p>	○	<p>熱帯ドリームセンターにて2月1日～9日に実施した。審査会は国外7か国1地域、県外28都道府県、県内17市町村から出展があり、出展数は9,882点であった。これに公園ラン10,550点を合わせること、大規模な展示となった。関連催事として、講演会、栽培相談コーナー、スタンブラリー、各種教室、特別展示を実施した。期間中の入館者数は15,725名、満足度（平均値）は9.4点であった。</p>	・ヒアリング等により確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

<p>2. 運営業務</p> <p>3. 自主事業</p> <p>取組改善案</p>	<p>・入場者数は過去最高であったH30年度372万人の9割を超えている。顧客満足度を維持するためには混雑緩和を図る必要があり、海洋博公園の他施設（熱帯ドリームセンター、海洋文化館など）へ誘導する取り組みを検討する必要がある。</p> <p>・展示・解説・誘導等ではデジタルサイネージを活用し、多言語表記に取り組んでいる。また、指定管理者が所有する各種資料のデジタルアーカイブ化に取り組んでおり、今後も引き続き取り組む必要がある。</p> <p>・アレルギー事故が2年連続で発生していることから、再発防止策を徹底して取り組むとともに、事故が発生するリスクを未然に防止できるよう、外部委託を活用しながら安全衛生管理に取り組む必要がある。</p> <p>・北地域の観光振興に向けて、やんばる旅ナビでの北部周遊プランの提案や地域特産品を使用した商品開発に取り組んでいる。引き続き、北部地域の魅力発信に取り組み、北部地域の滞在期間延長に向けた施策を検討する必要がある。</p>
--	--

II. サービスの質の評価

アンケート実施方法		WEB・現地併用アンケート		回答者数	2,728	アンケート内容	別紙参照
評価項目		第三者（利用者等）評価				指定管理者 自己評価	現状分析・課題
		令和5年度評価	令和6年度目標	令和6年度評価			
維持管理業務	施設・設備管理 （建物管理・清掃・植物管理）	S (98.7%)	90.0%	【施設の芝生・草花や植栽の手入れについて】 <満足度>99.0% ・満足62.1% ・どちらかという満足16.1% ・どちらかという不満0.6% ・不満0.2% ・利用していない3.5% ・無回答17.4% 【建物・設備の管理、衛生・清掃状態について】 <満足度>97.3% ・満足59.6% ・どちらかという満足19.3% ・どちらかという不満1.5% ・不満0.7% ・利用していない0.8% ・無回答18.1% <改善要望> とくになし	S (98.2%)	（要望への対応） 特になし （自己評価） 業務計画に基づき、適正な植物管理を行った。 水族館周辺や園路導線上に海の生き物の立体造形花壇等を設置し、花修景を演出した。 その他、衛生面、清掃面も適切に実施し、水族館利用者の快適性、満足度向上に努めた。	良好に実施できていることから、引き続き適切な維持管理を行い、利用者の満足度向上に努める必要がある。
	施設・設備管理 （水族館の展示内容）	S (97.2%)	90.0%	【生き物の展示について】 <満足度>98.1% ・満足68.7% ・どちらかという満足15.9% ・どちらかという不満1.2% ・不満0.4% ・利用していない0.8% ・無回答12.9% 【水族館内のショーや解説について】 <満足度>97.5% ・満足49.7% ・どちらかという満足16.7% ・どちらかという不満1.4% ・不満0.3% ・利用していない17.2% ・無回答14.7% 【オキちゃん劇場等のショーについて】 <満足度>95.0% ・満足30.2% ・どちらかという満足8.7% ・どちらかという不満1.3% ・不満0.7% ・利用していない40.8% ・無回答18.2% <改善要望> 夏場、観覧途中に水分補給を出来る場所が欲しい。	S (96.9%)	（要望への対応） 熱中症予防対策のため、オキちゃんパーラー付近に無料の「給水機」を設置した。 （自己評価） ブラックマンタ（ナンヨウマンタの黒化個体）やシライトイソギンチャクの繁殖個体、人工子宮措置生まれのヒレタカフジクジラの世界初展示を行った。また、ジンベエザメの「ジンタ」が3/11で世界最長飼育記録30年を達成したことを記念し、イベント等を実施した。 海獣施設においては、オキちゃん劇場の修繕工事によりショーの開催場所を隣接するイルカラゲーンプールにて実施したが、満足と回答した方がやや低下（対前年度比-1.5%）し、利用していないと回答した方が40.8%（対前年度+6.4%）と増加した。	良好に実施できていることから、引き続き多様な展示に取り組み、満足度向上に努める必要がある。
運営業務	接客対応	S (97.7%)	90.0%	【スタッフの対応について】 <満足度>98.2% ・満足52.1% ・どちらかという満足17.7% ・どちらかという不満0.8% ・不満0.5% ・無回答28.8% <改善要望> とくになし	S (98.2%)	（要望への対応） 特になし （自己評価） サービス向上に向けた日頃の取り組みが一定の成果を上げた。引き続きより多くのお客様に満足頂けるよう接客スキル向上や対応品質の均一化を目指した研修・フィードバックの充実を図る。	ビジネスマナー等の研修やサービス接遇に関する資格取得を積極的に行い、質の高いサービスの提供をするために効果的な人材育成を行っている。今後も継続したスタッフ教育に努める必要がある。

施設・設備 (売店、スナック、レストラン等)	S (93.5%)	90.0%	<p>【カフェ・レストランについて】 <満足度>91.6% ・満足17.2% ・どちらかというと満足8.3% ・どちらかというと不満1.6% ・不満0.7% ・利用していない53.4% ・無回答18.8%</p> <p>【ショップ・売店について】 <満足度>94.7% ・満足36.3% ・どちらかというと満足19.5% ・どちらかというと不満2.3% ・不満0.8% ・利用していない22.0% ・無回答19.1%</p>	S (93.2%)	<p>(要望への対応) 特になし</p> <p>(自己評価) 待合やオーダー方法などのDX化で、利便性の向上に努めた。また飼育部門と連携した商品や地元の特産品を使用した商品など、オリジナル商品を充実させることで満足度向上を図った。</p>	引き続き地域と連携したメニュー展開や、飼育生物にフォーカスした商品開発に取り組み、お客様満足度の向上を図る。また、店舗の環境整備を進め、利便性の向上に努める必要がある。
教室・プログラム	S (98.6%)	90.0%	<p>【美ら海オトナ塾11月「生活の場に海を選んだへビの話」】 <満足度>100% (満足100%) 【美ら海オトナ塾12月「冬の海のスーパースター！「ザトウクジラ」」】 <満足度>91.7% (満足83.3% ; やや満足8.3%) 【美ら海オトナ塾1月「絶滅の危機に瀕するカタツムリを救え！」】 <満足度>91.7% (満足58.3%、やや満足33.3%) 【美ら海オトナ塾2月「気持ち悪いけどなぜか魅力的！？魚にくつつく寄生虫の話」】 <満足度>100% (満足88.9%、やや満足11.1%)</p>	S (95.9%)	<p>(要望への対応) 特になし</p> <p>(自己評価) 18歳以上で年パス会員(無料)及び一般の方(有料)を対象に海洋生物等の知識の普及を図るイベントを開催した。当館ならではの専門的な調査・飼育の裏側を紹介する内容や実際に標本に触る体験が好評であった。</p>	日ごろの調査研究成果などより専門的な内容を交えたテーマを設定したイベントとなっており、昨年度までは年間パスポート会員限定としていたが、R6年度からは年パス会員以外も参加できるよう運用を変更した。引き続き、様々なテーマのイベントに取り組み、コアなファンの獲得に向けた企画の実施が必要がある。
総合評価 (各評価項目の平均)	S (97.1%)	90.0%	<p><満足度> 96.4%</p>	<p>評価 (②満足度)</p> <p>S</p>	<p>今後も適切な維持管理・運営業務に努める。</p>	満足度は総合的に高い。今後もアンケートやお客様の声を踏まえ、利用者の満足度向上を目指し取り組む必要がある。

【評価基準 (②満足度)】

総合評価においては各評価項目の満足度の平均

各評価項目においてはそれぞれの満足度

S : 90%以上

A : 80%以上、90%未満

II. サービスの質 の評価 取組改善案	<p>・各項目で満足度は高く、良好な管理運営を実施している。</p> <p>・11月から紙アンケートも再開し、より多くの意見を収集できるよう取り組んでいる。</p> <p>・通常のアンケートとは別に、WEBチケット購入者へのインタビュー形式のアンケートや市場調査を実施し、利用者の満足度向上やリピート意欲を高める施策の検討を行っている。引き続き、情報収集・分析を行い、今後の管理運営に課題解決に取り組む必要がある。</p>
----------------------------	---

Ⅲ. 財務状況の確認・評価

1. 収支

(1) 収入

収入項目		令和5年度 実績 (円)	事業計画 (円)	令和6年度 実績 (円)	前年比 (%)	対計画比 (%)	特記事項(変更理由等)
利用料金収入	入場料収入	4,634,761,510	5,164,887,000	5,441,148,815	117.4%	105.3%	【前年比】 ・入場者数増に伴う収入増。 ・旅行需要の回復による沖縄県への入域観光客数の増加に伴い、入場者数が増加。円安に伴いアジアを中心とした外国人旅行者も増加。
	売店等収入	3,862,515,980	4,359,913,000	4,378,969,118	113.4%	100.4%	【前年比】 ・店舗利用者数及び客単価の増に伴う収入増 ・物販は仕入価格高騰に対応して販売価格の見直しを順次行っている。
	計	8,497,277,490	9,524,800,000	9,820,117,933	115.6%	103.1%	
指定管理料		301,634,425	1,351,360,000	923,976,120	306.3%	68.4%	
雑収入	雑収入	5,262,000	300,000	7,739,983	147.1%	2580.0%	【前年比・計画比】 ・アジア海棲哺乳類ストランディングネットワークワーク ショップ受入及び外部診療に係る旅費、謝金等の増
	計	5,262,000	300,000	7,739,983	147.1%	2580.0%	
合計(A)		8,804,173,915	10,876,460,000	10,751,834,036	122.1%	98.9%	
〈現状分析・課題〉 ・旅行需要の回復により沖縄県への入域者が増加したこと、および円安が追い風となり外国人旅行者も増加したため、入場料収入が増加している。 ・客層に応じた商品構成や店内レイアウトの変更により、客単価が上昇し、売上増加につながっている。ジンタ30周年、オキちゃん50周年等のアニバーサリー商品など沖縄美ら海水族館ならではの商品開発を行っている。 ・R7年7月開園のテーマパークとの競合も想定されるが、水族館ならではの魅力を発信し、顧客満足度の維持、リピーターの確保につながるような長期的な視野をもった安定的な運営が必要となる。							

(2) 支出

支出項目		令和5年度 実績 (円)	事業計画 (円)	令和6年度 実績 (円)	前年比 (%)	対計画比 (%)	特記事項(変更理由等)
1	売上原価	5,823,305,322	7,012,577,000	7,050,893,697	121.1%	100.5%	
	＜施設維持管理＞	909,556,690	966,736,000	1,063,928,028	117.0%	110.1%	
	修 繕 費	29,328,786	24,468,000	21,651,553	73.8%	88.5%	【前年比・計画比】 ・台風被害による修繕がなかったことによる減 ・主な修繕は、入退場管理システムのプログラム改修、自動発券機の新紙幣対応、医療機器の修繕
	清 掃 費	157,616,652	158,070,000	173,873,630	110.3%	110.0%	【前年比・計画比】 ・労務単価の増
	植 物 管 理 費	67,596,312	68,600,000	69,864,784	103.4%	101.8%	【前年比】 ・北ゲート駐車場修景美化業務の実施（新規）
	動 物 管 理 費	128,666,430	165,510,000	155,366,882	120.8%	93.9%	【計画比】・飼料代や生物採集代の未執行による減 【前年比】・飼育動物の処置に伴う医薬品等の購入費の増
	建物維持管理費	429,839,272	506,745,000	552,481,867	128.5%	109.0%	【前年比・計画比】 ・労務単価の上昇に伴う増 ・経年劣化による修繕の増
	減 価 償 却 費	96,509,238	43,343,000	90,689,312	94.0%	209.2%	【計画比】 ・固定資産購入に伴う増
	そ の 他	0	0	0	-	-	
	＜利用者サービス費＞	1,591,417,966	1,944,637,000	1,976,740,402	124.2%	101.7%	
	人 件 費	1,302,842,073	1,419,759,000	1,592,121,920	122.2%	112.1%	【前年比・計画比】 ・定期昇給および最低賃金の上昇、人員増員に伴う増
	印 刷 製 本 費	42,153,995	46,440,000	52,899,557	125.5%	113.9%	【前年比・計画比】 商品袋印刷費の増
	利用者サービス費	74,412,060	99,475,000	76,966,388	103.4%	77.4%	【計画比】 ・開館時間の変更による警備員の配置減
	賃 借 料	38,086,932	73,130,000	51,407,614	135.0%	70.3%	【計画比】 ・業務の見直しやリース機器の確保に時間を要し、契約時期が変更となったことによる減 【前年比】 ・業務用車両の賃貸借の増

		委 託 費	122,856,378	289,715,000	196,708,110	160.1%	67.9%	【計画比】 ・人員補充が計画より少なかったことによる減 【前年比】 ・認知度調査やWEBチケット販売効果分析検証業務の実施による増
		遊 覧 車 負 担 金	11,066,528	16,118,000	6,636,813	60.0%	41.2%	【前年比・計画比】 遊覧車収支の改善による減
		<広告宣伝>	35,194,542	250,365,000	83,264,007	236.6%	33.3%	【計画比】 北部に開園予定のテーマパークへの対策で予算を計上したが、詳細情報がなく具体的な施策を実施できなかったことによる減
		<商品仕入れ>	1,960,776,229	2,213,036,000	2,232,597,231	113.9%	100.9%	
		<その他事務費>	1,326,359,895	1,637,803,000	1,694,364,029	127.7%	103.5%	
		消耗什器備品費	8,514,847	7,588,000	9,058,288	106.4%	119.4%	【計画比】 店舗什器の入替に伴う増
		消耗品費	55,497,237	63,983,000	69,144,332	124.6%	108.1%	【前年比】 ・経年劣化に伴う資材交換や熱中症対策に係る消耗品の購入増
		光熱水費	493,522,523	577,131,000	489,527,103	99.2%	84.8%	【計画比】 ・当初見込みより電気料単価が下がったことによる減
		支払手数料	347,381,926	426,067,000	432,598,831	124.5%	101.5%	【前年比】 ・クレジット決済の利用が増加したことによる増
		租税公課	365,446,926	460,720,000	614,406,029	168.1%	133.4%	【前年比・計画比】 売上増に伴う納付消費税、法人税額の増
		その他	55,996,436	102,314,000	79,629,446	142.2%	77.8%	【前年比】 ・県外プロモーション活動の増加に伴う旅費交通費の増
2		調 査 費	136,641,918	155,527,000	168,379,815	123.2%	108.3%	
3		販売費及び一般管理費	244,815,708	285,705,000	286,912,781	117.2%	100.4%	
4		県 へ の 固 定 納 付 金	1,159,267,000	1,159,267,000	1,159,267,000	100.0%	100.0%	
		<国有財産使用料>	297,267,000	297,267,000	297,267,000	100.0%	100.0%	
		<大規模修繕費等>	800,000,000	800,000,000	800,000,000	100.0%	100.0%	
		<県職員人件費>	42,000,000	42,000,000	42,000,000	100.0%	100.0%	
		<県モニタリング費>	20,000,000	20,000,000	20,000,000	100.0%	100.0%	
5		大規模修繕費用	301,634,425	1,351,360,000	923,976,120	306.3%	68.4%	
		小 計	7,665,664,373	9,964,436,000	9,589,429,413	125.1%	96.2%	
		公園関連事業	116,286,834	139,123,000	113,546,011	97.6%	81.6%	【計画比】 ・外部研究資金、助成金等の活用による減
		地域還元事業	50,117,785	15,619,000	40,305,088	80.4%	258.1%	【計画比】 イベント（サマーフェスティバル）経費の増
		歩合納付金 A	26,483,347	211,605,000	212,563,486	—	—	R6納付
		歩合納付金 B	0	672,608,000	546,977,950	—	—	R6納付
		合計（B）	7,858,552,339	11,003,391,000	10,502,821,948	133.6%	95.5%	
〈現状分析・課題〉 ・入場者数や売店収入の増加を受けて人件費、印刷製本費、租税公課等の経費が増加している。令和6年度は飲食施設の順番待ち管理システムやQRオーダー発注システムを導入するなどDX化にも取り組んでいる。 ・入館者数が増加する中で、北部地域にオープンしたテーマパークの影響を踏まえ、人材確保や水族館独自の魅力発信、広報に取り組む必要がある。 ・施設や設備の老朽化が進んでいることから、補修・修繕を適宜行う必要がある。								

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

2. 経営分析指標

評価指標	令和5年度 実績 (円)	事業計画 (円)	令和6年度 実績 (円)	前年比 (%)	計画比 (%)	特記事項
事業収支 (C) (収入(A)－支出(B))	945,621,576	△ 126,931,000	249,012,088	26.3%	-196.2%	指定管理料を除いた収入が増加し、収入の増加分より支出の増加を抑えられたことにより事業収支はプラスとなった。
収益率 (事業収支(C)／収入合計(A))	10.7%	-1.2%	2.3%	21.5%	-191.7%	事業計画では事業収支がマイナスだったが、対計画比で事業収支が3億7500万円増加、収入は12億2600万円増加した結果、収益率は上昇している。
利用料金比率 (利用料金収入／収入(A))	96.5%	87.6%	91.3%	94.6%	104.3%	
人件費比率 (人件費／支出(B))	16.6%	12.9%	15.2%	91.4%	117.5%	
外部委託費比率 (外部委託費合計／支出(B))	(1,182,665,510) 15.0%	—	(2,026,749,384) 19.3%	—	—	
利用者あたり管理コスト (支出(B)／利用者数)	2,956,092人 2,658	3,200,400人 3,438	3,438,536人 3,054	116.3% 114.9%	107.4% 88.8%	
利用者あたり自治体負担コスト (指定管理料／利用者数)	152,474,425 52	—	752,904,120 219	—	—	
〈現状分析・課題〉 ・仕入価格や光熱費の高騰、人件費の上昇が進む中、適切なコスト管理が重要となる。DXの活用などにより利用者あたりの管理コストを下げ、効率的な運営を行うことが望まれる。						

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

評価 (③財務状況)	A
------------	---

【評価基準 (③財務状況)】
 収益率 (事業収支／収入合計)
 A : 0%以上
 B : -5%以上、0%未満
 C : -5%未満

Ⅲ. サービスの安定性評価 (財務状況) 取組改善案	・県入域観光客数の増加に伴い、入場料収入・売店収入が増加し、業務効率化による経費削減を行ったことで安定的な運営を行っている。 ・今後も労務単価の上昇や物価高騰による経費の増が見込まれることから、引き続き誘客に力を入れるとともに、適切なコスト管理に努める必要がある。
----------------------------------	---

※「Ⅲ. 財務状況の確認・評価」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度 (R6年度) の主な取組改善案を記入すること。

【経営分析指標の評価の考え方】

評価指標	計算方法	評価の考え方
事業収支	収入－支出	事業収支がマイナスの場合、継続性の面で課題となるため、県、指定管理者で協力して黒字化のための方策を協議する必要がある。 ※計画や過年度実績に対し変動がある場合には、その要因を整理すること。
収益率	事業収支／収入	計画、過年度実績、類似施設と比較して、安定したものとなっているか、適切な範囲内となっているか確認する。 ※計画や過年度実績に対し変動がある場合には、その要因を整理すること。／※計画等に対し上昇している場合、必要な変動費が十分に充てられているか確認すること。また、計画等に対し減少している場合、当初の収支見込が適切であったか精査すること。
利用料金比率	利用料金収入／収入	指定管理者の主な収入源がどこにあり、それが安定したものであるのかを確認する。 ※過年度実績に対し増減がある場合には、利用料金そのものの増減によるものか、自主事業等その他収入の増減によるものかなど、その要因を整理すること。
人件費比率	人件費／支出	過年度実績や類似施設と比較して、適切な範囲内となっているか確認する。 ※変動がある場合には、人件費そのものの増減によるものか、その他支出項目の増減によるものか、その要因を整理すること。／※人件費の減少がある場合には、それにより効率が低下していないかを確認する。また、人件費の増加がある場合には、求められる管理水準に対し必要な措置が確認すること。
外部委託費比率	外部委託費合計／支出	過年度実績や類似施設と比較して、適切な範囲内となっているか確認する。 ※増減がある場合には、外部委託の範囲が仕様書等に定める適切な範囲内となっているか、外部委託の活用が業務の効率化に繋がっているか確認する。
利用者あたり管理コスト	支出／利用者数	利用者1人に対する管理コストについて、過年度実績や類似施設と比較することにより、当該施設の効率性を確認する。 (コストが抑えられていても利用者が減少していないか、あるいは利用者は増加しているがコストがかかり過ぎていないかなど) ※変動がある場合には、その要因を整理すること。／※過年度に対し上昇している場合、現状の利用者数に対して支出が過大になっていないか確認する。また、過年度に対し減少している場合、現状の利用者数に対し、必要な変動費が十分に充てられているか確認する。
利用者あたり自治体負担コスト	指定管理料／利用者数	利用者1人に対する県の財政負担を確認する。 過年度実績や類似施設との比較により、当該施設の効率性を確認する。

IV. 総合評価

1. 目標

1. 目標							
	評価項目	評価指標	令和7年度	令和8年度	令和9年度	—	目標設定の考え方
成果指標	①利用状況	利用者数	3,200,000	3,058,000	3,058,000	—	「R4-8国営沖縄記念公園運営維持管理業務民間競争入札実施要項」の海洋博覧会地区の公園利用者数を基に、水族館利用者数を算出（R7年度は入域観光客数を基に算出）
	②満足度	満足度	90%以上	90%以上	90%以上	—	S評価を目標とする。
財務指標	③財務状況	収益率	-4.0%	2.5%	2.5%	—	水族館利用者数を基に算出。

2. 評価結果

計画結果											
評価項目		評価指標	令和5年度	事業計画 (目標値)	令和6年度	前年比	計画比	現状分析・課題	評価 (点数)	取組改善案	令和7年度 目標値
成果 指標	①利用状況	利用者数 (人)	2,956,092	3,200,400	3,438,536	116.3%	107.4%	・アフターコロナ後の旅行需要増加や円安による海外旅行から国内旅行への切り替えなどにより、入域観光客数が増加したことで前年度実績及び目標値を上回っている。	A (10)	・引き続き、国や県、北部地域等と連携した誘客活動や施設の魅力を伝える広報の強化を行うことで、さらなる国内外からの入場者数の確保を図る。	3,200,000
	②満足度	満足度	97.1%	90.0%	96.4%	99.3%	107.1%	・多様な来園者のニーズを継続的に収集しながら、管理運営の改善に活かしていく。	S (20)	・今後も適切な維持管理・運営業務に努める。 ・利用者数の増加が混雑の原因となり、満足度の低下に繋がることが無いよう留意する。	90%以上
財務 指標	③財務状況	収益率	10.7%	-1.2%	2.3%	21.5%	-191.7%	・事業計画では事業収支がマイナスだったが、効率的な運営により収益率はプラスとなった。	A (5)	・入場者数の増加や売店等収入を含めた客単価の向上等により収入の確保を図り、同時に業務効率化による経費節減を進めることで、適切なコスト管理に努める。	-4.0%
活動 指標	④重点取組事項	体験プログラムの 充実	162,475人	—	151,474人	93.2%	—	・海獣施設の工事に伴い体験プログラムが一部休止したため前年比が減となった。	—	・引き続き体験プログラムおよびイベント等の充実を図り、取り組みを継続するとともに、体験機会の増加を図る。	
総合評価		・利用者のニーズに合わせた効率的な施設運営を行なっている。引き続き体験プログラムやイベント等も活用し、魅力度・満足度の向上に取り組むと同時に、利用者増に対して混雑緩和対策等に取り組み、満足度の低下に繋がらないよう対策を行う必要がある。							A (35)		

※重点取組事項の「評価指標」には具体的な取組内容を記載すること。

※「総合評価欄」には、モニタリングの実施結果に基づき、施設の管理運営が適正に行われているか所見を記載すること。

※「現状分析・課題」、「取組改善案」はⅥ～Ⅷから転記する。

※「 $\alpha+1$ 年度目標値」は、「取組改善案」を踏まえ、現年度の目標を可能な限り数値目標として設定する。

【評価基準】

①利用状況

目標値に対する達成率

S：110%以上

A：100%以上、110%未満

B：80%以上、100%未満

C：80%未満

②満足度

総合評価における満足度（各評価項目の平均値）

S：90%以上

A：80%以上、90%未満

B：70%以上、80%未満

C：70%未満

③財務状況

収益率（事業収支／収入合計）

A：0%以上

B：-5%以上、0%未満

C：-5%未満

④重点取組事項

目標に対する評価

S：目標を大きく上回る

A：目標を概ね達成

B：目標を下回る

C：目標を大きく下回る

【各評価項目点数】

	① 利用状況	② 満足度	③ 財務状況	④ 重点 取組事項
S	20	20	—	10
A	10	10	5	5
B	0	0	0	0
C	-10	-10	-5	-5

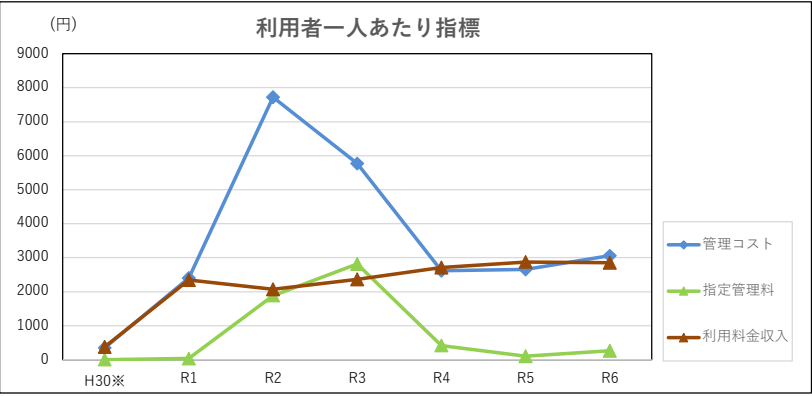
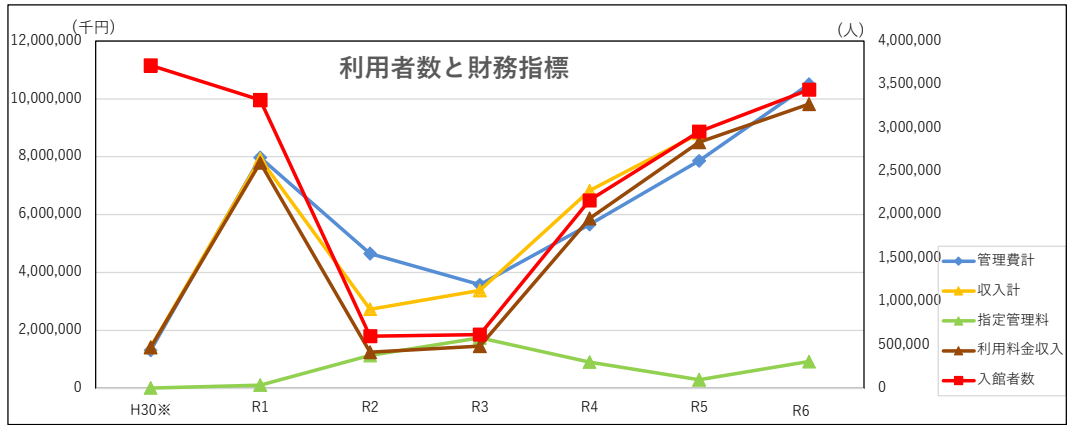
【総合評価基準】

	総合評価基準
S	40点以上 かつ各評価項目においてC評価がないこと
A	25点以上
B	10点以上
C	5点以下

経営状況分析シート 【施設名称：沖縄県国営沖縄記念公園内施設（海洋博地区内施設）】

指標				国管理										沖縄県指定管理							
			単位	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30※	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
成果指標	入館者数	目標	人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,640,000	720,000	1,660,000	1,519,000	2,810,000	3,200,400	
		実績	人	3,100,730	2,790,649	2,715,090	2,720,887	2,811,480	3,043,776	3,230,468	3,408,521	3,628,332	3,784,132	3,718,446	3,320,018	602,503	620,115	2,164,514	2,956,092	3,438,536	
		目標比	%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	91.2%	83.7%	37.4%	142.5%	105.2%	107.4%	
		H30比	%	83.4%	75.0%	73.0%	73.2%	75.6%	81.9%	86.9%	91.7%	97.6%	101.8%	100.0%	89.3%	16.2%	16.7%	58.2%	79.5%	92.5%	
	満足度	実績	%											97.9%	98.3%	96.3%	96.2%	97.4%	97.1%	96.4%	
財務指標	指定管理料		千円											13,648	118,911	1,135,607	1,745,840	909,790	301,634	923,976	
	県負担割合 (指定管理料／管理費計)		%											1.0%	1.5%	24.4%	48.8%	16.1%	3.8%	8.8%	
	利用料金収入		千円											1,412,720	7,792,152	1,248,073	1,463,667	5,874,778	8,497,277	9,820,118	
	利用料金比率 (利用料金収入／収入計)		%											99.0%	98.2%	45.6%	43.2%	86.0%	96.5%	91.3%	
	収入計		千円											1,427,027	7,931,912	2,735,369	3,387,343	6,828,092	8,804,174	10,751,834	
	管理費計		千円											1,314,075	7,974,556	4,652,909	3,578,950	5,661,586	7,858,552	10,502,822	
	収支		千円											112,952	-42,644	-1,917,540	-191,608	1,166,505	945,622	249,012	
	収益率（収支／収入計）		%											7.9%	-0.5%	-70.1%	-5.7%	17.1%	10.7%	2.3%	
/単位	一人あたり管理コスト		円											353	2,402	7,723	5,771	2,616	2,658	3,054	
	一人あたり指定管理料		円											4	36	1885	2,815	420	102	269	
	一人あたり利用料金収入		円											380	2,347	2,071	2,360	2,714	2,874	2,856	

※沖縄県による管理が平成31年2月から開始されたため、入館者数以外については、2ヶ月分の結果となっている。管理以前の入館者数については、国営沖縄記念公園事務所パンフレット参照



実績変動の要因分析

令和6年度	<ul style="list-style-type: none">・アフターコロナ後の旅行需要増加や円安により海外旅行から国内旅行への切り替えなどにより、入域観光客数が増加したことで、入館者数も計画に比べて増加した。・利用料金収入の増加、客単価の上昇と効率的な業務実施により事業収支は増加し、収益率も計画より向上した。
-------	---